令和6年度 目高市

コミュニティ・スクールを基盤とした 小中一貫教育

― 日高市教育に関する総合的な施策の大綱 ―

基 本 理 念 「 まちづくりは、人づくり 」 日高市教育ビジョン 「 自らの力と人との絆で 未来をつくる 日高の教育 」 日高市小中学校未来構想 目指そう!「 気は優しくて 力持ち 」



令和6年4月1日発行 日高市教育委員会 日高市小中一貫教育推進委員会

理念から具現へ

~ コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育のさらなる推進 ~



日高市教育委員会教育長 中村 一夫

ここ数年、日高市の教育は大きな変革期にあります。平成28年の教育長就任時、私は今後の日高の教育をどのように展開していくべきか悩みました。その中で、6つの地域に1小学校、1中学校、1公民館があるという日高市の特色を最大限に生かし、地域に根差した教育を展開できないかという考えにいきつきました。日本の教育も大きな変革期でした。平成28年には学校教育法の改正により「義務教育学校」の設置が可能になりました。また、平成29年には地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」の設置の努力義務化が決まりました。さらに、日高市においても主に施設面の問題から、平成28年「日高市公共施設等総合管理計画」、平成29年「日高市公共施設長寿命化計画」、平成30年「日高市公共施設長寿命化計画」、中成29年「日高市公共施設再編計画」と学校の統合へと大きな流れが生じました。児童生徒数の急激な減少も大きく影響しました。

このような一連の流れの中で「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の実現へ向け多くの議論を重ねていただき、令和元年度に高萩小学校、高萩中学校で、令和2年度から全地区で「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」がスタートしました。

ところが、スタート直後に新型コロナウイルス感染症のまん延という未曽有の事態を迎え、教育活動そのものが大きな制限を受けました。子供たちの交流もままならず、具体的な小中一貫教育の実施が阻まれました。しかし、その間も多くの方々のご尽力により、各地区の学校運営協議会は計画通りの回数を実施することができました。また、地域学校協働本部の設置、ふるさと科の設定等々、新しい日高の教育の実現へ向けて着実に形を整えていただきました。そして昨年度は県内2校目となる義務教育学校武蔵台小中学校が開校し、この4月からは高根小中学校が開校しました。

この間、日高市小中一貫教育推進委員会の先生方には、これらの大きな変革の中核として研究を重ねていただき、様々なご提案をいただきました。また、大変お忙しい中、本冊子を作成し、その事業報告及び研究成果をご提示いただきました。心より感謝申し上げます。

4年間にわたるパンデミックも一応の終焉を迎えました。もどかしい時間が続きましたが、 むしろこの間に多くの方々に「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」の理念

をご理解いただけたと感じています。日常の教育活動が戻った今こそ、理念から具現へと大きく前進する時だと思います。「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」のさらなる充実のために、日高市小中一貫教育推進委員会の先生方を始め、多くの皆様方の益々のご尽力をお願いいたしまして、ご挨拶といたします。



コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の再スタート



日高市小中一貫教育推進委員会委員長 志村憲一

令和2年度から「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」が全地区でスタートしました。しかし、スタートして早々に新型コロナウイルス感染症の影響で子供たちの交流等、教育活動が制限され、ましてや小・中学生が交流することは大変難しい状況でした。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下がり、少しずつ通常の活動ができるようになってきました。ここから本格的な教育活動が再スタートしました。

コロナ禍で一人一台のタブレット端末の活用やリモートでの会議など、コロナ前とは教育環境が大きく変わりました。その環境をうまく生かしながら今まで培ってきたよい部分を継続していくような活動が進められてきたことと思います。

本委員会の今年度の活動は、昨年度まで研究してきたものをベースに日高市の小中一貫教育の特色の一つでもある「ふるさと科」に重点におき、話合いを進めていきました。

ふるさと科については、地域の協力がある本市の強みを生かした教育課程です。各地区で 今まで実施してきたことをもとに、各地区で工夫し、その地域ならではのふるさと科が実施 できるような計画を作成することができました。

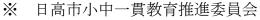
委員は、各校の教育課程編成の実務を担っている主幹教諭・教務主任で構成されています。 日高市の将来を見据え、今後の日高市の小・中学校のあるべき姿を委員が中心となり熱の入った協議が進み、主体的な研究となりました。誰しもが小中一貫教育を成功させようという 意気込みに溢れ、情熱ある教師の姿を見ました。時間が足りないほどでした。

この冊子につきましては、それぞれの委員が委員会で見出した課題を学校に持ち帰り、子供たちの実態に応じた内容を小・中学校の教職員が話し合い、そしてその学校区ならではの小中一貫教育の研究としてまとめたものです。先生方の知恵と経験が結集した冊子となっています。この研究冊子の内容が、特効薬とはいかなくても、漢方薬のようにじわじわと効いてくることでしょう。みなさんの教育活動の一助になれば幸いです。

「すべては日高の子供たちの笑顔のために・・・」

結びに、本委員会の運営にあたり、ご尽力いただきました日高市教育委員会学校教育課教育指導幹小坂井啓二様に感謝すると共に、日高市内の小中一貫教育に向けた取り組みがさらに発展しますことを祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

		頁
1	日高市小中学校未来構想	1
2	本年度の最重点課題	1
3	日高市学校運営協議会について	1
	(1) 学校運営協議会の定義	1
	(2) 学校運営協議会設置の趣旨	1
	(3) 日高市学校運営協議会の企画	$1 \sim 3$
	(4) 地域学校協働活動(本部)について	$4 \sim 6$
	※参考	
	令和5年度学校運営協議会報告等	$7 \sim 1 \ 2$
	第3回日高市コミュニティ・スクール研修会記録	1 3
	令和5年度日高市地域学校協働活動成果と課題	$1.4 \sim 1.5$
	日高市学校運営協議会規則	$15 \sim 17$
	日高市地域学校協働活動設置要綱	$17 \sim 18$
4	日高市小中一貫教育について	1 9
	(1) 日高市小中一貫教育の目的	2 0
	(2) 日高市小中一貫教育導入の背景	$20 \sim 23$
	(3) 日高市小中一貫教育の特色	2 4
	(4) 新しい学年段階の設定と学びの工夫	$24 \sim 26$
	(5) 小中一貫した教育課程の編成・実施に関する取組	2 7
	①小中共通目標	$27 \sim 44$
	②小中一貫教育に係る教育課程の編成	$45 \sim 48$
	③小中一貫教育に係る各地区の特色を生かした取組	
	【施設一体型義務教育学校】	$49 \sim 76$
	【施設隣接型・分離型小中一貫校】	$7.7 \sim 1.0.5$
	(6) 令和5年度小中一貫教育推進委員会の取組	$106 \sim 111$
	○参考資料等	1 1 2 ~ 1 1 9
	♥ □ 古士 I 由 田松古州 坐 壬巳 ヘ	







令和6年度

日高市 コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育について 日高市教育委員会

1 日高市小中学校未来構想 「目指そう! 気は優しくて 力持ち」

<日高市教育ビジョン:自らの力と人との絆で 未来をつくる 日高の教育>

- 2 本年度の重点課題 「地域の特色を生かした小中一貫教育の推進」
 - ○義務教育学校 高根小中学校・武蔵台小中学校教育体制への支援
 - ○義務教育学校 高麗小中学校開設に向けての準備
 - 〇小中一貫教育における特長を生かした教育課程の編成と「ふるさと科」の推進
 - ○各地区課題解決のための地域学校協働活動の実践
- 3 日高市学校運営協議会について
- (1) 学校運営協議会の定義

文部科学省では、「学校運営協議会制度を導入した学校」を、コミュニティ・スクールとしている。そして、学校運営協議会とは、「教育委員会規則で定めることにより、当該学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関」と定義している。日高市は小中一貫教育を市内全校で進めていくことから、小中一貫教育を支える基盤とするため市内6地区すべての小・中学校区で一つの学校運営協議会を設置した。

【日高市学校運営協議会】

高麗地区学校運営協議会 高麗川地区学校運営協議会 高萩地区学校運営協議会 高根地区学校運営協議会 高萩北地区学校運営協議会 武蔵台地区学校運営協議会

(2) 学校運営協議会設置の趣旨

日高市では、平成18年度より、各校に学校評議員制度を導入し、家庭・地域との連携を通して、地域に開かれた学校づくりを進めてきた。そして、平成29年地方行政法の一部改正により学校運営協議会設置が努力義務化されたことに伴い、本市も地域に開かれた学校から一歩踏み出し、「どんな子供を育てるか。何を実現していくか。」という目標・ビジョンを地域と学校が共有し、一体となって子供たちを育む、地域とともにある学校を目指していくために学校運営協議会を設置した。

- (3) 日高市学校運営協議会の企画
 - (ア) 委員の任命と公募(推薦) について
 - 1 一の協議会は、委員 12 人以内をもって組織する。
 - 2 委員は、次に掲げる者について、教育委員会が任命する。
 - (1) 対象学校の所在する地域の住民
 - (2) 対象学校に在籍する児童又は生徒の保護者
 - (3) 社会教育法第9条の7第1項に規定する地域学校協働活動推進員その他の対象学校の運営に資する活動を行う者
 - (4) 対象学校の校長
 - (5) 前第4号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者
 - 3 教育委員会は、前項第1号に掲げる者のうちから委員を任命する場合 は、公募するものとする。

上記(1)地域住民については、「公募」とする。また、学校は、年度末に、教育委員会へ翌年度の委員の「推薦」を行う。教育委員会は、公募結果と学校からの推薦書をもとに、委員の任命を行う。

日高市では、小中一貫教育を導入する関係から各地区一つの学校運営協議会となり、委員の人選は各地区の小学校と中学校で協議した上で推薦する。

(イ) 委員の任期、身分等について

(任期)

委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

委員は、地方公務員法第3条3項に定める特別職の地方公務員とする。

(守秘義務)

委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(ウ) 委員の役割について

(所掌事項)

協議会は、法第47条の5第4項から第7項までに規定する事項のほか、前条の設置の目的に係る協議の対象とする小学校及び中学校につき、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 学校教育法施行規則第79条の9第1項の規定により小学校における教育と中学校における教育を一貫して施すための必要な支援に関すること。
- (2) 小学校及び中学校において相互に密接に連携し、その所在する地域の特色を生かした教育活動を行うための必要な支援に関すること。

法第47条の5第4項の教育委員会規則で定める事項は、次に掲げる事項とする。

- (1) 教育目標及び学校運営に関する事項。
- (2) 学校施設の管理に関する事項。
- (3) 法第47条の5第7項の教育委員会規則で定める事項は、対象学校の職員の採用、転任及び昇任に関する事項(特定の個人に関するものは除く)とする。

学校運営協議会の要となる権限は、「基本方針の承認」であり法律に規定され、学校 運営協議会が必ず行うこと(必須)とされている。具体的には、会長が進行する協議の 中で、小中学校長の説明を受けて協議し、承認する形となる。万一、協議会と校長の意 見が異なった場合は、議論を尽くして改善等を図るようにする。

承認時期は、PDCAの視点から年度末(会議の最終回)に学校評価と併せて次年度の経営方針等について説明し、承認を得るようにする。但し、新年度に、校長の定期異動や委員の交代等もあることが予想されるので、新年度に改めて説明し、委員の理解を得るようにすること。

基本方針の承認以外の権限・機能としては、他に「学校運営等に関する意見の申し出」と「教職員の任用に関する意見の申し出」等がある。学校運営協議会は、当該学校の運営全般について、広く保護者や地域住民等の意見を反映させるべきであるので、小さな意見も大切にするようにすること。

尚、本市では、学校運営協議会が小中一貫教育を支えるという考えから、会議で具体的な学校支援策を協議したり、地域の特色を生かした活動を協議したりする。その際は、学校、家庭、地域、それぞれの立場から何ができるかを話し合うようにすること。

(エ) 組織作りと年間会議等の計画作りについて

(会長及び副会長)

- 1 協議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 2 協議会に副会長を置き、会長がこれを指名する。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

- 1 協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。
- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。 (日高市学校運営協議会規則第8条より)

(会議の年間計画例)

- 1 学期(4月~8月) □会長と副会長の指名 □学校運営の基本方針等の承認 □目指す児童・生徒像、年間テーマ等についての協議
- 2 学期(9月~12月) □学校の教育活動についての支援・参画に関する協議 □学校、家庭及び地域における教育課題解決の協議

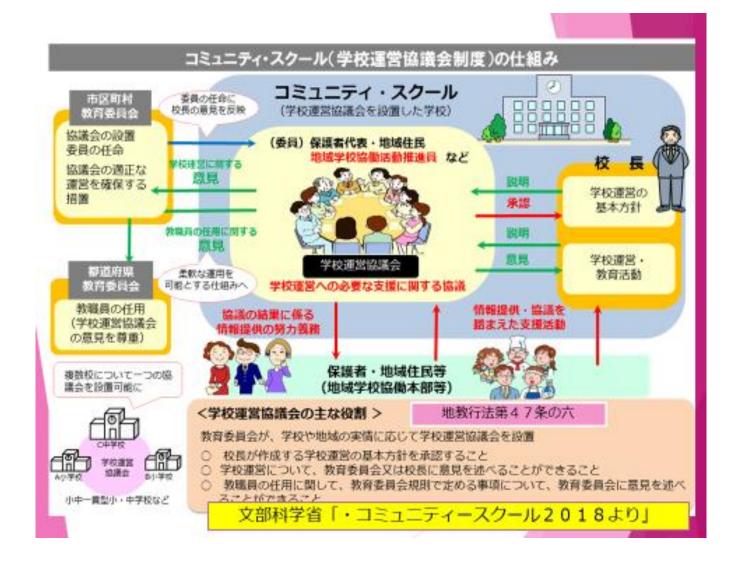
□小中一貫教育推進への具体的な支援の協議 ※必要に応じて、部会(委員会)の開催 ※必要に応じて、「熟議」の活用 3 学期(1月~3月) □学校の運営状況等の評価(学校評価)についての協議 □次年度の学校運営の基本方針についての協議、委員選出

日高市学校運営協議会の一年

1 学期 3 学期 2 学期 目指す15歳像の実現に向けて、学校・家庭・地域が一体となって取り組む活動 各 地 〇任命書受領 ○年間予定に基づいた協議

■ ○学校評価の実施』 ○顔合わせ ○必要に応じて「熟議」の取り入れ ○ 1 年のふり返り X ○必要に応じて「部会(実働組織)」の設定₩ (テーマ、予定等)⋅ ○会長等の選出 ○教育計画の確認 〇フリータイム ※自由意見の場づくり。 〇次年度人事構想。 〇年間テーマ、予定 ○教職員の参加・・・提案毎 ・交代制 等 〇次年度教育計画 等の協議 の承認⊌ 学校の教育活動、教職員人事への意見(通年) 学校評価の実施 市 次年度教育計画の承認 全 任命書の交付 フォーラム、シンポジウム等(情報交換、 研修会(共通理解) 次年度委員の推薦書、 体 新たな知識の獲得等)の開催

年間計画書の市教委提出



(4) 地域学校協働活動(本部)について

学校運営協議会は、学校の課題や目標、具体策等を協議していく機関であり、地域学校協働本部は、その協議されたことを実際に実現するために、より多くの幅広い層の地域住民や団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成して地域学校協働活動を推進する組織である。

① 地域学校協働活動とは

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、民間企業、団体、機関等の幅広い参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動(社教法第5条第2項)。

② 地域学校協働活動の例

- ・放課後等の学習支援・体験活動等(放課後子供教室・地域未来塾等)
- ・学びによるまちづくり・地域課題解決型学習(地域活性化の方策、提案、地域職場体験学習、 伝統文化芸能学習等)
- ・学校に対する多様な協力活動(登下校の見守り、読み聞かせ、授業補助、企業の出前授業等)
- ・地域の行事等への参画(ボランティア体験活動、伝統行事への参加、学習・防災訓練への参画)
- ・家庭教育支援活動(保護者が学び合う機会づくり)

③ 日高市の現状

日高市では、6地区の学校運営協議会で熟議を重ね、令和3年~4年度に地域学校協働本部立ち上げにかかる説明会を開催した。地域の健全育成会や区長会、地区の安全を担う団体、企業、文化サークル等様々な方々に呼び掛けて、日高市のコミュニティ・スクールと小中一貫教育、そして地域学校協働活動について理解を図り、協力をお願いした。また、令和4年11月に第1回日高市地域学校協働活動推進員連絡協議会を行い、日高市の取組や各地区の進捗状況について話し合った。これまで学校にかかわっていただいた各団体や有志の方、これから協力をいただける方々を組織として整理・統合し、各地域の特色を生かした地域学校協働本部として人材のネットワークを広げ、学校の様々な課題に対応するとともに、地域の方々の生きがいにつなげることを目的として地域学校協働活動を行うことを確認し、全ての地区で地域学校協働本部を立ち上げた。現在は公民館が事務局として積極的に関わり、推進会議も定期的に開催しながら学校と地域の活性化を目指して取組を進めている。

④ 導入の効果・成果

- ・子供たちの「コミュニケーション能力の向上」や「地域への理解・関心」の深まりが期待できる。
- ・地域の方々の学校への関心・理解が深まる。
- ・安全や防災について、学校と地域の共有化を図ることができる。有事の際にその効果が現実 に発揮された例もある。
- ・地域住民の生きがいややりがいにつながる。

⑤ 導入のプロセス・留意点

- ・学校や地域の課題は何かを明確にすること。
- ・目的の設定・周知理解促進。 → 人材確保・養成 → 実践改善
- ・地域住民の十分な理解と協力が必要=仕組みが定着するまで教育委員会主導で行う。
- ・学校、学校運営協議会、公民館と地域学校協働活動推進員の連携が重要。情報を共有する。
- ・人材は課題解決のため必要な人を広く募る。名簿による管理を行う。
- 無理をしない。できる人が、できる事を、できる時に行う。
- 安全に活動するための保険加入を検討していく。
- ※協働とは「立場の異なる人たちが同じ目的のために対等の立場で協力して共に働くこと」
- ⑥ 地域学校協働活動推進員とは = 地域と学校をつなぐコーディネーター
- 教育委員会が委嘱する。

(社教法第9条の7)

- ・地域学校協働活動の企画・立案
- ・関係者との連絡・調整
- ・地域ボランティアの募集・確保

(地教行法第47の5)

- ⑦ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するための3つの視点
 - ア. 関係者が当事者意識をもって「熟議」を重ねること
 - イ. 学校と地域の人々が「協働」して活動すること
 - ウ. 組織としてのマネジメント (PDCA サイクル) (文部科学省 HP から)

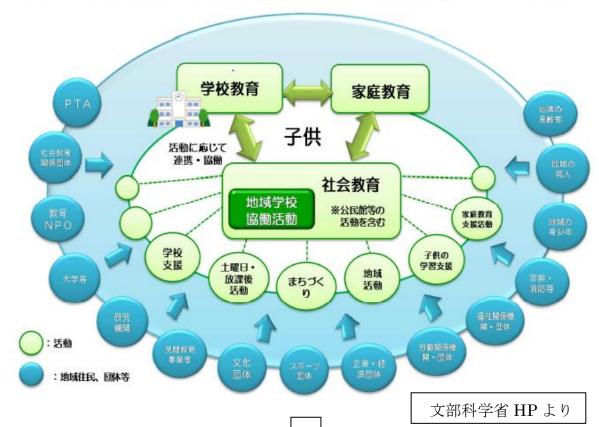
参考:令和2年度 埼玉県コミュニティ・スクールフォーラム講演 「これからの学校と地域~これからの学校運営協議会と地域学校協働活動」より

地域と学校の協働体制の概要 学 校 (コミュニティ・スクール) 地域学校協働活動推進員 地域と学校をつなぐコーディネーターの役割 教職員 勢職員 ・地域住民と学校との情報共有・地域住民等への助言等 教育委員会が委嘱することができる (社会教育法第9条の7) 規定される。 保護者 想定される対象者: ・地域コーディネーターやその経験者 ・PTA関係者・経験者 ·尼爾森 ·退職教職員 ·自治会·青年会等関係者 ·公民館等社会教育施設関係者等 学校運営協議会 地域学校協働本部 ★地域の人々や団体による「緩やかなネットワーク」を形成した任意性の高い体制 保護者 地域学校協働活動推進員 地域住民 など 240003 ※従来の学校支援本部等をベースに学校と地域 が組織的に連携・協働する連携協力体制を構築 地域学校協働活動 地域と学校が相互にパートナーとして、 連携・協働して行う様々な活動 全公立学校で努力義務化 (社会教育法第5条第2項 ほか) 地域学校協働本部の3つの要素 ○**協働活動** 地域人材育成、郷土学習、協働防災 訓練、学習・部活動等支援、花壇整備、 学校運営・その運営に必要な支 ディネート機能 多様な活動 (より多くの地域住民の参画 による多様な地域学校協働活動の実施) 援に関する協議 等 登下校の見回り 等 継続的な活動(地域学校協働活動の継 学校運営協議会の主な役割 ○体験活動 社会奉仕体験活動、 続的·安定的実施) 自然体験活動 ○放課後等の学習活動 放課後、土曜日、休日における学習、 スポーツ活動 等 教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、 教育委員会に意見を述べることができること ※小中一貫型小・中学校など、複数校に一つの協議会を属くことも可能

文部科学省 HP より

地域学校協働活動の概念図

より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成。



- #	時	担	
地区	時 間	場 所	令和 5 年度 日高市 6 地区学校運営協議会報告
	間 5月24日水10時7月11	高麗中学校 高	1任命書交付 教育委員会 2挨拶 (会長・小学校長)・4年目の取組。高麗小中開設に向けて準備に入る。活発に活動するための施策を出していく。・小中一貫に向けて・旧高麗小中の旗の紹介3委員自己紹介 4学校報告 ○学校経営方針の変更点小:「おだてる」を削除プレゼン:教職員「開校準備会」の取組 5協議 (1)令和6年度の流れから今年度実施すべきことについて・開校に向けた準備会、第3回を目途に必要な部会を立上げる・学校の備品廃棄品の整理、リストの完成、ごみ処理の仕方・通学路の確定、通学方法の協議 スクールバス、自転車使用規定・式典の持ち方、閉校に向けてのイベント等、学校運営協議会、地域学校協働本部の関わり方・協議会として要望等依頼分を市へ提出していく。(2)全5回の協議会流れについて・学校評価のPDCAサイクル・学校経営方針を第1回に承認(3)学校運営協議会の発信方法・スケジュールシートの作成とWEBの活用、学校・公民館に掲示する。子供の参加も検討(4)次回検討事項 6 学校運営協議会開催日(別紙) 1開会 志村小学校長・小学校近況報告 2挨拶 学校運営協議長挨拶・学校、地域の課題を明確にするために2,3回が重要である。様々な意見を出していただき実のある話し合いにしていきたい。3教育委員会から・日頃の取組への感謝・各地域の取組の紹介 4学校報告小:猛暑により外遊び禁止、コロナ陽性者微増、廃棄物処理・移動に保護者の協力を要請し進めている。1/10に芋煮会復活す
高麗	日 火 10 時	麗 小 学 校	る。中:大きな問題なく進んでいる。廃棄物処理を保護者の協力により進めている夏休みも行う予定。 高麗コミュニティ協力が大きい。5校内見学 6協議(1)高麗小跡地利用について要望・歴史や景観を 生かした使用を考えてほしい、小中が利用できるようにしてほしい、地場産業を生かす、学童保育室 や高麗公民館としての利用、不登校対策としての利用など、民間にすべて任すのではなく、官民の複 合施設として考える。等(2)通学路の安全要望・区長要望提出後、あらためて要望する。(3)学校ボラ ンティア関係・小学校教育に資する取組となるよう内容を考えて取り組む。(4)引っ越しボランティア 関係・計画的に保護者や0Bに声掛け7その他 高麗小校舎お別れ会 7閉会 大里中学校長
進 地	10 月 16 日 月 10 時	高麗中学校	1開会 横手副会長 2挨拶 学校運営協議長挨拶 3校内見学 4報告(9~10月行事等)・学級・学年閉鎖状況の報告・小:修学旅行、宿泊学習・なかよし運動会、元気に活動していた。10/21 運動会ではお世話になる。・中:体育祭ではお世話になった。全員参加した。立志式、合唱祭の取組。他:事務補助員1名加入、通学帽変更、中学体育着変更、上履きの見直し、制服について存続か否か議論が必要 5協議 (1)中学校の様子について・タブレットをよく利用している。ジャムボードの活用、グループワークの導入・・難しい課題を皆で考える (2)学校評価について・10項目から13項目に変更。本年度の重点を加えた。小中で共有しつながる部分が出てきてよい。・相談体制の充実をどこかの項目に加えてほしい。・本年度の重点は校長が変わったら変わるものと捉える。(3)義務教育学校に向けて情報共有・9/19業者、教委との話し合い実施・8/29小中合同研修会の実施・引越し・処分関係が今後の課題。・地域学校協働活動として保険の適用がどうなるのか要確認。・校旗・校章については昔の校章をベースに考え。校歌についても現在のものを使用していくかを本年度中に意見集約し、来年度早々に提案する。6その他・高麗小学校お別れ会について、芋煮会について(地域学
区	1月18日木10時	高麗小学校	校協働本部)協力の要請。・12/1 コミュニティ・スクール研修会について(会場中学校) 1 開会 横手副会長 2 挨拶 潮田会長・学校評価は年々改善され評価しやすくなっている。成果と課題について、委員の忌憚のないご意見をお願いしたい。 3 近況報告:志村小学校長:芋煮会、昔遊び体験ではボランティア 2 0 名以上の方が参加していただいた。地域学校協働活動の力がありがたい。長縄記録会、体力テストでは県平均を上回る。大里中学校長:立志式等行事を充実して行うことができた。各種大会での生徒の活躍が目立った。 4 協議 (1) 学校評価について:意見=校長の教育方針が小中共に深く浸透し、指導の一貫性が見えている。・校舎の移転が決定して不安が無くなりよい方向に進んでいる。いじめや不登校の改善がみられる。チーム支援が生徒に及ぼす影響が大きく保護者の安心につながっている。・学校の情報発信でコミュニティ・スクールの認知度が高まった。改善点=保護者のA評価が学力では低い。基礎学力を伸ばす取組をお願いしたい。安心安全な教育は学力の向上にもつながる。・ふるさと科をさらに進めてほしい。・ボランティアへのアナウンスをしっかり行ってほしい。・行事の継続を望む。 (2) 義務教育学校開設に向けて・引っ越しに伴う廃棄物の利用法について協議5その他:「ありがとう高麗小」進捗状況の説明 6 教委から
	2月16日金10時	高麗中学校	1 開会(横手副会長) 2 あいさつ(潮田会長・志村校長) 3 教育委員会より(参事・課長) 4 報告・高麗小・中学校近況報告 5 協議:(1)学校評価のまとめ ○「本気の教育」「やるときはやる」のキーワードをさらに浸透させることを目指す。○小中合同校務会、開校準備会を計画的に運営する。○校内研究の内容を精査・充実させる。○令和6年度も芋煮会を継続させつつ、7年度以降の野菜の栽培地の確保や実施方法等も模索する。○小中一貫した学び方(学び合い、わかる授業など)について、小中合同校務会等を通して計画的に運営する。○学校だより・定期メールに関して、題名を見ただけで思わず読みたくなるような工夫をする。より多くの方に読んでもらうための内容精選をする。○令和6年度改修工事について、事前打ち合わせから細心の注意を払う。事故が起きないようにする。(2)令和6年度学校経営方針の承認・高麗小:やわらかく、温かい表現で子ども目線での置き換えがなされている。・高麗中:経営方針は端的な表現で体幹を示している行間を皆で埋めていきたい。6 その他(1)「ありがとう、高麗小!」(地域学校協働本部より)※地域学校協働本部の呼び方を「コマクション」に。令和6年10月27日(日)、高麗小で開催内容等を企画検討中。(2)「高麗小・中PTA検討委員会」令和7年度からスムーズに発足できるよう進めている。時代に合ったPTAの在方を目指す。7閉会(横手副会長)

地	時間	場	令和5年度 日高市6地区学校運営協議会報告
区	間 4 月 28 日 金 10 時	所高麗川中学校	1任命書交付 2挨拶(指導幹・小学校長) 3校舎内見学 4委員自己紹介 5協議(1)学校運営協議会の説明 ○令和4年度の成果と課題○学校運営協議会の組織、年間指導計画について・学校運営方針の承認については4月の協議会で行うことを確認○小中一貫教育について・令和6年度に小中合同で小中一貫教育に係る研究の実践発表を行う予定。内容は未定。○地域学校協働本部について・民生委員、PTA 役員もメンバーに加えることを確認。 6令和5年度高麗川小学校、高麗川中学校学校運営基本方針の承認について(別紙)→承認 7その他・小学校プールは解体、跡地を学校で使用する。今後検討課題・登校指導・旗振り(保護者)当番についての苦情→区長さんに相談することを確認 8お礼の言葉(副会長)
高麗	6月30日金10時 10月26日木10	高麗川小学校 高麗川中学	1 校舎内見学 2 挨拶(市教委・小学校長)・学習のまとめの時期に入り順調に進んでいる。子供たちと地域との触れ合いをさらに進めていきたい。 3 説明・協議 (1)地域学校協働本部と地域学校協働活動について・6/17に高麗川公民館にて、地域学校協働本部役員会を実施。6名参加。高麗川地区としての地域学校協働本部の在り方、活動の進め方、各団体との連携について検討した。・既存の団体をとりこんでいくこと・健全育成の会とも連携し、PTAや民生委員等にも協力を願う。・以前作成した名簿を生かし、他地区の取組も参考にして組織化を図っていく。・今後の活動としては、除草作業、小中挨拶運動に地域の協力を要請する。(5回)、中学生職場体験事業における企業への要請などに取り組む。(2)その他〇高麗川小中学校研究だよりの配信・・小中一貫教育の取り組を保護者・地域に広げる目的で進捗状況について今後発信していく。4 お礼の言葉(中学校長)・近況報告(各学年宿泊学習、部活動成績等)、校則の見直し(靴下の色、髪型等)6 閉会の言葉(副会長)1授業参観 2挨拶(市教委・中学校長)〇西部地区地域学校協働活動実践発表会についてのお願い〇運動会・体育祭参加の御礼、行事の成果、合唱祭への参加要請 3説明・協議 (1)高麗川小中学校、地域学校協働本部について 〇資料説明「小中一貫教育」・広報ひだか12月号に掲載(挨拶運動・歌の交流会・ふるさと科小中交流(高麗鍋)お話会等 〇地域学校協働活動について・総括表説明(ふれあい推進員見守り活動、農業体験、学習ボランティアお話会、環境整備(看板作成)、植木の伐採等・青少年健全育成活動取組報告・登下校見守りの方法・・下校時刻表を地域へ配布し協力をお願いしている。(300枚ほど)・部活動地域移行について・・ちふれの取組・・情報を事前に流すべき。取組の方向性が見えない・放課後子供教室について・高麗川公民館文化祭について(2)学校評
地	時 1 月 26	校高麗	価項目の説明 (3) その他・小山選手壮行会 11/24 小中で実施・全国学力状況調査の結果報告 4 お 礼の言葉 1 開会 委員長 2 挨拶 (小学校) 3 協議 (1) 地域学校協働活動 ①地域学校協働本部組織体制の変 更→事務局の仕事確認 ②地域学校協働本部新協力者の追加記載 ③地域学校協働本部連絡体制の確認 ④令和5年度活動報告→全19回の活動を実施 (2)意見:民生委員、社会福祉協議会などの学校協力 をしている団体も、ふるさと活き活きネットワークを構成している。協力内容の把握をしっかり行い、
区	20日金10時	川小学校	学校と事務局、コーディネーターが連絡を取り落ちがないようにしたい。学校運営協議会で熟議を生かしたい。←あまりきっちりやりすぎると事務局の仕事量が膨大になるので、無理のない範囲で報告をしていく。(3)学校評価について・全体的に高い評価が得られている。・基礎学力の定着が課題。・小中一貫教育の認知度や意識がまだ低い。情報発信に力を入れていく。・いじめの早期発見、不登校の対応、解決のための手立てを講じていく。・安全安心な生活について、交通安全教室等の取組を工夫し自らの命を守る姿勢を身に付けさせていく。各委員の意見を2月5日までに提出すること。(4)その他:学校運営協議会予算の使用目的について
	3月7日木10時	高麗川中学校	1 挨拶 (中学校長・教委)・1年間御協力の御礼。雰囲気の良さ、課題に向き合う姿勢が真摯 2 協議 ○高麗川小・中学校評価のまとめ・改善策 【小】小中一貫教育の PR を積極的に行う。変化の激しい社会を生き抜く児童生徒の育成を図る。学校行事の精選、大胆な改革、学校運営協議会内容を発信していく。人権に関する授業の地域公開 【中】縦割り班活動等新たな小中交流事業の展開、行事での連携を図る。ボランティア活動による自立と貢献の具現化、分離型小中一貫校開設の準備、系統的・横断的な教育課程の推進、ふるさと科の推進、教職員の心のゆとり・働き方の見直し、安全教育における公共機関との連携、訓練プログラムの実施 3 地域学区協働活動の取組 ①地域学校協働活動報告書について ②地域学校協働本部「昔遊び」の結果報告 ③放課後子ども教室に関する意見・要望について 4 その他 ・学校運営協議会委員の退任並びに地域学校協働活動推進員の変更について ・令和6年度 第1回 CS 研修会案内 4 来年度第1回 4月30日(火)10:00

地区	時間	場所	令和5年度 日高市6地区学校運営協議会報告
	5月24日水14時	高萩中学校	1 高萩中学校授業見学 2 任命書交付・市教委挨拶 3 協議 (1) 高萩小中学校経営方針について→承認・小:学校の老朽化、職員構成若い・運動会実施方法の見直し・リモート授業と家庭学習の充実・教育相談部会の活発化と個別に配慮を要する生徒の支援体制の構築・中:3 年生修学旅行実施・目標は小学校と同じだが漢字表記、9 年間を見通した教育課程の実施、地域学校協働本部の推進小中施設設備の共有化、非認知能力の育成、アンケート等を生かした教育相談の充実、クロームブックを生かした事業実践、行事の精選、計画の見直 (2)学校運営協議会の今年度の取組についての意見交換・地域学校協働本部の形を明確にしたい。早期に取り組むことが大切 (3)地域学校協働本部の取組について (4)学校運営協議会準備会について
回	9月7日木14時	高萩小学校	1 校舎内見学 2 挨拶(運営協議会長) 3 協議 (1)地域学校協働本部から活動報告 ○6/10(土)公民館で執行部会議・本年度活動計画作成 ○夜間パトロールの実施(高萩まつり)【健全育成部】○青少年のために施設見学会(東久留米市・山梨信玄餅工場見学)【健全育成部】○中学地域クリーン活動・除草作業【環境整備部】○日高塾協力、野菜作り、サツマイモ収穫【学習・課外活動部】○萩っ子見守り隊活動報告【安心安全部】 (2)学校施設に関する現状と市への要望について ○インターホンの設置・不審者対応安全訓練において、中学校に職員室と教室を結ぶインターホンの設置の必要性を認めるので、校長会や学校運営協議会の要望として市にあげていく。○小中を結ぶ渡り廊下の設置について・来年度着工予定。仕様については未定。職員駐車場の一部移動等の課題あり。(3)その他 ○学習補助について・小中学習補助、職場体験協力事業所、環境整備協力者等の希望者の一覧を今後作成していく○校則等について・来年度は生徒の意見を聞いてまとめたものを学校運営協議会に諮っていく。プレゼンを行う。○運動会、体育祭の来賓案内をどこまでにするか。・小学校は準備の関係上小学校の運動場を使用したい。会場がかなり狭いので、例年よりも少なく招待状を出す予定。他校の状況を踏まえ早急に検討していく。
萩地	11 月 15 日 水 14 時	高萩中学校	1開会 副会長 2 挨拶 教委・会長 3 協議 (1) 学校評価の項目について・評価項目について承認。 昨年度項目を統一したので、経年変化を見ていく必要から前年度の数値を提示して比較する。 12 月からアンケート調査実施 意見:「積極的に・・・」どのような姿を思い浮かべるか曖昧である。 評価規準を保護者に知らせる必要あり。・主語は学校か生徒か、統一する (2) 令和5年度当初人事について→学級見込み数、教職員定数、加配の状況説明=小中一貫を踏まえた人事を推進する。教育課程の見直しも視野に進める。・小中の交流、兼務発令の状況・国・家庭科で乗り入れ授業実施・教員不足についての説明。全国で不足している。加配がついても人が居ない。市でも広く募集しているところである。(3) 地域学校行動本部の組織・運営について・小学日高塾順調に進んでいる。・野菜作り、サツマイモ作り・クラブ活動、囲碁将棋倶楽部・高萩ばやし、まち探検・環境整備:草刈り実施・3学期に地域学校協働本部会開催予定 (4) その他・学校公開について・小学校リモート授業の様子・市合唱祭素晴らしかった。
区	1 月 23 日 火 14 時 30 分	高萩小学校	1開会 司会 2挨拶 教委・会長・12月1日地域学校協働活動実践発表会 web 開催参加の御礼・学校評価の審議よろしくお願いしたい。 3協議 (1) 学校評価について小への意見:・学校の活動を目に見える形で情報発信した結果が数字に表れている。・前年度より各項目とも評価が上がっている。・日高塾での児童が生き生きとしている。担任と子どもたちが共感している姿がある。・いじめの早期発見と対応をされに進めてほしい。学校研究や授業の充実により一層取り組んでほしい。・中学教員の乗り入れ指導の効果は?→中1ギャップをなくすよう中学教員が小学教員と連携する。学力向上に結び付けていくのが今後の課題。・不登校数、いじめの認知件数について、具体的な評価規準の設定が必要では?中への意見:・ポイントが全体的に落ちている。・生徒が明るく自主的に取り組む姿がよく見られた。・中学校行事が充実している。萩中フェスタの見直しは尊重したいが残念な面もある。負担軽減、授業時数確保の面から必要なことである。・学校事故に対し、信頼回復に努めてほしい。・小中合同研修(思考力の向上)の取組をさらに進め、学力向上につなげてほしい。・保護者は自分の子供を見て評価しがちであるが、学校に対しての評価であることを理解することが大切。・職場体験を地域学校協働活動として充実させていく。(2) 地域学校協働本部の取組について、幅広くメンバーを募る。3/2 地域学校協働活動総括を高萩公民館で行う。・2/28,3/24、6 地区公民館合同地域学校協働活動講演会を開催
	3月6日水14時30分	高萩中学校	1 開会 副会長 2挨拶 教委・会長・1年間の御礼 3協議 (1)令和6年度小中学校経営方針の承認について(別紙)→承認主な変更点 【小】「教えない教育」出発点、到達点を明確に、見通しを持たせる指導過程を工夫する。中位層のレベルアップを図る。タブレットの活用・教員の技術力向上、地域を愛する心→高萩公民館の活用、ふるさと科の段階的準備・地域学校協働本部の充実。働き方改革→月2回のふれあいデーの実施。 【中】特支学級3学級となる。校内のバリアフリー化、小中連絡通路の設置 (R6 設計・R7 着工)学力:非認知能力の育成・家庭学習の工夫、タブレットの活用・タイピング技術の定着、ハイパーQUを活用した学級経営、教員の資質向上「理由を考えさせる」授業の実践、校則の見直し。入試改革に伴うプレゼンテーション力の向上を目指す。 (2)高萩地区学校協働本部活動報告:【健全育成部】登校指導7回、青少年施設見学の復活【学習・課外活動部】野菜作り、日高塾、高萩囃子保存会の実演見学【安全部】見守り活動200日実施【環境整備部】雑草除去作業、木の剪定伐採等(3) 今年度を振り返って・5年間の活動の積み重ねが成果となり、様々な活動が具現化してきている。地域学校協働活動をさらに盛り上げていきたい。職場体験等でのキャリア教育の充実を図りたい。(4)令和6年度学校運営協議会実施計画・第1回5月21日(火)13:30高萩小

地	時場	
区	間月	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	5月23日火10時	校、生徒指導上配慮を要する生徒について、教職員の様子等 3参加者自己紹介 4協議 (1)令和5年度高根小・中学校経営方針の確認・コミュニケーション能力の育成に関する研究、11月17日研究発表。中学は小学校の取組を生かし、社会的自立を目指す教育を推進する。(1)開校に向けての課題等・大量にあるアルバム等の処理については精選して保存する。PTAにも確認する。・校歌については高根小校歌の一部を変える。・応援歌として、高根中の校歌を編曲して残す。(2)小学校工事に伴う備品等移動作業の依頼等・詳細については別紙参照・備品の置き場所について教頭が実地調査をしている。中学校の備品が多いので整理し、廃棄している。(小学校)・武蔵台小中の取組を参考にする。・7月19.20.21日に物品の移動を考えている。学校運営協議会委員にまとめ役をお願いしたい。・PTA、地域学校協働本部の協力もお願いする。・臨時学区運営委員会を6/22に持つ。実際の場所確認をする。5地域学校協働本部コーディネーター研修期の報告6年間予定の確認
高根	7月12日水10時	1日高市教育委員会から・各地区取組紹介 2 挨拶・学校運営協議長挨拶 物品の移動廃棄に地域の方の協力を得て行うので宜しく願う。・小学校長:元気にまとめの学習を行っている。暑いので外遊び等制限を余儀なくされている。・夏の工事に向け準備が着実に進んでいる。・物品移動ではお世話になる。・中学校長:コロナ、熱中症対策、修学旅行報告、学校総合体育大会報告 3 協議(1)第1回小中連絡会報告 ○日課表について・・モジュールの導入(前期国語15分)全校朝会を前後期で分けて行う。乗り入れ授業等に対応するための授業開始時刻の調整(チャイムは1日3回)○各委員会報告・・瀬戸市同ルール作り、特活縦割り活動の推進、昼清掃の工夫、避難訓練の仕方、給食時のルールの確認、教育相談室の使い方、図書室の利用方法について等※9月の準備委員会で最終確認を行い、必要事項は順次学校だよりや保護者会、新入児説明会等で周知を図る(2)物品移動廃棄作業について・7/15~21職員、学校運営協議会委員、地域学校協働本部メンバー等で行う。(3)後期課程制服について→承認 4連絡:地域学校協働活動推進セミナーについて
地	11 月 8 日 水 10 時	1開会 会長 2挨拶 教育委員会義務教育学校開校に係るお願い 3報告 小中校長・各行事の取組、進捗状況報告・運動会、体育祭、音楽祭、三者面談、11/17 市教研研究発表会 4協議(1)校章・校歌の承認・現小学校校章と中学校校章を合わせた。・校歌は高根小校歌の一部分を変更「小」を「校」にする。原作者には確認・了承を得た。→ 承認・11月8日(本日)を開校記念日に定める。(2)開校式典について・開校式を入学式当日、入学式前に行う。・現時点では、開校記念式典は行わない。武蔵台小中は開校記念品(外用大時計)、開校記念誌を作成し配布する予定。(3)学校評価について:内容承認・12月オンラインで回答→1月集計・分析→2月学校運営協議会で意見を伺う(4)中から小への物品移動、廃棄作業について・作業計画書による。・地域学校協働活動の一環として行う。5連絡・西部地区地域学校協働活動、埼玉県地域学校協働活動実践発表会参加のお願い。6その他地域「お助け会」からの話題提供・地域の独居老人の安否確認を近所に住む中学生が行っているニュースがあった。この地域でも可能か今後の事として話題にしたい。
区	2月16日金10時	1市教委挨拶 2学校運営協議会長挨拶 小中学校長から 3学校評価についての課題小:前年度より評価が上がっている。・学習規律の育成、効果的な家庭学習の在り方。・積極的な情報発信・出前事業の実施・不審者対策 中:学力の向上が課題。目的意識を持たせ、自主的自発的活動を促す工夫に取り組むことが必要・家庭学習に進んで取り組む生徒の育成が課題・教職員と保護者の協力体制を構築する・規則正しい生活習慣の育成・安全啓発質問・意見:保護者会の出席率はどうか高学年になるにつれて悪くなる傾向がある。・学校評価の数字が全ての意見を反映しているかは疑問。アンケートの回収率が中では高くない。関心のない家庭への対応をどうしていくか。・PTA活動について、来年度は大幅に変更する予定。小中で統一する。各種委員会をなくしていく。→大切な議題であるので学校運営協議会の熟議として捉えていく。4連絡:校旗返納式・3月5日(火)10:00~高根中・全児童生徒、保護者出席・開校式:4月8日(月)10:00~始業式終了後6・8・9年生出席。2~5年オンライン参加・年度末中学校引っ越し作業の依頼→3/18~29にかけて、別紙の予定に従い行う。学校運営協議会委員には連絡調整・見守りをお願いしたい。・登下校の安全パトロールについて→高齢化に伴う人員減少の解決策を考えていく。(地域学校協働本部)中学生の参加も考えていく。5その他:令和6年度学校運営協議会委員について
	3月11日月10時	1 挨拶:教委・今年度活動の御礼、来年度に向けて協力依頼 2 協議(1)学校評価についての意見・いじめの土壌をつくらない姿勢はよい。根絶のための取組を期待する。児童にしっかり向き合っている。・PTA 活動の検討が必要。・義務教育学校開設による変化に期待する。・安心安全な教育の確保・学力向上、教員負担軽減に地域学校協働本部と連携することを考える。(2)令和6年度学校経営方針の承認経営方針:かしこく(自主自立)・やさしく(温厚篤実)・たくましく(勇壮活発)目指す学校像:「未来を生き抜く力を育む高根小中学校」目指す児童生徒像:「夢を持ち、自分の行動に責任を持つかにたっ子」具体的な姿「自己肯定力を備えた生徒」本年度の重点・努力点「15歳で社会的に自立できる児童生徒を9年間で段階的に育成する」意見:縦割り活動を積極的に推進してほしい。・環境の変化が乏しい中で、どのように意欲を高めていくか工夫が必要。(3)中学校引っ越し作業の依頼 3連絡:中学生登校見守りボランティア、中学生ゴミ出しボランティアについて今後検討課題としていく。

地	時	場	令和5年度 日高市6地区学校運営協議会報告
区	間	所	
	5月24日水15	高萩北公民	1任命書交付 市教委挨拶 2委員自己紹介 3協議(1)高萩北小・中学校経営方針の承認について → 承認 小:最重点目標「凡事徹底」・不登校傾向児童等状況説明・入学式の時間的課題について 中:グランドデザインの説明・中学校女子スラックス導入について→学校と PTA で決定していく [委員からの意見]○部活動朝練が無くなったことの影響について・朝の余裕が出てきた。生徒の変化は 特にみられない。校長会でアンケートを取る予定 ○中学終了後小学校入学式は無理がある。要検討 事項・6家庭が小中入学式両方に参加・11:10~11:40で実施・入場なし。児童保護者席一緒・在校生の参加なし (2)令和5年度の取組について・地域学校協働活動(健全育成の会)6/27小学校 6/29中学校環境整備活動(花植え)4意見交換 ○PTA の在り方について(熟議)・PTA 役員のなり手がいない。・くじ引き・会後は推薦委員会で決定する(小)・役員からの推薦で決定する(中)
	時	館	・PTA は必要である観点から、今後どのように考え、運営していくべきか。・具体的な仕事内容が分からない。・新しい時代に見合った在り方を考えていく時期。
高	6月22日木14時	高萩北小学校	1授業見学 2挨拶 日高市教育委員会 3近況報告 北小:生徒指導関係報告、プール清掃、宿泊行事等の説明(5年宿泊学習、6年修学旅行、地域の方からの依頼等)北中:修学旅行、大規模改修について、宿泊的行事の報告、通信陸上結果報告、施設の破損についての報告及び対応説明。4協議(1)地域学校協働本部(輝多っ子サポーターズ全体会に向けて・チーム編成調査票を関係各位に配布(公民館を通して)7/5〆切(2)今後の取組について・北小6年生との花植え、北中除草作業、花植え、夏休みパトロール(土日)、学校グランド総点検 5その他・ロッテ敷地の工事予定、区画整理の計画等・PTA の在り方についての話し合いは 6/29,北中で行う。・制服(女子のスラックス導入)は進めていく方向で考える。・中学校道徳教育の研究・・全教育活動を通しておこなう。・6/28中3生に笠松先生のICT講演実施・8月22日小中合同学校保健委員会開催。講師早稲田大学教授
4+			1授業参観→40周年記念 DVD 視聴 2挨拶 日高市教育委員会・第3回コミュニティ・スクール研
萩	10 月 19 日	高萩北	修会についての参加方法・1人1台の端末は用意できない。用意できる分で対応する。インターネット環境がある場合は個人で入場してもらう。・今後を考えて各協議会のアカウントを作成する。3近況報告【小学校】・校庭の桜倒木に係る今後の予定・なかよし運動会不参加。記録会実施(教育長・学運協委員長参加)・下校時のトラブル事例報告・不登校児童数報告【中学校】・プール改修工事進捗状況・部活動、駅伝成績報告・不登校・いじめの現状説明 4協議 ①地域学校協働活動の具体的取組・高萩北地区青少年育成地域懇談会の実施について(11/17)・北っ子アフタースクール再開(来年
北	木	中	度)に係る取組の見直し、公民館としては、新たな人材を発掘し増やしていきたい・地域学校協働活動に係るる第二式により、大学では、新たな人材を発掘し増やしていきたい。
	•	-	動に係る予算要求について→差来年度からの予算化を目指す。予想される活動についての必要経費 をあげる。・小・中・公民館合同人権教室の実施(12/8)②学校評価について・変更点あり「学校運
	14 時	学 校	営協議会での評価を受けて」→承認実施後第4回会議で意見を伺う ③その他・授業参観の感想・・元気で表情がよい。礼儀正しく落ち着いて授業を受けている。・青少年健全育成会議と地域学校協働本部の関わりについて →地域学校協働活動の一環と捉える。
地区	1月25日木15時	高萩北公民館	1 挨拶 市教委 2 近況報告:小・コロナ・インフルエンザの影響が長引いている。行事の中止が余儀なくされた。・大谷選手の寄贈グローブお披露目・土地区画整備事業に係る見守り隊連絡の開催:中・入試が始まる・埼玉県住み心地大賞 2 年生受賞・3 年生を送る会、卒業講話について。 3 協議(1)学校評価について(意見)・学習習慣についての評価が低い。生徒の自主性を重視した家庭学習の在り方を模索したことに起因する。部活の朝練が無くなったことにより、生徒の生活によい変化が表れているか期待したい。・ふるさと科や小中交流など施設分離型の小中一貫教育の更なる推進を期待する。(2)令和6年度当初人事の説明・学級見込み数、教員数、加配教員の内訳と担当教科について(3)北小見守り隊の現状と今後の在り方について協議→メンバーの高齢化、減少が加速しているメンバーを広く募る工夫について考えていく。(4)青少年健全育成の会の地域学校協働本部組織編入について→今までの活動の継続を基に輝多っ子サポーターズを強固にするため。 4 その他:(1)卒入学式の内容→小学校は参加人員、内容縮小、中学校はコロナ禍前に戻す。(2)小中一貫進捗状況→来年は地域清掃を小中合同で行う予定。ふるさと科の推進(3) PTA 組織再編について
	2月29日木15時	高萩北公民館	1 日高市教委挨拶 2 近況報告:小・行事関係、交通事故、火災による下校指導等、中・入試状況、卒業講話(本田技研・大志田監督)、卒業式関係 3 協議(1)学校評価への意見 小:いじめの早期発見、組織的対応に努める。小中一貫教育のさらなる推進、家庭学習の意欲付けと学習の質の向上に努める。非認知能力の育成、積極的な情報発信、挨拶清掃活動等原点に戻り意義を分からせ自ら取り組む姿勢を培う。 中:いじめの早期対応のための地域との情報共有、早い段階での二者面談の実施、学ぶことが好きになる授業の工夫、7年度小中一貫校開始に向けて小中の交流の機会を増やし成果を地域に発信する。生徒の内面の成長につながる学校行事を工夫する。地域清掃の小中共同実施。(2)児童生徒の様子について:不登校数は横ばいで推移、いじめは昨年度より減少傾向。子供が幼い。人との関わり合いが少ないのが原因か。スマホ、タブレット等 TPO に応じて便利なものをどう使っていくかが課題。中学生が小学生を教える機会を増やす。 (3)令和6年度学校経営方針説明4 その他:高萩北地区 PTA 組織については見直す。(有志による運営、各委員会は廃止し、やり方を検討する。募集を活用する。)情報提供:埼玉県公立高等学校入学者選抜方法の変更について。

地	時	場	
区	間	新	令和5年度 日高市6地区学校運営協議会報告
	5月15日月10時	武蔵台小中学校	○校舎見学・授業参観 1任命書交付 教委挨拶・義務教育学校開設協力への御礼と今後の支援のお願い。2学校近況報告・義務教育学校開始。毎日が新鮮。・順調なスタート、教員に活気がある。子供たちが自然と溶け込み違和感がない。・89年生がお兄さんお姉さんになった。面倒をよく見る。・教員の忙しさ。超過勤務多い。3協議 ○臨時保護者会の説明・規律の徹底を図る。前後期教員の協力体制を創る。保護者見守り活動の協力。・学校運営協議会から教委へ要請書を提出する。・子供との信頼関係をつくること。(1)学校経営方針の説明と承認・キーワード「対話・創造・未来」経営理念:みんなが笑顔になる学校づくり・教育目標「自立・創造・共生」・目指す学校像「地域に愛され未来に向かって共にまなびをつくる学校」(2)学校運営協議会要綱・細則の改正について、(3)学校が必要としている支援について→教員のアンケートの考察・縦系列でまとめる。協議会・地域学校協働本部で取り組むことを決めていく。PDCAサイクルで考える。
武蔵	7月12日水16時	武蔵台小中学校	1開会・挨拶 日高市教委:志木市、本庄市学校視察について・校長:異年齢交流活動について・修学旅行様子、運動会について・生徒指導関係 2報告・制服の見直しに係る保護者会開催、アンケート調査結果考察→「必要ない」が若干多い結果を踏まえ、校内検討委員会で方向性を見出し、学校運営協議会に諮る・開校記念誌の内容報告、開校記念品(校舎外時計)の検討 3協議 (1)「武蔵台小中学校をよりよい学校にするために」○児童生徒会本部生徒(9年生)と委員との話し合い(3グループ)【意見】・文化祭、大掃除、地域への学校公開など行いたいが時間がない・話し合う内容がすでに決められているので、生徒の自主性を尊んでほしい。生徒の中に諦めがある。小中一貫に関わり、ルールの見直しが必要・異学年のふれあいを大切にしたい。・地域のイベントに参加する。ボランティアや地域とのつながりを持ちたいので参加の方法を考えていく・合理的な説明がつかないものは見直していく・小中一貫のメリットを明確にする・6年生のリーダーシップをとる機会を作る・地域学校双方向のつながりを作っていく。等(2)地域学校協働本部について・地区全家庭に地域学校協働
	F.,j	·^	活動申込書を配布し、協力を募る。
台地	11月15日水11時	武蔵台小中学校	-授業参観・給食試食- 1開会 2市教委挨拶 3授業後の感想・活き活き楽しそうな授業・各学年成長に応じた反応を・子供らしいよい雰囲気・授業の変化 4報告(1)学校近況: 異年齢交流の推進行事等でさらに進めていく。・2デイウォークに縦割りで参加・社・英・音・算乗入れ授業実施・県英語 ICT 活用授業公開 11/16 (2)制服検討委員会報告 ・カジュアルマンス授業の実施私服登校・TPO に応じた服装を考える。・千葉県先進校視察報告 (3)記念誌・記念品作成委員会・外用時計運動会で披露・記念誌、トートバック、お饅頭配布予定=2学期中に (4)地域学校協働活動進捗状況・30名の登録者・ふるさと科講師招聘、書初めボランティア (5)ふるさと科の推進・7年生=過去 8年生=現在 9年生=未来 ・高麗鍋つくり、歴史の探求、市への提言=世界へ発信。発表会を地域に公開してほしい 5協議 (1)学校評価の項目について・PDCAサイクルに則った評価を重点目標の明確化=異年齢交流の充実・タブレット端末の活用・非認知能力の育成・積極的な生徒指導=保護者への説明必要(2)プール北側法面について(3)放課後子供教室再開について
76			1 開会・市教委挨拶 2 報告:学校運営進捗状況 ・入試状況・私立終了、公立入試を控え9年生は頑
区	2月14日水14時	武蔵台小中学校	張っている。・記念誌・記念品作成委員会は滞りなく終了した。 3協議「学校評価結果を受けて」意見:具体的な学力向上策に厳しい意見があった。学校や教職員の取組、子どもの伸びを積極的にPRする。・学校自己評価の分析がしっかりなされ課題への取組も適切である。・教員の働き方改革、教員の生活を守る工夫、教員の日からを異発揮できる職場環境を作ってほしい。・人間関係の固定化(単学級)をどのように和らげ解決していくか、ICTの活用や横のつながりを重視した活動を行ってほしい・6年の活躍の場を広げてほしい。リーダーシップが取れるような行事の工夫や認めて伸ばす工夫が必要。・性教育の取組を進めてほしい。・重点目標を分かりやすく具体的に示して評価することが大切である。・ホームページのさらなる活用を図る。日高市以外の国内外の方が多数見ている。・制服の自由化を自立心の育成や自ら考える態度の育成につなげている。「慈愛と敬愛」縦のつながりを重視した活動をさらに進める・ミシガン州中学生との交流を進めていく。教育相談活動の充実を図る
	3月6日水13時40分	武蔵台小中学校	1開会 2学校報告・9年生の受検がすべて終了し、全員の進路が決まった。卒業式もよろしくお願いします。・6・9年生を送る「ありがとうの会」が金曜日に実施される。・他市町村からの視察があった。・ホームページをいろいろな方々が見ていただいている。 3 協議(1)令和6年度の学校経営方針・来年度のキーワード「対話」「創造」「挑戦」「交流」「表現」・特色ある教育活動→異学年交流活動の推進・地域学校協働本部との連携強化(ふるさと科による教科横断的な教育活動の推進)・前期課程における一部教科担任制の導入・学校教育目標: 自立・創造・共生・令和6年度の重点→地域の教育力(地域学校協働本部)・異学年交流・外国語活動・制服自由化・ODCAサイクル(常時、見直し)・学力向上・児童生徒が主語となる授業づくり・主体的・対話的で深い学びを軸に魅力ある授業づくり・異学年交流活動の促進・憧れと尊敬の念を育む(きょうだい学級の導入)・児童生徒会が企画した異学年交流活動を意図的・計画的に実施する・前期課程5年生からの部活動の参加(任意)・社会に開かれた教育活動→地域に教育内容、課題、成果を発信し、地域の教育力を活用する→コミュニティ・スクールの一層の推進・地域学校協働本部との連携の強化・学校ホームページの活用(学校内外への情報発信)アメリカミシガン州の学校との交流(2)その他・ふるさと科の紹介

○「日高市コミュニティ・スクール研修会」

日	内容
第1回4月18日(火) 14:00~16:30 生涯学習センター 視聴覚室	対象:学校運営協議会委員、各学校新任・転入管理職、教職員 内容①「日高市 コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」 の説明 ②義務教育学校開設に係る取組について(武蔵台小中学校) ③令和4年度までの実践発表 高萩地区 高麗地区
第2回8月4日(金) 13:00~15:30 埼玉県CSフォーラム オンライン開催 (各学校・公民館等)	対象:各地区学校運営協議会委員・地域学校協働本部委員・教職員 内容:「コミュニティ・スクールの現状と今後の取組について」 ・事例発表「地域とともに豊かな学びを創造し地域の絆を深める学校 づくり」 新座市立野火止小学校 校長 丹下 円 氏 講演:「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に 向けて」三鷹市教育委員会教育長 貝ノ瀬 滋 氏
第3回12月1日(金) 14:00~16:30 埼玉県西部地区地域学 校協働活動実践発表会 オンライン開催 (各学校・公民館等)	対象:各地区学校運営協議会委員・地域学校協働本部委員・教職員 内容:「実践発表 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一 体的な推進」〜鳩山中を核として進める地域の絆づくり〜 鳩山町教育委員会・鳩山中学校 ・指導講評 埼玉県教育局生涯学習課 ・ミーティング=3グループに分かれて各市町村の取組紹介、協議







令和5年度 日高市地域学校協働活動の成果と課題

令和6年1月17日(水) 教育指導幹 小坂井 啓二

- 1 日高市 「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進」
 - ・日高市は6行政区にそれぞれ1小学校、1中学校、1公民館があり、それぞれに学校運営協議会を設置している。学校運営協議会委員は12名で組織し、その中に地域学校協働活動推進員もメンバーに入っている。
 - ○学校運営協議会は、学校の課題や目標、具体策等を協議していく機関
 - ○地域学校協働本部は、その協議されたことを実際に実現していく組織
 - ・コミュニティ・スクールは、学校と地域を取り巻く課題解決のためのしくみであり、学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進により、地域とともにある学校、学校を核とした地域を構築し、「緩やかなネットワーク」(地域学校協働活動)の形成を目指して活動している。コロナ禍の影響でこの4年間かなりの制約を受けていたが、本年度は各地区で地域学校協働本部組織が立ち上がり、地域説明会や各団・サークルへの協力要請、名簿の作成等も進み地域の特色を生かした活動に着手した。また、定期的に日高市地域学校協働活動推進員連絡会議を開催し、各地区の取組の紹介や進捗状況の報告を行った。

【日高市6地区地域学校協働活動】

- ○高麗地区=高麗地域学校協働本部「高麗コミュニティー」
- ○高麗川地区=高麗川地域学校協働本部「ふるさと活き活きネットワーク」
- ○高萩地区=高萩小中学校地域学校協働本部
- ○高根地区=高根地区地域学校協働本部
- ○高萩北地区=高萩北地区地域学校協働本部「輝多っ子サポーターズ」
- 〇武蔵台地区=武蔵台地区地域学校協働本部

【地域学校協働活動実践事例】

- ・放課後等の学習支援・体験活動等(放課後子供教室・等)
- ・学びによるまちづくり・地域課題解決型学習(地域活性化の方策、提案、地域職場体験学習、農業体験学習、伝統文化芸能学習等)
- ・学校に対する多様な協力活動(登下校の見守り、学校環境の整備、読み聞かせ、授業補助、企業 の出前授業等)
- ・地域の行事等への参画(ボランティア体験活動、伝統行事・祭りへの参加、学習・防災訓練への 参画)
- ・家庭教育支援活動(保護者が学び合う機会づくり)

日高市では、これまで各学校に健全育成の会や区長会、地区の安全を担う団体、文化サークル等様々な方々が学校を応援し、児童生徒の学習支援や安全支援、学校の環境整備等を行ってきたことにより、学校の教育活動の充実が図られてきた。こうした日高市のよさを生かし、これまで学校にかかわっていただいた各団体や有志の方、これから協力をいただける方々を組織として

整理・統合し、各地域の特色を生かした地域学校協働本部として人材のネットワークを広げ、学校の様々な課題に対応するとともに、地域の方々の生きがいにつなげることを目的として地域 学校協働活動を行うよう共通理解を図っている。

- 2 導入の効果・成果として
- ・子供たちの「コミュニケーション能力の向上」や「地域への理解関心」の深まりが期待できる。
- ・地域の方々の学校への関心・理解が深まる。
- ・安全や防災について、学校と地域の共有化を図ることができる。有事の際にその効果が現実に 発揮された例もある。
- ・地域住民の生きがいややりがいにつながる。
 以上を期待している。
- 3 導入のプロセス・留意点
 - 学校や地域の課題は何かを明確にすること。
 - ・目的の設定・周知理解促進。 → 人材確保・養成 → 実践改善
 - ・地域住民の十分な理解と協力が必要=仕組みが定着するまで教育委員会主導で行う。
 - ・学校、学校運営協議会、公民館と地域学校協働活動推進員の連携が重要。情報を共有する。
 - ・人材は課題解決のため必要な人を広く募る。名簿による管理を行う。
 - ・無理をしない。できる人が、できる事を、できる時に行う。
 - ・安全に活動するための保険加入を検討していく。
 - ※学校運営協議会については「日高市学校運営協議会規則」を設け、学校教育課が主管課であり、地域学校協働本部については「日高市地域学校協働活動推進員設置要綱」並びに「内規」を設け、生涯学習課が主管課である。両課が情報を共有し、協力して地域学校協働活動を推進している。

※参考(日高市学校運営協議会規則等)

○日高市学校運営協議会規則

平成31年3月20日教委規則第1号

改正

令和元年11月29日教委規則第4号 令和3年3月18日教委規則第3号

日高市学校運営協議会規則

(設置)

第1条 日高市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号。以下「法」という。)第47条の5第1項ただし書の規定に基づき、日高市学校設置条例(昭和46年条例第40号)に規定する小学校及び中学校における相互連携その他の運営並びに当該運営への必要な支援に関して協議するため、別表左欄に掲げる小学校及び中学校につき、同表右欄の学校運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。(所掌事項)

第2条 協議会は、法第47条の5第4項から第7項までに規定する事項のほか、前条の設置の目的 に係る協議の対象とする小学校及び中学校(以下「対象学校」という。)につき、次に掲げる事項 を所掌する。

- (1) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第79条の9第1項の規定により小学校における教育と中学校における教育を一貫して施すための必要な支援に関すること。
- (2) 小学校及び中学校において相互に密接に連携し、その所在する地域の特色を生かした教育 活動を行うための必要な支援に関すること。

(法第47条の5第4項の教育委員会規則で定める事項)

- 第3条 法第47条の5第4項の教育委員会規則で定める事項は、次に掲げる事項とする。
 - (1) 教育目標及び学校運営に関する事項
 - (2) 学校施設の管理に関する事項

(法第47条の5第7項の教育委員会規則で定める事項)

第4条 法第47条の5第7項の教育委員会規則で定める事項は、対象学校の職員の採用、転任及び 昇任に関する事項(特定の個人に関するものを除く。)とする。

(組織)

- 第5条 一の協議会は、委員12人以内をもって組織する。
- 2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。
 - (1) 対象学校の所在する地域の住民
 - (2) 対象学校に在籍する児童又は生徒の保護者
 - (3) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第9条の7第1項に規定する地域学校協働活動推進員 その他の対象学校の運営に資する活動を行う者
 - (4) 対象学校の校長
 - (5) 前4号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者
- 3 教育委員会は、前項第1号に掲げる者について委員を任命する際は、公募するものとする。 (任期)
- 第6条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の 任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

- 第7条 協議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 2 協議会に副会長を置き、会長がこれを指名する。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

- 第8条 協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。
- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。 (関係者の出席等)
- 第9条 協議会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その説明若しくは意見を聴き、又は関係者から資料の提出を求めることができる。

(守秘義務)

第10条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。 (委任) 第11条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の日から平成32年3月31日までの間、第6条の規定の適用については、同条中「2年」とあるのは、「1年」とする。

附 則(令和元年11月29日教委規則第4号)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和3年3月18日教委規則第3号)

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際、現に改正前の日高市学校運営協議会規則の規定により委員となった者は、 改正後の日高市学校運営協議会規則の規定により委員となったものとみなす。

別表 (第1条関係)

協議会の名称		
高麗地区学校運営協議会		
同鹿地区子仪建备励俄云		
高麗川地区学校運営協議会		
 高萩地区学校運営協議会		
同秋地区子仪建名 励硪云		
高根地区学校運営協議会		
高萩北地区学校運営協議会		
同秋北地区于仅连召励战云		
武蔵台地区学校運営協議会		

日高市教育委員会告示第3号

日高市地域学校協働活動推進員設置要綱を次のように定める。

令和4年3月2日

日高市教育委員会教育長 中 村 一 夫

日高市地域学校協働活動推進員設置要綱

(設置)

第1条 社会教育法 (昭和24年法律第207号) 第5条第2項に規定する地域学校協働活動の円滑かつ効果 的な推進を図るため、同法第9条の7第1項に基づき地域学校協働活動推進員(以下「推進員」という。) を置く。

(活動内容)

- 第2条 推進員の活動内容は、次に掲げるとおりとする。
 - (1) 地域の教育課題の解決に必要な総合的な連絡調整に関する活動
 - (2) 地域・学校の教育活動の支援、企画及び参加促進に関する活動
 - (3) 日高市学校運営協議会規則(平成31年教育委員会規則第1号)第1条の規定により設置する学校運営協議会その他必要な協議体との連絡調整に関する活動

- (4) 前3号に掲げるもののほか、推進員の設置の目的を達成するために必要な活動 (委嘱等)
- 第3条 推進員の定数は、学校区(小学校、中学校及び義務教育学校並びに公民館を中心とした学校教育及び社会教育に関する地域的なまとまりであって、日高市立小・中学校の通学区域に関する規則(昭和62年教育委員会規則第1号)別表第1に定める、各小学校におけるそれぞれの通学区域をいう。以下同じ。)につきそれぞれ1人を原則とする。ただし、地域の実情により、推進員の数を変更することができるものとし、同一の推進員が複数の学校区を担当することを妨げない。
- 2 推進員は、次に掲げる資格要件に該当する者のうちから、当該学校区内の日高市立小学校、中学校及 び義務教育学校の校長並びに公民館長の推薦により、教育委員会が委嘱する。
 - (1) 地域において社会的信望があるもの
 - (2) 地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者
- 3 推進員の任期は、委嘱を受けた日からその日が属する年度の末日とし、再任を妨げない。
- 4 教育委員会は、推進員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、任期の満了前であっても 委嘱を解くことができる。
 - (1) 心身の故障のため活動の継続に支障があり、又はこれに堪えられないと認められるとき
 - (2) 推進員としてふさわしくない行為を行ったと認められるとき
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要と認めるとき (公民館長との連携)
- 第4条 推進員は、各学校区の公民館長と連携し、活動を行う。
- 2 推進員がいないとき、又は欠けたときは、各学校区の公民館長が推進員の役割を担う。 (推進員連絡会議)
- 第5条 教育委員会は、次に掲げる事項を協議するため、必要に応じて推進員連絡会議を開催することができる。
 - (1) 推進員の行う活動や教育課題等についての情報交換に関すること。
 - (2) 地域の教育課題等についての研究、協議及び提言等に関すること。
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、推進員の設置の目的を達成するために必要な事項に関すること。 (庶務)
- 第6条 推進員の庶務は、各学校区の公民館において処理する。
- 2 推進員連絡会議の庶務は、教育委員会から指定された公民館で処理する。 (雑則)
- 第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附則

この告示は、令和4年4月1日から施行する。

日高市 コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育

目指そう!「気は優しくて 力持ち」

(利他の心) (主体性・学力・体力)

— 日高市のコミュニティ・スクールと小中一貫教育の関係 —

いっしょに

がんばろうね!!

世界の人の役に立ちたい!

自分の考えをしっかり持とう!

目標に向かってや り抜くぞ!!

【特色】

〇6学校区

1 小学校

1中学校

1公民館

04 - 3 - 2

制の採用

小中一貫教育(9年間を見通した教育)

9年生(中学校3年生) 学びの発展期 (中学校2年生) 料 8年生 一中 担 7年生 (中学校1年生) 門性の高い (<u>中子校1年生)</u> (小学校6年生) 任 6年生 充実期 5年生(小学校5年生) 貫教育校 育 学 (小学校4年生) 級 学びの基礎期 担 任 1年生(小学校1年生)

説明

校長・教職員

● 承 意 見

コミュニティ・スクール〈学校運営協議会〉

- ~ 学校と地域が目標を共有し、小中一貫教育を支える
- ○「地域とともにある学校づくり」を目指し、地域に 暮らす人々が知恵を出し合い、学校運営に意見を反 映し協働して子供たちの豊かな成長を支える仕組み。
- ○「学校を核とした地域づくり」を進めるために、学校と地域がパートナーとして連携・協力し、様々な活動を通して地域の絆を深める。

<地域住民、保護者、地域学校協働活動推進員、公民館長>

【課題】

すごいね!!

お兄ちゃんお姉ちゃん

- ○学力向上 OGIGAスクール
- 構想の推進
- 〇小中ギャップ
- ○少子化への対応○施設の老朽化

幼稚園 保育所(園)

連模推進

課題を解決して いくための方策 を考えよう!



学校と協力して、子 供たちのために活動 しよう! 地域学校協働本部 (地域学校協働活動推進員)

①コーディネート機能 ②多様な活動 ③継続的な活動

地域住民

PTA

健全育成の会

企業

大学・高校

公共機関

各種ポランティア団体

子供会・自治会

地 域 (地域住民・団体等による緩やかなネットワーク)

支えよう!「次代を担う地域の子供たち」

4 日高市小中一貫教育について

(1) 日高市小中一貫教育の目的

小中一貫教育とは、「小・中学校の教員が目指す15歳像を共有し、9年間一貫した教育課程を編成して行う系統的な教育」である。小学校から中学校への接続期の教育の在り方を見直し、地域の特色を生かして9年間を見通したカリキュラムを編成することで、学年間や小・中学校の円滑な接続を図り、児童生徒が安心して学ぶ環境を保障し、豊かな人間関係の中で確かな学力の定着を目指す。

日高市の特色として、6地区が1小学校、1中学校、1公民館で構成されており、学校と地域の緊密な連携が醸成されている。



(2) 日高市小中一貫教育導入の背景

- ○日高市の小中学校の抱える様々な課題の解決を目指すため
- 1) 課題

ア 学力向上=喫緊の課題

埼玉県学力学習調査によると、学力の伸びは県の平均と同等以上であるが、平均正答率は 県平均を下回っている学年が多い。全国学力調査でも同じ結果である。

イ 新学習指導要領に準拠した教育課程の推進

主体的・対話的で深い学びの実現や外国語教育、プログラミング教育、GIGA スクール 構想等、これからの新しい時代に対応した教育の推進が求められている。

ウ 小中ギャップ

以前は中1ギャップと呼ばれ、小6から中1に移行する時期に起こる不登校や暴力行為などの学校不適応を指した言葉であったが、入学間もない小1で起きる話を聞けない、授業中立ち歩く等の問題(小1プロブレム)や低・中学年でも不登校が増えているなどの傾向がみられるため、今は「小中ギャップ」という捉え方になっている。

エ 児童・生徒数の大幅な減少が今後見込まれる。

	日高市 地区別児童・生徒、クラス数の推移 ※令和6~特別支援学級は除く								
	令和4年度	令和5年度	令和	令和	令和	令和	令和		
	()は特支学級	()は特支学級	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
高麗小•中	203 · 119	191 · 127	179 · 118	175 • 108	161 • 90	150 · 87	130 • 92		
クラス数	小7(2) 中4 (1)	小6(2) 中5(2)	小6 中4	前6 後4	前6 後3	前6 後3	前6 後3		
高麗川小•中	836 · 455	800 · 449	762 • 442	704 • 439	673 •416	649 · 391	637 · 375		
クラス数	小24(5) 中12(3)	小24(3) 中12(3)	小24 中12	小23 中12	小22 中12	小22 中12	小22 中12		
高萩小•中	540 · 320	533 · 303	526 · 272	486 · 279	468 · 269	438 · 268	424 · 244		
<i>ク</i> ラス数	小17(4) 中9(2)	小17(4) 中9(2)	小17 中9	小17 中9	小16 中9	小15 中9	小15 中8		
高根小•中	182 • 140	170 • 125	157 •109	131 · 91	135 • 79	134 · 67	122 • 71		
クラス数	小6(3) 中6(2)	小6(3) 中5(2)	前6 後4	前6 後3	前6 後3	前6 後3	前6 後3		
高萩北小・中	579 · 385	551 · 360	504 • 334	441 • 302	392 ・ 304	366 • 273	332 • 257		
<i>ク</i> ラス数	小18(3) 中11(2)	小18(4) 中10(2)	小17 中10	小16 中9	小15 中9	小14 中9	小13 中9		
武蔵台小中 クラス数	198•116	193 · 113	186 •106	179 • 107	161 · 109	160 • 99	156 • 92		
	小7(2) 中4(2)	前7(2) 後3(2)	前7 後3	前6 後4	前6 後3	前 6 後3	前 6 後3		
児童生徒合計	4079	3920	3695	3442	3257	2957	2932		

【令和5年5月1日現在の調査による】

② 期待される効果

ア 自尊感情の育成

多様な異学年交流を工夫することで自己肯定感が生まれ、下級生への慈愛や利他の心、 上級生への尊敬や畏敬の念が育まれる。

イ 小中を一体として捉える教育の推進

「目指す15歳像」を設定してその実現を目指すためには、小中の教職員が所属感を高め、学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して臨むことが重要である。そのためには組織体としての一体感を醸成し、義務教育9年間の系統性・連続性を重視した教育課程の構築が必要である。各教科、領域における系統性を明らかにしたカリキュラムの作成や、教科内や教科間の学習内容の関連性を意識して指導順序・指導内容を入れ替えたり、理解が難しく生徒がつまずき易い内容は、後の学年でも繰り返し指導をしたりするなどの工夫が可能となる。

ウ 小中ギャップの緩和・解消

小学校と中学校間の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移 行を促すことが可能となり、中1の壁や小中ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する 効果が期待される。

エ 異学年交流による精神的な発達

1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待される。異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される。

オ 継続的な生徒に対する指導

小学校と中学校が1つの学校という意識を持ち、9年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個に応じたきめ細やかな丁寧な生徒指導が可能となる。





H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

資料 小中一貫教育の制度化における3類型

小中一貫型小学校・中学校								
		主效势本学坛		中学校連携型小学校				
		義務教育学校	中学校併設型小学校	中子校連携型小子校 小学校連携型中学校				
⊐ n.	Ⅲ →		小学校併設型中学校					
設	置者	国立・公立・私立	同一の設置者(市区町村立)	異なる設置者(組合立)				
修	業年限	9年(前期課程6年 +後期課程3年)	小学校6年、中学校	艾3年				
			それぞれの学校に校長、	教職員組織				
組織・運営		一人の校長	小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 〈例〉 ① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる					
免 許		原則小学校・中学校の両 免許状を併有 ※当分の間は小学校免許 状で前期課程、中学校免 許状で後期課程の指導が 可能	所属する学校の免許状を保有していること					
		・9年間の教育目標の設定						
教	育課程	・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成						
		・一貫教育に必要な独自教科の設定を行うことが可能						
		・ $5-4$ 、 $4-3-2$ など、 $6-3$ 以外の区切りを設定することが可能						
教育課	一貫教育 に必要な 独自教科	0	0	0				
程 の 特 例	指導内容 の入れ替 え・移行	0						
施詞	設形態	施設一体型	』・ 施設隣接型 ・ 施設分離型					
設[置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準適用					
標準規模		18学級以上 27学級以下	小学校、中学校それぞれ125	学級以上18学級以下				
設置	量手続き	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等 ※規則等とは私立学校等を含んでいるための記述 公立学校は、教育委員会の規則に位置付けることが必要					

出典:小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引/文部科学省

(3) 日高市小中一貫教育の特色

小中一貫教育とは、「小・中学校の教員が目指す15歳像を共有し、9年間一貫した教育内容のもと、系統的な教育を目指す教育」と定義する。小学校から中学校への接続期の教育の在り方を見直し、地域の特色を生かした教育課程を編成することで、各学年間や小・中学校の円滑な接続を図り、児童生徒が安心して学ぶ環境を保障し、豊かな人間関係の中で確かな学力の定着を目指す。

日高市では、6地区における今後の児童生徒数の推移や教育的効果等を鑑み、施設の統合を3つの型に定め、2つの形態で小中一貫教育を進める。

施設一体型

令和5年度開校 義務教育学校「日高市立武蔵台小中学校」 令和6年度開校 義務教育学校「日高市立高根小中学校」 令和7年度開校 義務教育学校「日高市立高麗小中学校」

施 設 隣 接 型・分離型

令和7年度開校

小中一貫教育校「日高市立高萩小学校・高萩中学校」(隣接型) 小中一貫教育校「日高市立高麗川小学校・高麗川中学校」(分離型) 小中一貫教育校「日高市立高萩北小学校・高萩北中学校」(分離型)

※「義務教育学校」「小中一貫教育校」は冠称であり、正式な名称には含みません。 開校年度から、名称を変更する予定です。

(4) 新しい学年段階の設定と学びの工夫

○「4・3・2制」の採用

昭和22年4月から、新しい学校教育法に基づき小学校6年間、中学校3年間を義務教育とする制度、所謂「6・3制」が始まった。この「6・3制」は長く我が国の学校教育に根付き、小学校、中学校それぞれ独自の文化が育まれた。現在の学制の原型が導入された戦後すぐの時期に比べて、現代の子供たちの身体的成長や性的成熟は2年ほど早まっていると言われている。「6・3制」も戦後70年以上経過し、子供たちの発達の現状から小学校6年で区切ることが難しくなっている。

日高市教育委員会としては、9年間の区切り方を現代の子供たちの実態に合わせることで小中学校のスムーズな接続を図りたいと考え、日高市小中一貫教育推進委員会等で子供たちの実態について話し合った。その結果、「小学校4年生から5年生の時期」に心身ともに大きな変化がある、所謂第2次成長期の児童の姿が浮かび上がった。この成長の大きな変化をとらえ、小学4年生までに基礎をしっかり身に着けさせる必要があること、また、発達の特性から、中学2年生と3年生を一つのまとまりとして考えることが適切であるとの結論に至った。

そこで、義務教育9年間を新たな3つのまとまりに区切り、小学1年生から4年生を

「第 I 期 学びの基礎期」、小学 5 年生から中学 1 年生を「第 II 期 学びの充実期」、中学 2 年生から 3 年生を「第 III 期 学びの発展期」とし、「 $4 \cdot 3 \cdot 2$ 制」を採用することとした。この新たな区切りである「 $4 \cdot 3 \cdot 2$ 制」は、東京都品川区や広島県呉市等、小中一貫教育先進地で多く採用されている。中でも第 II 期は、小中一貫教育の一番の重点期で、第 I 期で身に着けた学びを使って課題を解決することを通してその定着を一層図れることが報告されている。また、小学 5 年生から中学 1 年生の 3 年間を一つのまとまりにすることで、定期的に子供たちの基礎・基本の定着状況を確認し、必要に応じて学び直しも可能となる。これは、従来の $6 \cdot 3$ 制では難しかった点である。重点期である第 II 期では、特に小中学校の教員の「協働」が必要になる。小学校と中学校の指導方法を合わせることはもとより、中学の教員が $5 \cdot 6$ 年生の指導を行ったり、小学の教員が中学 1 年生の指導に入ったりすることなども必要となる。どちらかが「主従の関係」ではなく、共に知恵を出し合っての授業づくりが求められる。

〇 一部教科担任制の導入

音楽など一部の教科を除き、小学校6年生までは学級担任制で、中学校1年生から全て教科担任制となるのが今までのスタイルであった。このようなシステム上の変化が子供たちの心理的負担を増大させ、中1ギャップが起こる要因であるとも考えられる。学級担任が児童の学校生活のすべてを把握し、適切な指導・支援を行うという小学校で行われてきた教育の形は、担任と児童、児童相互の信頼が育まれ、よりよい人間関係の醸成が期待できる。しかし、担任教員の一義的な見方は学級内の様々な変化に気付きにくくなることもあり、担任と児童の関係が良い方向にいかずに停滞を招き、学級崩壊や生徒指導上の問題を起こすことも指摘されている。そこで、小学校でも教科担任制を導入し、複数の教員の目で児童の指導にかかわり、小さな変化を見逃さずに対応することで課題の早期発見と解決に資することが可能となる。また、教科担任制は教材研究や授業の準備を行う上で教員の負担軽減にもつながる。

文部科学省では、2022年度に小学校高学年の一部教科担任制を本格的に実施す旨 通達を出し、それに伴う教職員の増員も行うとの報道もされている。先進地域では、小 学3年生から学年内教科担任制を実施している学校もある。第2次性徴が始まる小学4 年生前後を境として、地域や学校の特性を生かし、児童の実態を考慮しながら、外国語活 動や、算数科、理科などで一部教科担任制の導入を検討していくことが求められる。

〇 小・中学校教員による相互乗り入れ授業

小学校教員が中学校で、中学校教員が小学校で授業を行うとなると、教員が所有する 免許状の問題が発生する。基本的には、小学校免許状は小学校でのみ有効で、中学校の教 科免許状はその教科に限り小学校でも授業が可能となる。小・中学校それぞれの教員が、 小・中両方の免許をもっていれば相互乗り入れ授業の自由度が大きくなるが現実は教員 個々によって異なってくる。この取組は教員の所有免許状に左右されるものの、授業を 通して、中学校の教員が小学生を早くから理解したり、小学校教員が卒業した生徒に関 わったりすることは、子供や教員、相互に大きなメリットをもたらす。

○ 小学生と中学生との様々な交流活動

児童・生徒間交流は、小学生には中学生への憧れの気持ち(中学生への畏敬)を、一方中学生には小学生への思いやりの気持ち(自尊感情の育成)を持たせるのに効果が期待できる。しかし、ただやりさえすればよいのではなく、「何のために行うのか(目的)」を明確にした上で行事を企画しないと、児童生徒や教職員が忙しくなってしまうだけの取組となる心配がある。

小中9年間一貫教育構想

『学びの自立』をめざして!

一 9ケ年カリキュラムに基づく一貫した指導 —



2年間

第Ⅲ期 学びの発展期 8年生~9年生

学びの自立を確立する第Ⅲ期は、主体的・対話的で深い学びを総合的に発揮して、実践的な発信力の育成と自己実現を図ります。

- **〇学習指導・・**生徒自身で課題を設定し、学ぶ意義や目的を見出して互いに意見を出し合いながら課題を解決するなど、学びの本質に迫るための学習を行い、自己実現を図る。
- **〇生徒指導・・**生徒一人一人が将来について前向きに捉え、社会的・職業的な自立に向けて選択の幅を広げることができるよう、進路相談・支援の体制を整えてキャリア教育の充実を図る。

3年間

第Ⅱ期 学びの充実期 5年生~7年生

学びの自立への第Ⅱ期は、第Ⅰ期で身に付けた学びをもとに課題を解決したり、 学びをさらに広げたりするなど、主体的な追求力の育成を図ります。

- **〇学習指導・・**今まで学んだことを関連付けて問題を解決したり、論理的に考えて自ら学 びの視野を広げたりするなど、主体的に追及していく力を養う。 非認知能力の育成
- **〇生徒指導・・**課題に対し、チームで取り組む。小中の情報を共有する。 乗り入れ授業や小中合同の教育相談を行い、きめ細かなフォローをする。

4年間

第 I 期 学びの基礎期 1年生~4年生

学びの自立への第 I 期は、体験的・発見的な活動を重視し、各教科・領域における 基礎・基本の定着を図ります。

- **〇学習指導・・**具体的な事物に触れたり、体験から得たりした知識を基に試行錯誤をしながら反復学習を行うことで基礎・基本の定着を図る。
- **〇生徒指導・・**学習形成に有効となる学習規律や生活規律、家庭学習を含めた望ましい生活リズムの定着を図る。 「早ね 早おき 朝ごはん」-

(5) 小中一貫した教育課程の編成・実施に関する取組

(日高市小中一貫教育推進委員会を中心とした、各校における取組)

① 小中共通目標の設定

(ア) ねらい

小中学校教員が、小中共通目標『目指す15歳像』を共有することで、共に連携して児童生徒の教育にあたるようにする。

(イ) 基本方針

これまでは、小学校は6ヶ年の児童像を、中学校は3ヶ年の生徒像を、それぞれ独自に設定してきた。これまでの小学校、中学校を、9ヶ年連続して考えるには、卒業する中学校3年生像、即ち『目指す15歳像』を小中学校教員がお互いに協議し、共有化することが必要である。小中学校教員が『目指す15歳像』を共有することで、学校が1つの目標に向かった組織体になり、児童生徒が安心して教育を受けられるようになる。

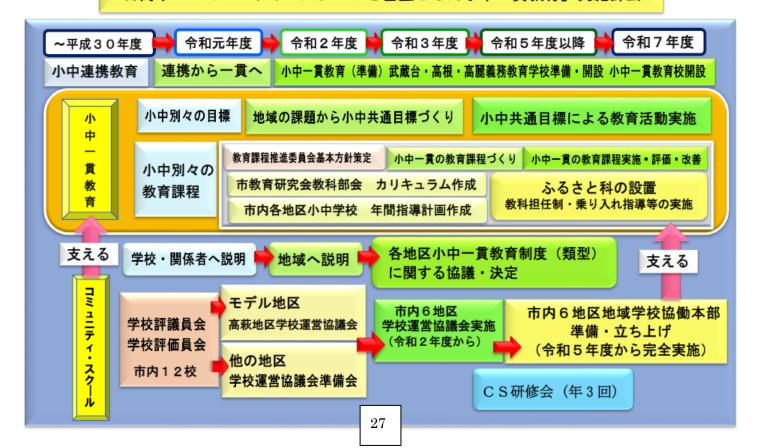
(ウ) 内容

- 1 小学校、中学校の実態(課題等)から、小・中学校共通の課題を考える。
- 2 学校教育目標の視点から、課題を「知」「徳」「体」で考える。課題に、地域の特色が出るようにする。
- 3 課題をもとに小・中学校が共通して育てたい児童生徒像『目指す15歳像』を考える。
- 4 地域の特色が表れた目指す児童生徒像が設定できるようにする。

(エ) 方法

- 1 各委員が、校長の指導のもとに、各学校の実態(課題等)を持ち寄る。6 地区の小中学校に分かれて、小中共通の課題から目指す児童生徒像を考える。考えた児童生徒像については、所属長の指導を受ける。課題から、目指す児童生徒像を考える過程を通して、設定方法や留意点を明らかにする。
- 2 学校運営協議会において、提案された『目指す15歳像』を協議し、承認する。

日高市「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」実施計画



学校・地域の実態調査票

日高市立高麗小学校

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- 歴史・沿革
 - ・開校は明治20年12月2日
 - · 今年度 1 3 6 周年
- ② 学校規模・学級数
 - 小規模校
 - 学級数8
- ③ 特色ある施設
 - ・ 充実した郷土資料室
 - 1階にオープンスペース(多目的室)
- ④ 花壇・自然環境等の状況
 - ・校庭周りには計12箇所の花壇
 - ・学校農園(平成20年~)

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 児童数、全体的特性
 - ・児童数191名 家庭数155世帯
 - ・素直で元気が良い児童が多い。
- ⑥ 学力の状況
 - ・国語…読解力、言語活動に課題
 - ・算数...活用能力に課題
- ⑦ 体力の状況
 - ・ 走力跳力に課題
- ⑧ 人間関係 (いじめ・不登校) 状況
 - ・小中を通して9年間同じメンバー、 グループ化してしまう。

〈教職員の状況〉

- ⑨ 教職員数、全体的特性
 - ・県費14名 市費8名 合計23名
 - ・チームワーク協働的 初動の速さ

2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事・保護者会への参加状況
 - ・学校行事や PTA 活動に積極的に参加してくださる。
- ② 学校への理解、協力状況
 - ・学校教育に理解があり、学校応援団などの活動で、積極的に協力してくださる。
- ③ 学校への意見・要望
 - ・学力・体力の向上
 - ・豊かな心の育成
 - ・落ち着いた学習環境

〈地域〉

- ④ 歴史・文化等の施設の状況
 - ・高麗神社(徒歩20分)
 - · 寺社6箇所(学区内)
 - ・高麗郷古民家(有形文化財)
 - 高麗郷民俗資料館(徒歩2分)
- ⑤ 自然環境等の状況
 - 巾着田(自然観察)
 - ・日和田山(低学年春の遠足)
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
 - ・高麗公民館(3年総合6月)
 - ・高麗の郷(4年総合10月)
- ⑦ 地域人材の状況
 - 学校応援団 登録者数 7 5 名
 - ・各学年の各学習への支援
- ⑧ 学校への期待
 - ・「絆」を大切にする児童の育成
 - ・「豊かな心」社会規範の育成
 - 「ふるさと日高」を愛する高麗っ子の育成

く 生かしたいよさ >

・恵まれた環境

高麗の風十(自然環境 小規模校)

・地域保護者の期待

高麗コミュニティ会議 地域に根ざした(地域一体) 組織運営

- く 解決したい課題 >
- ・前に踏み出す(あきらめない・粘り強さ)力
- コミュニケーション能力

くキーワード〉

伝統

(学校地域一体) (高麗の風土)

協働

(地域・保護者)

交流

(小中一貫 地域)

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史、沿革
- ・昭和22.4.1 高麗村立高麗中を高麗小に併設
- ② 学校規模、学級数
- ・5学級(うち支援学級1)、小規模校
- ③ 特色ある施設
- ・敷地内に弓道場(体育の選択授業で活用)、農園2
- ④ 花壇、自然環境等の状況
- ・PTA 主催「花いっぱい運動」花壇整備

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 生徒数、全体的特性
- ・119名、素直な生徒が多い。個性豊かである。
- ⑥ 学力の状況
- ・生徒間の学力差が大きい。発表力表現力が弱い。 「主体的・対話的で、深い学び」の授業を取り入れ、 徐々に意欲は高まっている。埼玉県学力状況調査で は、どの教科も伸びてきている。
- ⑦ 体力の向上
- ・令和4年度実施の新体力テストでは、48項目中2 5項目で県平均を上回っている。
- ⑧ 人間関係(いじめ、不登校等)の状況
- ・9年間同じメンバー、グループ化、不登校が課題である。また不登校が課題である。

〈教職員の状況〉

- ⑨ 教職員数、全体的特性
- ・常勤13名 ・事務1名 ・ふれあい相談員1名
- ・非常勤3名 ・AET1名 ・SC1名
- ・20代の若手が多く、中間層の職員がいない。 常勤13名と事務1名の計14名から算出 平均在校数…2.4年(異動したての教員が多い) 平均年齢…35.5歳(管理職、事務、養護を除く) 平均勤務年数…10.6年

(管理職、事務、養護を除く)

2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事、保護者会への参加状況
- ・学校行事や PTA 活動等にも積極的に参加してくれる。
- ② 学校への理解、協力状況
- ・学校教育へ肯定的な理解があり、積極的に協力してくれる。
- ③ 学校への意見、要望
- ・学習面での意見や要望がある。
- ・自転車通学の生徒が多いため、安全面での意見 や要望もある。

〈地域〉

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
- ・高麗郡建郡1300年の歴史と文化のある地に位置するため、歴史的価値のある施設は多い。
- ⑤ 自然環境等の状況
- ・市のシンボル日和田山、蔓珠沙華の巾着田。
- ・日高市遠足の聖地である。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
- ・夜間に体育館を社会教育団体に開放、グラウン ドは野球チームが活用している。
- ・弓道場があり、地域の方に開放している。
- ⑦ 地域人材の状況
- ・歴史と文化のある地域に位置するため、多くの 人材を抱えており、協力的である。(社会体験 チャレンジで多くの事業所が協力的)
- 体育の授業での弓道では、地域の方が指導に来てくれている。
- ⑧ 学校への期待
- ・地域に根ざした伝統ある学校であり、多くの卒業生も輩出しているため、今後小中一貫教育やコミュニティスクールの在り方など期待は大きい。
- ・学校評価での地域、諸団体からの評価は比較的 良い。課題等に対し、地域も含めて組織的に向き 合っていきたい。

〈生かしたいよさ〉

- ・恵まれた環境と小規模校(小学校との連携)
- ・素直な生徒
- ・地域保護者の協力と期待
- ・高麗コミュニティーの存在
- ・高麗中の伝統行事

〈伸ばしたい力〉 ・前に踏み出す力

- コミュニケーション能力
- ・粘り強く取り組む力

〈R4年度より〉高麗中ミッション

「ミラクル高麗中 奇跡を起こせ!」

〈キーワード〉

- ・伝統(学校と地域)
- ・協働(地域、保護者を巻き 込んで)
- 交流(小学校、地域)

高麗地区小中学校共通目標

<小中共通目標 ~目指す15歳像~>

〇 全 体

「よく学び、心豊かに、たくましい高麗っ子」

- 知 育 進んで学び、学習の基礎・基本を身につけることができる子
- 徳 育 思いやりの心を持ち、他者と共によりよい生き方ができる子
- 体育 心身共に健康で安全な生活を送ることができる子



<設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに>

本地区の児童生徒のよさは、とても素直で明るく元気である。また、年齢や性別に関係なく仲がよく、お互いに協力し合い活動することができる。しかし、課題は、小さい頃から集団に変化がないため、競い合ったり自分の考えを相手に伝えたり、自らの意見を発表することが苦手であり、表現力やコミュニケーション力にも課題がある。

こうした良さと課題を踏まえて、学力・体力の向上はもちろん、自らの将来 に夢や希望を持ち、自他を尊重し、地域とともに「ふるさと高麗」に学ぶ喜び を味わわせ、前向きに取り組む児童生徒を育てたいと考え、目指す15歳像を 設定した。

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史、沿革
 - ・開校107年の歴史ある学校
 - ・H23年「埼玉医大院内学級開設」
 - · H 2 8年「開校 1 0 0 周年記念式典」
- ② 学校規模、学級数 ※特支は院内学級1を含む(5月1日現在)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
人数	118	118	129	126	138	154	16	799
学級数	4	4	4	4	4	4	3	27

- ③ 特色ある施設
 - ・校舎内1、隣接3の学童がある
 - ・校長室前のテレビモニター (各行事等のスライドショー)
 - ・3階建て、A~C棟に渡る巨大な校舎
 - ・児童養護施設(あいのみ・荒井ホーム)
 - ・オンラインの積極的な活用(出欠連絡・保護者アンケート)
- ④ 花壇、自然環境等の状況
 - ・学年ごとに割振りされた花壇
 - ・学校農園による収穫(じゃがいも・さつまいも・大根等)

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 児童生徒数、全体的特性
 - ・全体的特性として、人懐っこく明るく素直である。また、歌うこと に抵抗がなく、歌声がすばらしい。
- ⑥ 学力の状況※R5 年度埼玉県学力状況調査結果(国語・算数)
 - ・全体的に県平均を下回っている。
 - ・練習問題に繰り返し取り組む必要がある。
 - ・質の高い国語と算数の授業をするための研修の充実が必要である。
- ⑦ 体力の状況 ※R5 年度新体力テスト総合評価(男女合計)

	学校全体	県の割合	
A+B	49.7%	46.1%	
A+B+C	8 1. 2 %	77.4%	

○握力・立幅跳び・ボール投げは過半数の学年が県平均を上回った。

〈教職員の状況〉

- ⑧ 教職員数、全体的特性
 - ・県費負担教職員44名、その他16名、産休育休8名 合計68名
 - ・毎年、職員の入替わりが激しい。(例年ほぼ半数が入れ替わる)ま ⑦ 地域人材の状況 た、臨時採用職員も多く本年度も10名採用。
- ⑨ 平均年齢、男女比(県費負担教職員44名で算出)
 - ·平均年齢 40.5歳(男性職員15名、女性職員29名)

2 地域の実態

〈保護者〉

- 学校行事、保護者会への参加状況
 - ・引き渡し訓練や運動会、全校遠足など、非常に参加 率が高い。特に運動会では、3世代が集まる家族が 多い。
- 学校への理解、協力状況※R5 年度学校自己評価

評価項目	保護者回答結果	
	「A」ほぼ達成「B」概ね達成	
組織運営の充実	87.6%	
基礎学力の定着	87.9%	
社会性・人間性の充実	92.4%	
保護者・地域との連携	89.5%	
安心・安全な教育環境	88.8%	

- ○学校の教育目標や目指す学校像への理解、各取り 組みに対して、非常に肯定的である。
- ③ 学校への意見・要望
 - ・感染症が落ち着き、行事も増え、友達と遊ぶ姿が増 えて安心することができた。
 - ・メール配信を使った情報提供がありがたかった。
 - ・通学路の危険個所への配慮や登校班へも安全指導 を充実してほしい。

〈地域〉

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
 - ・「製茶の父」高林謙三/桑田正平の記念石碑(北平沢)
 - ・野々宮神社 (野々宮)
- ⑤ 自然環境等の状況
 - ・高麗川駅、国道15号や30号など交通量が多いエ リアであり、住宅も多いため日高の中ではあまり 自然環境に恵まれていないが、学区内を高麗川が 流れる。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
 - 教育センター、生涯学習センター併設の市立図書館
 - 高麗川公民館
 - ・日高市文化体育館ひだかアリーナ
 - ・市民プール
- - ふれあい推進委員
 - · 民生児童委員
 - 健全育成会
 - ・公民館サークル
- ⑧ 学校への期待
 - あいさつ
 - ・安心安全な学校(施設等の修繕や改善)
 - ・学力の向上

〈活かしたいよさ〉

【児童・生徒】・・・明るく、元気 ・年齢や性別に関係なく仲が良い

・素直な性格で勤労奉仕の心が育っている。(お手伝い好き)

【地域・保護者】・・全体的に協力的で子供や職員を温かく見守ってくれている 〈解決したい課題〉

【児童・生徒】・・・積極性や自主性・時間の意識や有効活用・競争意識、忍耐力

【地域・保護者】・・家庭の教育力の2極化(熱心⇔無関心)

〈キーワード〉

- 積極性・自主性(児童生徒)
- こまがわっ子

(この言葉は児童生徒や職員 のみならず地域に浸透して いる)

·二極化(児童生徒・家庭)

学校・地域の実態調査票

1 学校の実態 〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史、沿革
 - ・昭和22年入間郡高麗川村立高麗川中学校として開校
 - ·昭和23年11月 新校舎竣工 職員数8学級数6
 - ・平成3年 市制施行により日高市立高麗川中学校に改称
 - 平成 23, 24, 25 年 校舎体育館耐震工事大規模改修
- ② 学校規模、学級数 (R5.5月10日現在)

学年	1年	2年	3年	特支	合計
人数	1 4 0	1 3 8	1 5 5	1 3	4 4 6
学級数	4	4	4	3	1 5

- ③ 特色ある施設
 - ・生徒全員へのタブレット端末 (グーグルクローム)
 - ナイター照明のあるグラウンド
- ④ 花壇、自然環境等の状況
 - 学校のシンボルとしてロータリーに大けやき。
 - ・学校農園における栽培、収穫。

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 児童生徒数、全体的特性
 - ・生徒数446名。明るく素直である。男女の仲がよい。 ボランティア活動に意欲的である。
- ⑥ 学力の状況(中3) ※R5 年度埼玉県学力学習状況調査結果

教科		国語	数学	英語
D.E.	埼玉県	8 —A	8 -C	1 O -C
R 5 結果	高麗川中	8 — A	8 —B	9 —B
和木	比較	0	+ 1	+ 2
D4 3.5	埼玉県	+ 1	+ 2	+ 2
R4 から R5の伸び	高麗川中	+ 1	0	+ 1
K S O JHI O	比較	0	+ 2	-1

- ○国語が伸びている。
- ▲数学・英語に伸びがなく、県平均を下回っている。
- ⑦ 体力の状況 ※R5 年度新体力テスト総合評価 (男女合計)

	学校全体	県の割合
A + B	57.0%	53.1%
A+B+C	86.2%	81.1%

- 男女各24項目計48項目中
- ○30項目(上体起こし、持久走等)で県平均を上回る。
- ▲18項目(ボール投げ、握力等)で県平均を下回る。
- ⑧ 人間関係(いじめ、不登校等)の状況 ※R5年度結果
 - ・いじめアンケートを生徒に年3回、保護者に年1回実施している。

〈教職員の状況〉

- ⑨ 教職員数 (産休・育休を除く)、全体的特性
 - ・県費負担教職員27名、その他10名 合計37名
 - ・職員の入れ替わりが激しい。新採用教員が毎年配置されている。臨時採用職員も5名勤務している。本校が1校目、または2校目の教員が半数以上である。

2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事、保護者会への参加状況
 - ・体育祭、合唱祭など、非常に参加率が高い。3世代での参観も多い。定期の保護者会は60%程度である。土曜公開日の参観率は高くない。
- ② 学校への理解、協力状況 ※R5 年度学校自己評価

評価項目	保護者回答結果 「A」ほぼ達成「B」概ね達成
組織運営の充実	90%
基礎学力の定着	8 7 %
社会性・人間性の充実	9 7 %
保護者・地域との連携	9 3 %
安心・安全な教育環境	9 5 %

- ○学校の教育目標や目指す学校像への理解、各取り 組みに対して、非常に肯定的である。協同学習、い じめ、不登校対応についても理解を得られている。
- ▲学力の伸びが数値として表れてこない。
- ③ 学校への意見・要望
 - ・小グループ(4人組)を用いた協同学習では、意見 が活発に交わされ、とても良い雰囲気で学習して いるので、続けて欲しい。
 - ・ボランティア活動を学校の代名詞に。
 - ・校舎内外の整備がよくできている。今後もPTAや 地域で協力していきたい。

〈地域〉

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
 - ・「製茶の父」高林謙三/桑田正平の記念石碑(北平沢)
 - ・野々宮神社 (野々宮)
- ⑤ 自然環境等の状況
 - ・高麗川駅、国道15号や30号など交通量が多いエリアであり、住宅も多いため日高の中ではあまり自然環境に恵まれていない。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
 - · 高麗川公民館
 - ・ 生涯学習センター
 - 市立図書館
 - ・日高市文化体育館ひだかアリーナ
 - ・市民プール
- ⑦ 地域人材の状況
 - 学校応援団
 - · 民生児童委員
 - 健全育成会
- ⑧ 学校への期待
 - ・学力・体力の向上
 - ・ボランティア活動でさらなる地域貢献を
 - ・安心安全な学校

〈生かしたいよさ〉

- 【児童・生徒】・・・明るく、元気が良い ・年齢や性別に関係なく仲が良い ・素直な性格で勤労奉仕の心が育っている
- 【地域・保護者】・・全体的に協力的で子供や職員を温かく見守ってくれている 〈解決したい課題〉
- 【児童・生徒】・・・積極性や自主性・時間の意識や有効活用・競争意識、忍耐力
- 【地域・保護者】・・家庭の教育力の2極化(熱心⇔無関心)

〈キーワード〉

- 積極性・自主性(児童生徒)
- こまがわっ子
- (この言葉は児童生徒や職員 のみならず地域に浸透して いる)
- ・二極化 (児童生徒・家庭)

32

高麗川地区小中学校共通目標

<小中共通目標 ~目指す 15 歳像~>

〇 全 体

「ふるさとを愛し、自ら進んで学ぶ、心豊かな高麗川っ子」 〜地域と学校の連携を生かした学習・体験・交流を通して〜

- 知 育 自ら考え、よく学び、自分の言葉で表現できる子
- 徳 育 相手の気持ちを考えて、仲良く協力し合える子
- 体 育 自分の目当てを持って、進んで運動できる子



<設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに>

本地区の児童生徒のよさ(課題)は、

- ①明るく、元気である。
- ②年齢や性別に関係なく仲が良い。その分競争意識、粘り強さに欠ける。
- ③素直で勤労奉仕(お手伝い、ボランティア)の心がある。 こうしたよさ(課題)を踏まえて、
- ①さらに自主性・積極性を磨き、自分から学び・行動する児童生徒
- ②すぐにあきらめず、仲間と競い合い、高めあって粘り強く課題に対処してい く児童生徒
- ③奉仕の心を大きく育て、友人、地域、社会の役に立つ経験を通して、それを 自信にしてさらに伸びていく児童生徒
- を育てたいと考え、上記の目指す生徒像を設定した。

高麗川中学校卒業後、未知の状況の中でも、ねばり強く考え、行動し、自分の足で人生を切り拓き、歩んでいく生徒を育てたい。他者や社会の役に立つ経験を通して、自分の行動(人生)に自信を深め、さらに社会に貢献していくような児童生徒を育てたいと考え、目指す15歳像を設定した。

学校・地域の実態調査票

日高市立高萩小学校

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史
 - ・令和5年度で135年を迎えた歴史ある学校。 高萩北小学校と昭和53年に分離した。
- ② 学校規模 学級数
 - ・中規模校 全校児童 令和6年1月22日現在 540名 家庭数418
 - ・学級数 21学級(特別支援4学級を含む)
- ③ 施設の特色
 - ・中学校と隣接しているため、プールや校庭は共有している。敷地内に公民館がある。
- ④ 花壇、自然環境等の状況
 - ・学区内に栗林、ブナ林等が点在している自然豊かな学校。また国道407号が走っていて大きな幹線道路がある。

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 学級数と児童の特性
 - ・2年生は2学級、それ以外は3学級平行。特別 支援学級が4学級ある。人懐っこく素直な児童 が多いが、ねばり強さに欠けるのが課題であ る。
- ⑥ 学力の状況
 - ・算数に関しては学年間で差があったり、4年生から得点が取れなくなったりしている傾向があり、改善を図っている。
- ⑦ 体力の状況
 - ・新体力テストの結果は、埼玉県平均の記録に若 干届かない種目が多い。ボール投げが得意で、 握力と 20mシャトルランが課題。
- ⑧ 人間関係(いじめ、不登校等)に対する対応
 - ・いじめ案件や不登校児童に対する対応は、生徒 指導主任を中心として、組織で行っている。

〈教職員の状況〉

- ⑨ 教員数 全体的特徵
 - ・県費負担教職員32名 男性12名、女性20名
 - 担任21名
- ⑩ 平均年齢 男女比
 - 41歳 男:女=10:24

2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事、保護者会への参加状況
 - ・学校行事、役員を中心に協力的である。
 - ・保護者会への参加状況 学年によるが60%前後。
- ② 学校への理解、協力状況
 - ・理解があり好意的に支えてくださる方が多い。
- ③ 学校への意見・要望
 - ・あいさつをして元気に学校に通うこと。

〈地域〉

- ④ 歴史、文化等の施設
 - ・鎌倉街道の記念碑、女影ヶ原古戦場跡がある。
- ⑤ 自然環境の状況
 - ・学区内には、森林が豊富にあり、自然豊かな 学区である。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
 - ・敷地内に高萩公民館が建設された。
- ⑦ 地域人材の状況
 - ・木の剪定や除草作業に積極的に助けていた だける。
- ⑧ 学校への期待
 - ・子どもたちが安心・安全に通えて、あいさつ のあふれる学校。

〈生かしたいよさ〉

- ・保護者、地域の方の協力
- ・素直な子どもたち
- ・児童の主体的活動

〈解決したい課題〉

- ・若手職員の育成、児童・保護者理解
- ・指導力向上(学力向上に向けて)
- ・児童のねばり強さの育成

〈キーワード〉

- 保護者、地域との連携
- ・指導力向上

(学力向上、児童・保護者理解)

・粘り強さ

学校・地域の実態調査票

日高市立高萩中学校

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史、沿革
 - ・昭和22年4月1日 高萩村立高萩中学校開設
 - •現在、開校77年目
- ② 学校規模、学級数
 - ・中規模校、11クラス(うち特支学級2クラス)
- ③ 特色ある施設
 - ・高萩小学校とグラウンドが繋がっている。
- ④ 花壇、自然環境等の状況
 - ・学校ファームとして特支学級の生徒がじゃがい もや大根、小松菜などの野菜を栽培している。

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 児童生徒数、全体的特性
 - ・303 名、落ち着きがあり、素直である。 一方、集団生活に不安を感じている生徒がいる。
- ⑥ 学力の状況
 - ・令和5年度埼玉県学力学習状況調査では埼玉県 平均を下回っていた。
- ⑦ 体力の状況(令和5年度調査)
 - ・県平均を上回っているものは48項目中、29項目 あり、コロナ禍が明け、昨年度から比べ、体力向 上の傾向が見られる。

〈教職員の状況〉

- ⑧ 教職員数、全体的特性
 - ・ 県費教職員 23 名、その他職員 12 名
 - ・再任用3名、本校が1校目または2校目の職員 が半数以上、臨時採用が1名である。
- ⑨ 平均年齢、男女比(校長、教頭を除く県費職員)
 - ·41 歳、 14:7

2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事、保護者会への参加状況
 - ・参加率およそ60% (年間行事の平均) である。
- ② 学校への理解、協力状況
 - ・学校評価では、教育方針への理解度が90%である。
- ③ 学校への意見・要望
 - ・基本的には感謝の言葉が多いが、一部の家庭より、校則や指導について改善要望がある。

〈地域〉

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
 - ・鎌倉街道や日光街道等の歴史的主要交通網がある。
 - ・女影ヶ原古戦場跡などがある。
- ⑤ 自然環境等の状況
 - ・雑木林や水田、畑などが多くある。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
 - ・公民館が高萩小学校校庭に新築された。
 - ・学区内に総合公園がある。
- ⑦ 地域人材の状況
 - ・ 高萩地区青少年健全育成の会と生徒による地域 清掃を毎年行っている。
 - ・萩っ子見守隊による登校指導が行われている。
- ⑧ 学校への期待
 - ・高萩地区の歴史などの伝承や郷土愛の育成。
 - ・地域で挨拶が交わせる人間関係づくり。
 - ・校内で生徒が安心安全で生活できる環境づく り。

生かしたいよさ〉

- ・生徒の素直で真面目な態度 ・継続的な特別活動 ・地域や保護者からの協力
- ・学校環境(行き届いた清掃) ・隣接型による小中一貫教育 ・地域との連携 〈解決したい課題〉
- ・不登校生徒や情緒不安定な生徒への対応 ・意図的な地域連携
- ・教職員の指導力向上と生徒の学力向上 ・教職員の人材育成とケア
- ・生徒の主体性、ねばり強さ、コミュニケーション能力

〈キーワード〉

- ・個と集団
- 協働、連携
- ねばり強さ
- 主体性

高萩地区小中学校共通目標

<小中共通目標 ~目指す15歳像~>

- 全 体 ふるさとを愛し、生きていく力を育む萩っ子
- 〇 知 育 夢を持ち、豊かな学びができる子
- 徳 育 絆を大切にする子
- 〇 体 育 明るく元気な子



<設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに>

本地区の小中共通の課題として、以下の三点がある。

- 1 主体的に取り組む
- 2 ねばり強く取り組む
- 3 コミュニケーション能力が低い

これらの課題を克服するために、目標の文言に取り入れた。

学校運営協議会などで話し合った内容(地域・保護者の意見)として、 以下の三点がある。

- ・「おらが地域」という言葉を用いて欲しい。
- ・「感謝」できる人に成長して欲しい。
- ・毎日「健康」でいて欲しい。

こうした地域の意見を踏まえて、地域全体の目標としての位置づけができるような目指す**1**5歳像を設定した。

学校・地域の実態調査票

日高市立高根小学校

1 学校の実態

<学校の歴史、文化等>

- ① 歴史、沿革
- ・昭和48年 開校(高麗川小より分離)
- ・平成 17 年 北校舎耐震工事 南校舎解体
- 令和 4 年 開校 50 周年
- ② 学校規模、学級数
- · 小規模 学級数 9 学級
- (うち特別支援学級が3学級)
- ③ 特色ある施設
- 高根児童室併設
- ・小さな美術館、水田、国際理解ルーム
- ④ 花壇、自然環境等の状況
- ・花壇…中庭、正門前
- ・農園…校庭南側 水田…校庭東側。
- ・学校の北・東側には住宅地が広がり、 南・西側には森、林が見られる。

<児童生徒の状況>

- ⑤ 児童生徒数、全体的特性
- ・児童数 170(5/1 現在) (男子 84 人 女子 86 人)

配慮を要する児童、家庭が各クラスに一定程 度いる。素直な子が多い。

- ⑥ 学力の状況
- ・全体的に課題が見られるが、自己効力感は高い。
- ⑦ 体力の状況
- ・昨年度より向上している。
- ⑧ 人間関係の状況
- 単級のため、クラス替えがない。 人間関係が固定化しがちになる。

<教職員の状況>

- ⑨ 教職員数、全体的特性
- ・常勤職員19人 非常勤職員1人
- ・育児休業職員3人 合計23人常勤職員の半数が20~30代。本校に勤務して3年以内という職員が23名中12名。
- ⑩ 平均年龄、男女比
- · 平均年齢 43.7 歳
- ・男女比およそ2:3。女性の割合が多い。

2 地域の実態

<保護者>

- ① 学校行事、保護者会への参加状況
- ・懇談会への出席率1 学期 70% 2 学期 52%
- ・前年度より上昇し、参加率が高まっている。コロナ感染を考慮し、限定ライブ配信との併用を 行っている。
- ② 学校への理解、協力状況
- ・学校応援団、PTAが協力的。 運動会開催にあたり、多くの保護者の協力をい ただいて実施できた。
- ・学校に対する期待も大きい。
- ③ 学校への意見・要望
- ・指導方法に対する意見・要望をいただく ことがある。

<地域>

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
- ・約50年前、住宅公団や不動産会社による宅地開発によって山を切り開いてできた。こま川団地の歴史とともにある。

高麗川南公民館。

- ⑤ 自然環境等の状況
- ・住宅地・団地が北から東側に広がり、森林が南 から西側に広がっている。桜並木が学校北側の 通りにある。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
- ・放課後や土曜日の午後など、子供たちの成長を 見守ってくれたり、様々な経験をさせてくれた りする機関がある。

高根児童室 高麗川南公民館

ぬくもり元気食堂

青少年健全育成の会

- ⑦ 地域人材の状況
- ・学校運営協議会でコミュニティ・スクールの基 盤づくりを進めている。
- ・学校応援団の協力が手厚く、体制が組織として しっかりしている。
- ・人材の高齢化が課題である。
- ⑧ 学校への期待
- ・学校をよりどころとし、積極的に協力してくだ さる方が、高齢の方を中心に多い。

<生かしたいよさ>

- ・地域の協力的風土
- ・子どもたちの素朴さ、少人数(縦のつながりを作れる)

<解決したい課題>

- ・地域と保護者のむすびつき、連携の構築
- ・学力向上(思考力・判断力・表現力、考え続ける粘り強さ、関心)

<キーワード>

- ・地域連携
- ・粘り強さ
- ・基礎・基本の定着

学校・地域の実態調査票

日高市立高根中学校

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史、沿革
 - ・昭和58年4月1日 日高町立高根中学校開校 (日高町立高麗川中学校を分割)
 - ・平成3年10月1日 日高市立高根中学校に改称
 - ・本年度38周年を迎える。
- ② 学校規模学級数
- ・通常学級1年1クラス 2、3年 各2クラス
- ・特別支援学級2クラス

合計7クラス

- ③ 特色ある施設
- ・各学年の階に学年で使用する集会室がある
- ④ 花壇・自然環境等の特徴
 - ・高根中では緑化委員会が季節に合わせて、花壇に球根を植えている。
 - ・校庭は桜の木が校庭を囲むように植えてある。
 - ・校門への坂の花壇には、ツツジが植えてある。

〈児童生徒の状況〉

⑤ 生徒数 (特別支援を含む)、全体的特性

<u> </u>	(14/44/2012)	C D 7	711 62 13 17
	1年	2年	3年
クラス	1	2	2
人数	3 4	4 5	4 6

- ・本校生徒の生活態度は落ち着いており、規律ある 授業が展開されている。自分に興味があるもの、 得意なものに対して熱心に取り組むことのできる 生徒も多い。一方において、家庭環境が複雑な生 徒も多く、家庭との連携など課題がある。生徒の 階層的な欲求を十分に満たしていく方策に期待が 寄せられている。
 - ⑥ 学力の状況
- ・国や県の実施している学力テストにおいて、学力の状況に関する課題は少なくない。興味がないもの、苦手なものに対しては、取り組む前からあきらめてしまう生徒も多いため、学力や学習意欲についての生徒間の差がとても大きく、基礎学力が十分に身についていない生徒も多い。全国学力・学習状況調査と埼玉県の学力・学習状況調査での正答率においては、国や県の平均を下回っているものが多く、生徒質問調査においては、学習への考え方や取り組み方に関する質問では、残念ながら日高市や埼玉県の平均よりも低い傾向にある。
 - ⑦ 体力の状況
- ・体力の状況においては、本校生徒は体育が好きなので、得意な生徒が多く、体力テストにおいても埼玉県の平均を上回っている項目は多岐に渡る。

また、体力証を受ける生徒もクラスで多くいる。 体育祭の練習も、全校生徒一丸となって取り組む ことができる。

- ⑧ 人間関係
- ・本校でのいじめの問題は、SNSによる問題があった。
- ・不登校の状況は、各学年に数名程度である。

〈教職員の状況〉

- ⑨ 教職員数、全体的特性 · 常勤 17名
 - ・事務1名 ・ふれあい相談員1名
 - 非常勤3名AET1名
 - ・スクールカウンセラー1名
- ⑩ 平均年龄、男女比
 - 平均年齢 男性教員44.5歳女性教員45.1歳 全体44.8歳
 - ・男女比13:5
- 2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事、保護者会への参加状況]
- ・学年によって、若干の差異はあるが、全体的に は学校行事や保護者会などへの参加率がなかな か伸びないのが課題である。
- ② 学校への理解、協力状況
 - ・学校への理解がある家庭が多いと考えるが、 協力に関しては、家庭環境が複雑な家庭も多く なかなか学習面や生活面で十分な協力を仰ぐの は難しい家庭も多いのが現状である。
- ③ 学校への意見、要望
 - ・学校教育への意見や要望は、直接寄せられる ことは少ない。

〈地域〉

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
 - ・UR住宅のこま川団地と一戸建て住宅が密集しているため歴史、文化等の施設は見られない
- ⑤ 自然環境等の状況
 - ・住宅地を除くと田んぼや畑が混在している。 社会教育関係施設の状況
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
 - ・高麗川南公民館
- ⑦ 地域人材の状況
 - ・青少年健全育成の会、学校応援団
- ⑧ 学校への期待
 - ・学習面での期待が直接寄せられることは少ない。生活面での要望が時折見られる。

(生かしたいよさ)

- 素直で明るいところ
- ・少人数のため目が行き届く
- ・地域が協力的である

〈解決したい課題〉

- ・家庭力の向上
- 学力向上

<キーワード>

- 地域連携
- ・粘り強さ
- ・思考力・表現力

高根小中学校共通目標

<小中共通目標~目指す15歳像~>

○ 全体 夢を持ち、自分の行動に責任を持つ かにたっ子

〇 知育 自ら学ぶ子

○ 徳育 夢に向かってがんぱる子

O <u>体育</u> あきらめないでやりぬく子



<設定理由(納得させる説明)児童生徒のよさと課題をもとに>

本地区の児童生徒のよさは、「素直で明るい児童生徒が多いこと」である。これは、家庭や学校だけでなく、学校応援団をはじめとした地域の方々の熱心な協力によって育てられている。

一方、次のような課題が見られる。1つ目は、「基本的な生活習慣の定着」である。虫歯の治療率が低く、1日歯磨きをしない児童生徒も見られる。学習面では宿題などの提出物を自分から出すことができない児童生徒がいる。2つ目は、「学力に課題が見られる児童生徒の割合が高い」点である。そして、3つ目は、「自分に自信がもてない点」である。自信は、物事をやり遂げることで身につくものだが、本地区の児童生徒は、こうした機会が少なかったり、うまくやり遂げられなかったりしたことなどが原因と考えられる。

こうしたよさと課題を踏まえて、小中9年間をかけて、「基本的な生活習慣をしっかり身に付けること」「自ら学び、基礎基本の学力をつけること」を粘り強く取り組むことで先の2つの課題解決につなげていきたい。この2つの粘り強い取組は、児童生徒のできることが増えていくことに結びつき、それが自信へとつながっていく。自信は自分たちの学びに広がりを与え、自分のもつ可能性や将来の夢を持つことにつながる。また、視野の広がりに伴い、今まで気付かなかった地域の方々の協力のおかげであることにも気付くことにつながると考える。

このように、自分にできることを増やす中で自分に自信をもつとともに、地域の支えに気付き、「いつかは自分の地域のために」と地域の発展を願う心を育てたいと考え、目指す15歳像を設定した。

学校・地域の実態調査票

1 学校の実態

〈学校の歴史・文化等〉

- ①歴史、沿革
 - ・昭和53.4.1 日高町立高萩北小学校として開校
- ②学校規模、学級数
 - 2 2 学級、中規模校、減少傾向
- ③特色ある施設
 - •岩石園、流水実験施設
 - ・観察池(北っ子池)
- ④花壇、自然環境等の状況
 - ・運動場、花壇、学校ファーム、観察池(北っ子池)

〈児童の状況〉

- ⑤児童数、全体的特性
 - · 549名
 - ・素直で人懐っこい児童が多いが、自己表現が苦手
- ⑥学力の状況
 - ・全国、県平均より低い。児童間の学力差が大きい。
 - ・学力が低位層の児童の学力の伸びが大きい。
 - ・非認知能力の「向社会性」の伸びが大きい。
- ⑦体力の向上
 - ・県平均に近づいてきている。
 - ・新体力テストの結果では、県の平均の数値を超えている種目は男子約44%、女子約60%である。
- ⑧人間関係(いじめ、不登校等)の状況
 - ・不登校数はコロナ流行を経て増加している。

〈教職員の状況〉

- ⑨教職員数、全体的特性
 - 県費職員(34名)
 - ・若手が多く、ベテランが少ない。
- ⑩平均年龄、男女比
 - ・平均年齢・・・41.2歳
 - ・男女比・・・男性11名、女性23名

2 地域の実態

〈保護者〉

- ①学校行事、懇談会への参加状況
 - ・運動会などの学校行事への参加率は高い。
 - ・4月の懇談会は比較的、参加率が高い
- ②学校への理解、協力状況
 - ・PTAの協力や登下校の立哨指導など保護者や 地域の方から多くの協力を得ている。
 - ・公民館を中心に地域学校協働活動の組織が作られた。
- ③学校への意見、要望
 - ・家庭学習の習慣がつくような指導についての要望が高い。

〈地域〉

- ④歴史、文化等の施設の状況
 - ・地域一帯は戦後に開拓地となったが、戦中は陸軍航空隊の飛行場だった。
- ⑤自然環境等の状況
 - ・大きな畑地が点在している。
 - ・旭ヶ丘松の台土地区画整理事業が行われている。(R7.11月まで)
- ⑥社会教育関係施設の状況
 - ・公民館、公会堂があり、県立日高高校が隣接している。
- ⑦地域人材の状況
 - ・様々な機関や施設が身近にある(公民館、旭ヶ 丘病院)
 - ・産業、工場が多い(茶畑、丸美屋のりたま工場、 加藤牧場)
 - ・地域の方が協力的である(学校応援団や見守り 隊)

⑧学校への期待

- ・学校教育目標の具現化をし、達成すること
- ・児童の学力や体力向上、生活習慣化が保障されること
- ・教師と子供が共に成長し合うこと。
- ・保護者・地域から信頼される学校をつくること。
- ・互いに支える教職員集団『チーム北小』を築き 上げ、家庭、地域と共に協力し合うこと。

〈生かしたいよさ〉

- ・自校のことをよく理解し分析することが、子供(学校)、家庭、地域へとつながると考える。
 - →小・中学校が連携して組織的に取り組む。(目指す学校像と育てたい児童生徒像の共有)
 - →地域を巻き込んだ教育活動の推進(様々な機関や施設、産業、工場、日高高校、加藤牧場など)

〈解決したい課題〉

- ・児童の学力や体力の向上
- ・児童の表現力の向上

1 学校の実態

<学校の歴史、文化等>

① 歴史、沿革

昭和 20 年に飛行場跡地に高萩開拓団が入植し、旭ヶ丘を拓いた。 北中は昭和 59 年 4 月 1 日に萩中から分離して開校した。

② 学校規模·学級数

中規模校·13 学級

1 学年	2 学年	3 学年	特別支援
3 学級	4 学級	3 学級	2 学級

③ 特色ある施設 特になし

④ 花壇、自然環境等の状況

校庭を挟むように花壇が設置されており、地域の花植 プロジェクトにより通年花が咲いている。季節によっ て体育館西側にも大規模花壇を整備している。

<児童生徒の状況>

⑤ 児童生徒数、全体的特性 生徒数 360 人、明るく元気な声が出る生徒が多い。

⑥ 学力の状況

全国、県平均より低い。県学力状況調査では勉強が苦手だった生徒層の数値が上昇しているが、中間層の伸びが鈍い。

⑦ 体力の状況 県平均よりやや高い。

⑧ 人間関係(いじめ、不登校等)の状況 SNS等を媒介としたいじめがあった。 不登校は比較的高い状態にある。

<教職員の状況>

⑨ 教職員数、全体的特性25人(県費職員)、若手中心でベテランが少ない。

⑩ 平均年齢、男女比

男 15 人、女 10 人、→平均年齢 38.2 歳

2 地域の実態

<保護者>

① 学校行事、保護者会への参加状況 体育祭や合唱祭への参加率は非常に高かった。 保護者会への参加率は、各学年により差があっ たが、比較的高い。1学期、2学期は、各学年で 日を分けて保護者会を行った。

② 学校への理解、協力状況 PTA活動が盛んで、PTA役員の学校への協力は 高いレベルにある。学校評価では学校教育目標 への理解が96%、学習内容についても88%が肯 定的理解となっている。

③ 学校への意見・要望 家庭学習の取り組みについてや学習内容が身に つく

ようなわかる授業への意見・要望が多い。

く地域>

④ 歴史、文化等の施設の状況 南北に鎌倉街道、東には日光街道杉並木が走っている。また、地域一帯は戦後に開拓地となったが、戦中は陸軍航空隊の飛行場だった。近年では高麗郡関連の遺跡も発見されている。

⑤ 自然環境等の状況 加藤牧場が隣接している。また、大きな畑地が点 在している。

⑥ 社会教育関係施設の状況 公民館、公会堂があり、学区内に県立日高高校が 設置されている。

⑦ 地域人材の状況酪農、農業、落語、部活動指導

② 学校への期待平和な中学校生活を送らせたい学力の向上

<生かしたいよさ>

・明るく元気な声が出せる生徒が多い。

・地域活動が盛んである。

<解決したい課題>

- 学力向上
- ・頑張り抜く力

<キーワード>

自 立

創造

貢 献

高萩北地区小中学校共通目標

<小中共通目標 ~目指す15歳像~>

〇全 体 「明日をひらき のびゆく 輝多っ子」

〇知 育 自ら学び続ける子

○徳 育 相手の気持ちを考え行動できる子

〇体 育 進んで運動を楽しめる子



<設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに>

本地区の児童生徒のよさ・課題は、児童生徒・教職員・保護者・地域で実施したアンケートより以下のように示すことができる。

<よさ>

- ①明るく、元気である
- ②仲がよい
- ③行事等に一生懸命で、団結できる
- <課題>
- ①学力の向上(あきらめない・粘り強く・自ら進んで)
- ②積極性・自主性(あいさつ・時間を守る・忘れ物をなくす・決まりを守る)
- ③豊かな心の育成(いじめをなくす・悪口をなくす・掃除を頑張る・言葉遣い)

また、児童生徒のよさ・課題に加え、長年にわたり学校を支えて下さる方が多数おり、学校に対して協力的に活動していただいているという特色がある。これらを踏まえ、高萩北地区の児童生徒育成のねらいとして、小中学校9年間の学び(学習面)と、育ち(生活面)、生涯に渡り運動に取り組める姿勢(体力面)を鑑みて目指す児童生徒像(知・徳・体)を設定した。目指す15歳像は、自ら未来を拓き、生涯にわたり成長し続け、地域に貢献できる北(輝多)っ子を育てたいと考え、上記のように設定した。

学校・地域の実態調査票

日高市立武蔵台小中学校

1 学校の実態

〈学校の歴史、文化等〉

- ① 歴史、沿革
- ・昭和55年開校 ・令和5年3月31日で閉校 令和5年度から日高市立武蔵台小中学校となる。
- ② 学校規模、学級数 · 小規模
- ・前期課程 9学級(通常7、特別支援2)
- ・後期課程 5学級(通常3、特別支援2)
- ③ 特色ある施設
- ・タイヤ木山(自然環境を生かした遊び場)
- ・教室に余裕があるので教科ごとに教室がある。
- ④ 花壇、自然環境等の状況
- ・花壇はよく手入れがされ、ビオトープにはたく さんの生き物が棲みついている

〈児童生徒の状況〉

- ⑤ 児童生徒数、全体的特性
- ・児童数312名(前期…199名後期…112名)
- ・高学年のリーダーシップが強い。
- ⑥ 学力の状況
- ・定期テスト前の勉強会を実施し、不得意科目の 克服に取り組んでいる。(後期課程)
- ⑦ 体力の状況
- ・全体的に高めだが、投げる力がやや弱い。(訓)
- ・走力はレベルが高い(長距離走の結果が良い)。
- ⑧ 人間関係 (いじめ、不登校等) の状況
- ・不登校傾向の児童が若干名いる。
- ・毎月末に学校生活アンケート実施し、いじめの 早期発見に努めている。(後期課程)

〈教職員の状況〉

- ⑨ 教職員数、全体的特性
- ・30名(県費)、児童生徒によく寄り添い熱心。
- ⑩ 平均年齢、男女比
- 40代後半

2 地域の実態

〈保護者〉

- ① 学校行事、保護者会への参加状況
- ・いずれも6~9割程度。学年等によっても異なる。行事と比べると、保護者会への参加は少め
- ② 学校への理解、協力状況
- ・PTA活動にとどまらず、運動会の準備等に も進んでご協力いただける方が多い。
- ③ 学校への意見・要望
- ・異年齢集団の行事、体験を希望する方が多い。

<地域>

- ④ 歴史、文化等の施設の状況
- ・昭和48年に入居が始まった新しい街区である。 高麗石器時代住居跡(日高市 台)
- ⑤ 自然環境等の状況
- ・多峯主山を背にした森の香り豊かな環境であ り、標高がやや高いため冬は比較的寒い。
- ⑥ 社会教育関係施設の状況
- ・武蔵台公民館が中心となり、社会教育関係の事業を推進している。
- ⑦ 地域人材の状況
- ・高学歴の方が多く、多くの分野で活躍された方 がいる。教育活動には協力的。
- ⑧ 学校への期待
- ・学力向上への期待が高い。学校へ協力的である一 方、地域への協力要請も多い。

<生かしたいよさ>

- ・細かい部分まで目の届いた学習支援
- ・地域の教育に対する理解(期待)の高さ
- <解決したい課題>
- ・現状に満足しない、より高度なレベルを求めていく意識改革
- ・児童数減少と、それに伴う保護者 (PTAなど)、教職員の人材育成

<キーワード>

• 学力向上

武蔵台小中学校共通目標

<小中共通目標 ~目指す15歳像~>

- 全体 たくましく未来を切り拓き、一歩上を目指す台っ子
- 知 育 進んで学び、学習の基礎基本をしっかりと身に付けた15歳
- 徳 育 思いやりの心を持ち、他者とともにより良い生き方を求める15歳
- 体 育 基礎体力を身に付け、心身ともに健康で安全な生活を送る15歳



<設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに>

本地区の児童生徒のよさ (課題) は、学力への関心の高さと、さまざまな手段 (人との交流、調べ学習、情報機器の活用)で興味関心のある事柄について探求する能力が備わっていることである。また、地域の教育に対する理解も深く、細かい部分まで目の届く学習支援が可能な環境である。一方で、「ここまででいい」という達成度で満足しがちであるという課題もある。

こうしたよさ (課題) を踏まえて、対話・協働による学びを大切にし、高い 目標を持って学習できる児童生徒を育成したいと考え、目指す 1 5 歳像を設定 した。

② 小中一貫教育に係る教育課程の編成

(ア) ねらい

義務教育9年間を一貫した学習指導を通して、児童生徒の学力向上を図る。

(イ) 基本方針

- ・学習状況調査等の児童生徒の実態から重点を置く指導内容を定め、カリキュラムを開発・実施することにより、児童生徒が躓きやすい単元や、重点的に指導すべき事項が明らかになり、確かな学力の向上を図ることができる。
- ・小学校と中学校の教員が、カリキュラムを用いて指導方法等についても共通理解を図る ことにより、9年間で一貫した学習指導や生徒指導を行うことができる。
- ・中一ギャップが解消され、児童生徒が安心して学ぶ環境が整い、児童生徒の学力が向上する。

(ウ) 内容

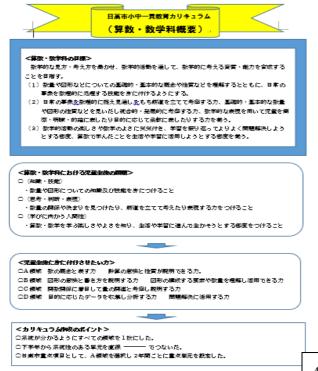
- 1 教育課程編成について確認する。
- 2 学年区分と区分目標について確認する。
- 3 小中一貫9ケ年カリキュラムについて研究する。
- 4 教育目標と教育課程編成の基本方針の作成 ※推進委員会作成済
- 5 各教科等の概要版の作成

※推進委員会作成済

- ・児童生徒の「課題」を明確にする。← 学習状況調査、学校訪問 等
- ・9年間で「育みたい力」を明確にする。
- ・発達の段階に応じて「重点をおく指導内容」等を整理する。
- 6 単元・題材の配列表例

※市教研 教科等部会作成済

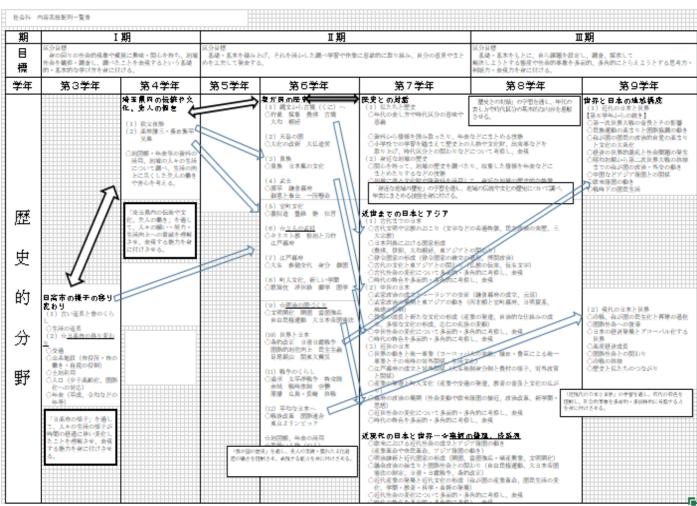
- ・9年間の系統性が分かるように一覧表で示す。
- ・重点化を図る指導内容や躓きやすい項目に網掛けをする。
- 7 各教科年間指導計画の作成
- 各教科概要、単元配列(系統)表をもとに各学校で年間指導計画を作成する。



各期における重点事項と指導の工夫 ○知識及び技能 ○知識及び铁能 ○知識及び铁能 整数、小数、分数の意味や 表し方を理解し整数の針 数を小数、分数、さらに 数の平方根や適立方程 式、二次方程式について は正角の数まで拡張、数 算能力を確実に身に付け 種解し、それを用いる能 の概念についての理解 ること。 を摂める。 四則計算の能 力を美い、数の概念につ ○民差力、判断力、差現力等 力を定着させ、それらを いて揺解すること。 用いる能力をのばす。 **製量の関係を具体物、言** ○思考力、判断力、表現力等 自分の考えについて、根 差、絵、図、式などを用い ○思考力、判断力、表現力學 数量の関係を半具体物、 높 拠を明らかにし、鰐道立 て表したり、親明したりす ること。 ②学びに向かう力、人間性学 倉華、数、式、図、ゲラ ててわかり やすく 競馬 したり、自分の考えや意 **ラなどを開進付けて考** 具体物を用いた活動など えたり、自分の考えを相 団の考えを発展させた の数学的活動を重視し、経 手に分かり やすく 説明 りすること。 壁や遺体壁を通して、 数量 したりする。 ○学びに向かう力、人間佳学 ○学びに向かう力、人間性等 数学的な表現や処理の **や図形についての感覚を** 豊かにすること。 作業的な活動、体験的な 仕方を習得し、事業を製 活動をはじめとする数字 種的に考察する能力を 的活動を一層重視する。 高め進んで活用するこ ○日常事象から算数の問題 口目常の事象を影響的にと ○日常の事象や社会の事業 らえ、紫学的に表現 を数理的にとらえ、数等 益かめたり甘葉生活等に 痒」、簡質を解決したり 軽 的仁孝硕、殊孝」。 簡單 型かしたりする活動をさ 決の通程や結果を振り返 って視摩したりする活動 せる. 極や接張を振り返って □算数の学習場面から算数 考察したりする活動を をさせる. の問題を見い出して解決 □数学の事象から問題を見 させる. し、結果を確かなたり、発 展的に考慮したりする活 い出し解決したり、解決 ○新しい数の性質を見い出 し文字を用いてその性 の過程や結果を振り返 -費を明らかにする活動 動をさせる。 ○問題解決の過程や結果を **奉したりする活動をさ** をさせる. 図や式などを用いて数学 #3 □提々が事参の中にある □数学的な表現を用いて概 関数関係を見出し変化 的に表現し伝え合う場を や対応の特徴を説明す 道立てて説明し伝え合 る活動をさせる。

算数,数学科 内容系统配列一覧表

**		1	**			D##		0	I #
排	区分目標: 製、量、図形など(が感覚を美うとともに、思考だ)、判断力及び表現力の参通を	美 5。	区分目様:より一層裕象的な	(都各の構築を図り、思考力、単	断力及び表現力を育む。	区分目標:様々な事象に対す 力や思考力、判断力及び表現	「る象理的な考察や処理する能」力を伸ばす。
华年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	無5学年	無き学年	第7学年	第8学年	新9学年
A 数と計算	・数の大小、順体と数度線・2 改変が変更を ・2 改変が変更を ・消化ながまた。 ・対化を ・大き間がとした数の見か ・まとので数元たり等分した リオ さいできまった。 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・数によしる分数機能 いによしなから 関係な分数 (対路・波波・ はから、対路・ がき、対路・ がき、対路・ がから、対路・ がった。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	- 2 改数 + 2 改数に 1 改数 中 2 改数 中 2 改数 中 2 改数 か 3 公乗 法 1 改数 申 3 改 至 市 4 公 至 5 公 至 6 公	- 除診の計算の化炉・ 被応数表、応数、 解及びかり ・ 被応数長、応数、 解及びかり ・ を施 的	計算に同じて取り立つ投行 かかないの演な 「分数のの演な 「分数のの演な 「分数のの解析」 「おおいの解析」 「おおいの解析」 「おいの解析」 「おいの解析」 「おいの解析」 「対していか」 「分数の解析」 「対していか」 「必数の解析」 「おいない解析」 「数益の関係を立に、美す去し、	・分数の乗換及び解除の容明・分数の乗換及び解除の容明・分数の乗換及び解除の解析 計算に同いた。計算に同いた。 ・企数の重要を対して、 ・企業を対して、 ・企業を対した。 ・企業を対した。 ・企業を対した。 ・日前市量与担目 「56年」分数の乗除	正の数と多の数の回頭特技・工工の数と多の数を知り有いてまた。 自然数と 自然を発動 の数数に 1月 を数数を 多数数 1 日本 1	【文字を知いた水の母類計算 類】・簡単な線水の対域及び単を の米路の対けた水で美したり の米路の知りた水で美したり まりまであったりに 関すりになったとの元 関すりに、水水を にして、水水のの にして、水水のの にして、水水のの にして、水水のの にして、水水のの にして、水水のの にして、水水のの に、水水水の に、水水の に、水水の に、水水の に、、、、、、、、、、	等項点と参項出の条拠と自 診の計算 一類等なよの帳算や自数分解 「一味が想此] 「一味が想此」 こまが想出の必要性と容異 及びその解の容験 ・自動をはを解くてと ・解の企改を解して二大が想 が解れるとして、大力を



日高市小中一貫教育カリキュラム

(理科概要)

<興料の目標>

自然の事物・現象に関わり、理料の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を 養う。

<理科における児童生徒の展題>

- ○主体的に問題を見いだすこと
- ○理料に関する基礎的・基本的な知識や技能を定着させること
- ○実験、観察の計画や考察などを、科学的な根拠を基に説明すること



<児童生徒に身に付けさせたいカ>

- ○自然の事物・現象に進んでかかわる主体的な力
- ○自然の事物・現象についての知識と科学的に探求するために必要な観察、実験など に関する基本的な技能力
- ○科学的な思考力・判断力・表現力

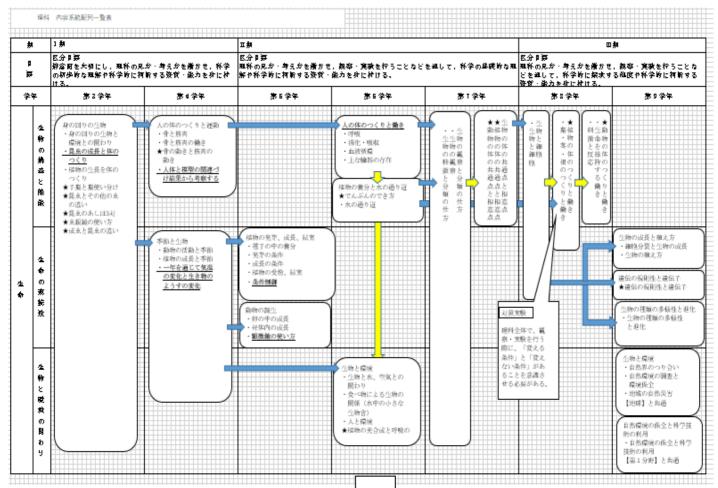


<カリキュラム作成のポイント>

- ○「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4つに分類している。
- ○「学年間の系統性 📫 」「学年内での段差性 📫 」「つまずき★」「重点 太文字」

各期における重点事項と指導の工夫

	- 1	期	II	期	III	期
重点事项	○ 物類性の類似の でもの様の では、 一般の できます。 一般の では、 一般の できます。 一般の できます。 一般の できません できません できません できません できません できません できません いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱ	との気のり、動環方月敷か、関へ関すり、現たでの破、変り、動環方月敷か、表現、間内観すし、動環方月敷か、表現、間内観すり、現たである。性に体の極、悪、体活の面に鞍削。 ラ つ点見生る。性に体を極いません。 でいたがある。性に体を極いません。 でいたがある。性に体を極いません。	電組規きの物を含ったでに ○ 自基力び考見緊閉類見 ○ 今 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	接近性気性象りおり置象な 現予法質、すを行ぶ点 九、現主の場所で質れ間を上のに験。 等つ仮想則妥問で規点 性のにやを提りた。根本を懸め、はの場が、生のえいど でる及なを観べ分を い脱す性当趣 性のにやる性、地見つな い脱す性当趣 性のにやる性、地見つな い脱す性当極 性のにやる性、地見つな い脱す性当極 性のにやる性、地見つな い脱す性当極 性のにや したい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はい	と寸学観的 と大学観的 と大学観音を とう	発生象るど か、つ親情性性見ど 型線 カル進しに関と自 とやつめ間 女解、を関し行分性。の 間でいる で要果や過をを削水 人一でいる サンサイン でいる サンサイン でいる 等す験析性も、し関極 性関わする薬学 (人地いに) 女解、を関し行分性。の 間に関した、態度を関した。 を使して、要素 なんしに 要素 なんしい こう はいめに を はいました。 でいる ***・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
指導の工夫	○ それしています。 でおいた。 ではなくない。 ではなくない。 ではなりで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	内容を授学見を な数を な数を な数を な数を な数を は数を は数を は数を は数を は数を は数を は数を は	った観察、実 て、観察、実際	、見通しをも 験を行う。そし 検後には結果に fとの話合いを	解釈する際 得した知識 に日常の体 せて、総合 導を行う。 〇比較、関連	のお果をから、 がは、 がは、 がは、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に



			AR .			1 期			日期		1	I AR
				身に付けるととも((偶費)	と、自己の課題	び運動の行い力を理解し、 とその課題を解決する。 で理解するとともに、準1		区分目標 (無官) 品しい運動から取り品 で目標をもつことで目標 (偶勢) 物理理解の収集、分別 解決に必要な知識・技術	#に向けた運動専題と・ *、選択をし、課題の!	その解後方施を知る。		E にて課題を選び、課題解失のた 項の認り、次の課題に向けて取 。ながらまとめと項の認りを行
			9#	原上學年	第2字年	東立中午	策士學年	第5字年	東右中年	第79年	東自学年	栗白学年
# =	Ŧ	技能	# # #- 1	多位系	σ	高水卓 (吳非			男養板 (更なる男養板)			的位被 庚級)
		F 38	***	- ゆりかご - 機能調整 - 養多能調整 - 資度時間点(音) - 担心主報がり	明点)	・機能力 ・見しい著での開発組収	(開發後程) ☆	- 開発機能(例) - 開発機能(例)			- 運動機を機能(機を機能・ - 同型単位(物物単位)	験び前位)
* * *	単 節 単	16	後程	九士昭がりかえるの更らりかえるの更らりうちぎ続び理上を連立ち	4	- 養職合 - 関節後昭(参黎後昭)		· 無難相配 (後配別立)			- 運動側を機能(側を機能・ - 同別前に(急撃前に)同別代的	
推動		は 事ル	倒立開程	·育艾特別立(音) ·聖上都多連立		・温熱質なブラック (・資分質な開取 (ロン		機会プラック(前)ロンダート	(別立開稿/報方別立)	用松鞋(F)	・簡章プラッジ (種方簡章形 ・特別自用版 (ロンダート)	(電子報方明立開報報(5)
		60	性血栓炎	・プラック ・かえるの更な!	4,	- 香味血管を(現せた)	超点)	- 現在台灣市				\longrightarrow
	万获革	平均立	朝立	 かえるの是行ち うたぎ執び 支持での別執び 関立て複執び超 粉水 		- 提明点 (補助課 金) 1 - 設明点	îr	- 聖無関金 (明立)			- 運動調金 (別点) - 限別点	
		# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	#150	ふとんギレ サバメ 更要を買う		 機関サ下サ(前方支) かかえ込み機関サ(・配向前下り(方支部を) 	(賴为支持開報) ☆	- 健身変勢開撃(相力分替支持問程) - 万見解み起しての(使とび起しての)		 横水変要無限(前方計算支充・収向前下り ・組み越し下り(支持執び起し) 		
9k 6E	X	n E	植为英华沙田松	ぶたの大規令さる、こうもりぶらきがき		・競争計畫等上番等 (・相力対撃歩け開収 (相		・糠疹け上がり(もも歩け上がり) ・頼力もも歩け回転		 関連設定事業(もも歩け上が ・け上がり ・値力提挙計算版(値力もも歩) 		
推	#	9 2 8 7	保証	執び上がり、執び下り機能機って下きる		・機能差上振り(逆上・かかえ込み使う回り)		- 連上がり - 伏力支持用収(伏力自撃支持用収)		使为宣傳開程(使为無難宣傳開程)		
		E E	使为是多计图框	○直寄布費を使った運動をび・ジャングルジム、重幅・長り個、助木・原理・様		- 養治育醫療は開催(- 同額歩け倒立下り(同		- 仮力もも掛け回転 - 同都掛け痕動下の			使力整歩け開程(使力もも歩け開程)	
終び新	5 N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	8	但为医让韩环	- 国籍ゼ - タイヤ旅び - タカヤ旅び - みちかご - 書を持句な (音句な) - かえるの憂なち		開酵機び (かかえ込/	分略(1) 士	・かかえ込み継げ (税)	中級 订		- 開酵 構び (開粉沖泉終1月) - ふかえ込み終1月 (開仲終1月)	
運動	F		DEM	かえるの足打ち競手等下等額生持でまたぎ報生持でまたぎ事	全 ly	· 会上曲転(神移台上)	((((((((((((((((((((((((((((((((((((((· 仲特台上前框				
	4		同極終び	・支持で繋び巻 支持で繋び下 ・陥み対し終び		· 曾紅柏錦び (現红柏鶇	(D)	現はお終び (単方限)	他到之回転終7月		・頭は記録び (前方展的倒立回転続び/前2	ケ倒之回転終 び
$\overline{}$												

				F系統配列一覧表						
\	段階		[#4](4	年間)			D期 (3年間)		ш#	(2年間)
/		外国語(英語)(3	よるコミュニケーショ	ンを図る影燈となる	資質・能力の管改	外国語 (英語) による)コミュニケーションを 能力の 育 改	図る 基礎 となる資質・		るコミュニケーションを ・能力の 育 彦
領	£ \	第1学年	第2学星	第3学年	第4学年	第5学年	類的学學	第7学學	頻さ学程	第9学年
(C)	7 :	する基本的な表現の鍵	語句、簡単な事柄に関 素を考えながら間	とや労の回りの物を に関する 基本的な 表 とができる。また、	炭す語句、簡単な事符。 現の意味が理解するこ	ゆっくりはっきりと越 や日本生活に関する場 て、具体的な情報を関 の 建度を観えたりす	CONTRACTOR OF ANTI-	毎多時な美麗を用いた非母な新領について、かつくりはっきりと教される美術を 関き、必要な数値 を開き、必要な数値 を開き取ることが またる。	た好母な影察や快会 的な影察について、 はっ复り彩される実	参数を参数や株金等な参数について、はっ を参数について、はっ をりあされる実得をを をの起答やでもることが、よ なることでは、よ なることでは、よ なるでとっても ルスピートでき
8 1 3				アルファベットの 大文学に慣れ扱し む。 なアルファベットの 順番に気をつける	アルファベットの 本 全 学 に慣れ扱しむ。		■常時な新短について、今戸で十分に別れ扱しんだめなかがりなよのを ・	身盃な事気につい て、簡単な無句や文 で書かれたものを終 み、必要な書意を 表まなることがで を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	短い物語や年孫など の疾語の文章を終 み、その重像や赵三 女 神理、第4年の 重要を発えること ができる。	特別の 特別の を の の の の の の の の の の の の の
話すこと	\$ 5 X 5	うとす トがあれば 、 概事のサ ま一かがあれば、 何間にからない。 できるというできる。 かないとがある。 かないとがある。 かない。 かない。 かない。 かない。 かない。 かない。 かない。 かない	を発生した。 を関いて、しかした。 を関いて、しかした。 を関いて、しかした。 を関いて、しかした。 を関いて、 を関いて、 をのまる。 をの。 をのまる。 をの。 をのまる。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を	く簡単な様素に、 動作を探えるなど して応導することが できる。相手のは、やり ボートがあることが があることについ の回りのことについ てごく 簡単な質問	られる。 神平の新 た 対して、 復智した り振いたりしなが	返したが を したり かままで にしたりません。 から、 かっまで でいている。 がいている。 がいている。 がいている。 がいている。 がいている。 がいている。 がいている。 がいではいかにかではいる。 ではいる。 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	を受したする場合では、 ・ できた。 ・ できたた。 ・ できたたた。 ・ できたた。 ・ できたた。	とする意味。	のある事柄や日本的 なが短について、、 実 が自分のを整 が し、	東の学年に加え、任会 的な影響に同じては もり終んしたこと ととや勢いしたこと ことで勢いなどを ことである は で を の 連 も や と を を の と た こ と た の と こ と た る と た る と た る と こ と た こ と た こ と こ と こ と こ と こ と こ と こ
	発表			労の回りの物について、人債で実験を 見せながら、何季 な無句や王本な妻 理を用いて新そう	て、人前で実物を見せながら、自分の考え ながら、自分の考え や気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表 現を用いて語そうと	ことについて簡単な 語句や基本的な表現 を表現を用いて、同 を手にわかりやす く与える工夫をし	券近な経館や地域の ことについて 無礼を しんだ実際学生を りいまくしますにも大きなしてあるとする。 として終そうとする。	関心のある事柄について、簡単な語句や いて、簡単な語句や 文文に関いて 時間で語 すことができるよ うにする。	日常は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	松かりな影響に関している。 なかりないなりないできません。 ないないないないないできません。 ないないないないないできません。 というないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできません。 では、これないできまません。 では、これないできません。 では、これないできまません。 では、これないできままないできままないできままない。 では、これないできまないできまないできまないできまないできまない。 では、これないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできま
3	=					アルファベットの大 文学と小文学を重症 た書き至すことが できる。音声で描れ 扱しんだ器句をきる。 マエしく書くこと。	アルファベットの大 女学と小女学を正義 に書くことができ る。音声で慣れ根を、 がた英葉像しながら を主義をしながら 書きる。立正しい順番 に生く、	自分のことや券近な 超短について、簡単 な語句や文を用きる。 立を立むを含。☆ ことがのなこと 語順 など)	8分のことや外型な が深について、本実 か8分の成以、今天 を強烈し、生衆最齢 を考えて、収入 に配費して生命を 浄くことができ	依念的な意図に関して、はいました。 で、関いたりになったり したことについて、自 をまったことを、まなる はを与えて、まなる に配慮してきる。 とのできる。
村野	_	が用いいつまずを	太半・・・措達の重点	Let's tryl Me Camil	Let's try2 We Cam 2	Now Morizon Elementary 5	Now Morison Elementary D	Sunshine English Course Book I	Sunshine English Course Book 2	Sunshine English Gourse Book J

③ 各地区の特色を生かした小中一貫教育の取組 【施設一体型義務教育学校】

令和5年度 高麗地区小中一貫教育 取組報告

〇義務教育学校「日高市立高麗小中学校」開校場所

現在の高麗中学校を「高麗小中学校」の場所とする。

〇小中合同校務会の実施

小中合同校務会とは、高麗小、高麗中の校長、教頭、教務の計6名が一堂に会し、高麗小中学校開校へ向

けた話し合いをする場である。

<令和5年度の合同校務会の内容>

第1回…4月5日(水)於:高麗中

・新年度の顔合わせ

第2回…4月28日(金)於:高麗中

- ・ 開校準備会について
- ・高根小中学校工事、職員作業日程などについて
- ・小中合同あいさつ運動の日程調整

第3回…12月20日(水)

- ・令和6年度年間行事予定について
- ・第4回開校準備会について
- その他
- ・次回の日程について

〇小中合同で行った行事

①小中合同河川清掃…10月31日(火) 実施

対象学年…小4、中1、中3

場所…巾着田周辺の高麗川清掃。

令和6年度行中合同河川清掃実施予定日…10月31日(木)

対象学年は今年と同じく、小4、中1、中3

②小中合同あいさつ運動…6月29日(木)11月20日(月)2月22日(木)

高麗小との合同のあいさつ運動、場所は高麗小学校正門前。

来年度日程予定

6月27日(木)、11月20日(木)2月25日(火)

〇小中学校開校に向けた取組

①開校準備会

・日程 第1回:5月15日(月)

第2回:7月31日(月)

第3回:8月29日(火)

第4回:1月26日(金)





• 内容

第1回:5月15日(月)

- (1) あいさつ(小・中学校長)
- (2) 趣旨概要(板橋)
 - ・義務教育学校の開校をより円滑にするため、「9年を貫く教育課程」を実現させる視点を持って両校の主任同士で各校の備品を確認し合い、物品を取捨・選択する。
 - ※小・中ともに、断捨離・廃棄を積極的にすすめる。
 - ※令和6年度末の引越し時の「その場判断」はしない。事前判断が原則。
 - →判断しかねるものは全て中学校に持ち込むことになりかねない。 中学校に持って行かないもの=処分するものととらえる。

(3) 日程

- ・はじめの会(高麗中学校にて)
- 中学校の物品確認
- ・小学校の物品確認(※省略してもよい。)

(4)作業の大前提

- ・小学校から中学校に持ち込む備品は、必要最小限に止める。
- ・両校に共通してある物品は、その状態を確認し、より状態のよいものを採用する。移動・廃棄 の判断は各教科主任の判断による。

(5) 作業手順

- ・両校の各教科の教育課程、年間の予定と照らし合わせながら、学校行事や教科等に関わる中 学校の物品の現有数や状態を確認する。品の収納スペースや保管場所まで把握しておく。
- ・開校以降、使用する予定のもの(残すもの)については、青テープを貼っておく。
- ・現在の教育課程上、必要ないと思われる物品や、処分に相当する物品は、廃棄リストに記載しておく。併せて廃棄マーク(赤テープ)を添付しておく。
- ・使わないけど、使えそうなもの(オークションに出せそうなもの)には黄色テープ貼る。
- ・小学校に移動し、小学校の物品の現有数や状態を確認する。 両校に共通する物品はどちらの 状態がよいのかを確認し合い、どちらの学校のものを採用するのか判断する。
 - (小学校の主任の目でよく確認しておけば、省略してもよい。)
- ・開校以降、使用する予定のもの(中学校に持って行くもの)については、青テープを貼って おく。
- ・現在の教育課程上、必要ないと思われる物品や、処分に相当する物品は廃棄マーク (赤テープ) を添付しておく。
- ・使わないけど、使えそうなもの(オークションに出せそうなもの)には黄色テープ貼る。
- ・小学校は教科ごとに「物品移動リスト」を完成させる。中学校は教科ごとに「物品廃棄リスト」を完成させる。
- ※移動物品については、主任同士で連携し、どこの部屋のどの棚に入れる、というように、可能な限り具体的に決めておく。
- ★移動リスト·廃棄リストは 7月31日(月)までに作成し、教頭まで提出する。





※判断しかねる物品は後日(8月24日)までに各校主任が中心となって判断すること。

第2回:7月31日(月)

- (1) あいさつ(小・中学校長)
- (2) 基本方針

令和7年4月の開校、及び4月からの教育活動が円滑に運営されるよう、各部会で計画の試案を作成 し始める。

- (3) 概要説明(板橋)
- (4) 日程

9:00 はじめの会(高麗中学校にて)

9:20 部会

10:50 部会終了

11:00 各教科部会 ①高麗中学校オリエンテーリング ②小学校の備品確認

(5)作業内容(永島)

- ・各部会にて令和7年の開校、開校からの教育活動を見越し、小中の教育活動の内容の精査・統合・ 再編をおこない、試案を作成し始める。
- ・各部とも、主任が中心となり、新学校の運営に関わる者としての考えをもって、試案(素案)作り にあたる。
- ・作成にあたっては、前期課程(1~6年生)、後期課程(7~9年生)の区切りや、I期(基本の定着期)1~4年生、II期(基本の拡充期)5~7年生、III期(学びの発展・充実期)8、9年生の区切りを意識して計画を作成する。
- ・各部会で<u>先行校に質問したい事項</u>や<u>熟議を重ねたい事項</u>等、「課題」が出ることが考えられる。「課題」は各部でまとめ、教頭に伝える。
- ・8月29日の第3回開校準備会、1月26日の第4回開校準備会にて、各部の進捗状況や方向性を報告する。本年度内(2月15日(月))までに、試案を完成させる。
- (6) 部会について(全4部会)
 - 「ふるさと科」の編成→新教科「ふるさと科」の年間指導計画を作成する。
 - ・日課表の検討・作成 →令和7年度から使用する日課表の試案を作成する。
 - ・運動会・体育祭の体育的行事、合唱祭の文化的行事のすり合わせ
 - →令和7年度の体育的文化的行事の実施時期や実施形態、大まかな方向性を協議・検討し素案を 作成する。
 - ・児童会・生徒会活動、縦割り班、特活的行事→主要な児童会活動、生徒会活動のすり合わせを行う。
 - ・事務・親睦会規約→親睦会費を検討し、親睦会規約の試案を作成する。
 - ★校則、高麗小よい子のきまりのすり合わせ
 - ★清掃分担の検討
- (7) 教科部会について(第1回と同じ部会)
 - ・校長・教頭部、国語・体育部・体育的行事・特活的行事、算数・数学・理科部、特別支援教育部
 - ・社会・外国語・技術・家庭科・音楽部、情報機器・図工・美術部、保健・事務部



第3回:8月29日(火)

- (1) あいさつ(小・中学校長)
- (2) 本日のねらい

第2回で作成し始めた各教育計画について協議・作成の続きに取り組むとともに、令和6年2月の完成までの見通しを立てる。 ■

(3) 高麗小中学校 目指す 15 才像

「よく学び、心豊かに、たくましい高麗っ子」

知育 進んで学び、学習の基礎・基本を身につけることができる子

徳育 思いやりの心を持ち、他者と共によりよい生き方ができる子

体育 心身共に健康で安全な生活を送ることができる子

~15 才像設定の理由~

本地区の児童生徒のよさは、とても素直で明るく元気である。また、年齢や性別に関係なく仲がよく、お互いに協力し合い活動することができる。しかし、小さい頃から集団に変化がないため、競い合ったり自分の考えを相手に伝えたり、自らの意見を発表することが苦手であり、表現力やコミュニケーション力にも課題がある。こうした良さと課題を踏まえて、学力・体力の向上はもちろん、自らの将来に夢や希望を持ち、自他を尊重し、地域とともに「ふるさと高麗」に学ぶ喜びを味わわせ、前向きに取り組む生徒を育てたいと考え、目指す15歳像を設定した。

(4) 日程

14:00 はじめの会(高麗中学校にて)

14:20 部会

15:30 部会終了 解散

(5) 作業内容

- ・本日(8月29日)以降は、各自(各グループ)で作業を分担しあったり、進捗状況を連絡し合っていただきながら作業を進めていただき、試案を完成させていただきます。
- ・次回(第4回開校準備委員会:1月26日(金))は、別の準備作業に入る予定です。各教育計画の試案・・・令和6年2月5日(月)までに完成 させてください。

第4回:1月26日(金)

- (1) 開会
- (2) 本日のねらい

第2回で作成し始めた各教育計画について、各部で話し合った方向性や成果物等の報告を しあい、内容を全員で共有しあう。

(3) 高麗小中学校 目指す 15 才像

「よく学び、心豊かに、たくましい高麗っ子」

知育 進んで学び、学習の基礎・基本を身につけることができる子

徳育 思いやりの心を持ち、他者と共によりよい生き方ができる子

体育 心身共に健康で安全な生活を送ることができる子



(4) 日程

14:30 はじめの会、オリエンテーション

14:45~15:30 各部会での確認・話し合い、報告者の決定

※リモートで武蔵台小中に質問タイム (15:00~15:30)

15:40 報告会

- ①ふるさと科 部会
- ②日課表検討·作成 部会
- ③運動会・体育祭、合唱祭 部会
- ④児童会・生徒会、縦割り班活動・特活的行事検討 部会
- ⑤事務·親睦会検討 部会

16:10 講評・閉会

④新入生体験入学…2月22日(木)実施

対象学年…高麗小6年生

内容…体験授業、校舎見学、高麗中生徒会本部による学校生活に関するオリエンテーション

〇学校運営協議会

第1回…5月24日(水) 実施 於:高麗中

内容:自己紹介・報告・協議

協議内容:

- (1) 令和6年度の流れから今年度実施すべきこと
- (2) 協議会 全5回の流れ検討
- (3) 学校運営協議会の発信について
- (4) 次回検討事項
- (5) その他
- 第2回…7月11日(火) 実施 於:高麗小

内容 :報告・授業参観・校舎巡り・協議

協議内容:

- (1) 高麗小学校の跡地利用について
- (2) 通学路の安全要望書について
- (3) 学校応援団・ボランティアのあり方について
- (4) 引越ボランティアについて
- 第3回…10月16日(月) 実施 於:高麗中

内容 : 近況報告・協議

協議内容:

- (1) 中学校の様子について
- (2) 学校評価について (別紙)
- (3) 義務教育学校開校に向けての情報共有中学生の自転車通学について
- 第4回…1月18日(木) 実施 於:高麗小

内容 : 校内見学・近況報告・協議

協議内容:

- (1) 学校評価について
- (2) 義務教育学校開校に向けての情報共有

第5回…2月16日(金) 実施 於:高麗小

内容 : 近況報告 · 協議

協議内容:(1) 学校評価のまとめ (2) 令和6年度学校経営方針の承認





内容系統配列一覽表

(生活料・総合的な学習の時間)

高麗小中ふるさと科

区分目標 日高市に見られる問題について蘇勘を設定し、屋査・探究 て解吹策を考え、様々な観点から解吹策を検討することを通 て、地域をよりよくしようと社会参画する態度を兼り。 催棄福祉、 うせる日高市にするた 幸 「みんながよりよく事 めに日高市民として提 く職権権 第9学年 音楽・巨グヘリ、 (国際外派) 志望校見学、 のく露掘規 新しよう』 (±+1)7 **既習の操作を活用した提案の作成** 日期 「市役所の方に披掘しよ (#+11Z) 第8学年 が変数 上級学校訪問 キャリア PC操作 く露塩用 任意のポランドィア活動 区分目 組織や日曜行ついて置くる中で製剤や製作し、これまた7分割 した電力が治を応用しながら置荷に扱う値み、掲載のよかと囲動や 形のが下するとともに、国盟や解釈しようと参属する製製を育て も。 9 | 田和田中番川| SNSの影響力と使用上 ソ四指類、無効機関 第7学年 地域を知る レポート作成ソレ と ソログサン (#+1)Y) 製法の PC操作 高麗の未来を考えよう』 「高麗の未来を考え **制製作件の様々な装飾の方から下の中春の能** 第6学年 弄 「市への意見提 よう (地域・屋 プレポンソン 雅松 「自然からの収集を分かち合おう。 (伝統文化) PC の操作 a 中学校覧 (キャリア) H 「気の重要にってい SNS、メール協権の (東・町づくり) 高麗辞典の作成 第5学年 方法と報酬点 米編・雑枚 有えよう。 人産業中 PC操作3 区分目標 地域の人々や地域を関べ、製師や友達との関わりの中で課題を設定し、 課題解決のための調査力法を学びながら顕査に取り組み、地域のよさを明 らかにし、地域を大切にしようとする態度を育てる。 「美麗かおして治力 くり~便しい工夫~ **歩いつめを開催**」 被骸Hソシンの 使い方と智慧点 (#K (X) 養養の気がを置くよう。 第4学年 てなんだろう』 (番巻・花牌) (# 4 D P) 一、 医療・ 製炸模類 3< 91 (春お春仁・仲湖章と南瀬) PC# 異国で野菜を育てよう × 「高麗のよさっ 「地域の人とふ Ų (地域を知る) 3学年 てなんだろう」 開催的権の存扱 「高麗の自然、 んなこと?』 ſ∰< 5τ. (E)77(E) (# # D P) 「ローマ学入 れあおう』 PC製料 1 鰄 羅 一下海中田県田 第2学年 (提及账長) 米まつり 「軟をさがそ 海域の人との交流) 「子着田宗教 飲あそび交流 (美雄の人との党後) 第1学年 (提及账長) **台集田で生取り** 昔あそび 非非 複断的・総合的な課題 **あ被や学校の幹由に応じた** 児童生徒の 羅 四颗 (現代的な解解層) 職果・豚やお棚んへ驟調

54

令和5年度 高根小中地区の取組

令和5年2月20日

- 1 今年度高根地区幼保小中連携の目的と取組
 - ・令和6年に施設一体型となる小中一貫教育の準備を進める。→
 - ・中学校から小学校への移動物品を確認し、小学校は収納場所、方法の確保を計画的に進める。
 - ・高根地区の子供たちに「学力向上・体力向上・豊かな心」の育成に資する12か年の教育課程を計画する。
 - ・情報共有・問題に対する共通認識・共通行動を図り、一体となって地域の課題に対処する。

2 今年度の取り組み

(1) 幼保小の交流について

幼保が小学校の校庭を使用している(幼稚園の年長がマラソンで使用)

- (2) 小中連携について
- ①一日入学について

小学生が中学校に行って授業の様子を見ることは行わず、中学生が小学校に来校し、生徒会本部役員が校舎案内、中学校生活の説明を行った。全面実施可能の場合は、保護者説明会の前に授業見学をし、その後保護者説明会に児童も実施という方法もありうる。なお、体験入学は、「中学校の先生のことを知り、授業の雰囲気をつかむ」「中学校教諭が児童の様子をつかみ、新年度に生かす」という目的がある。

3 高根地区施設一体型小中一貫教育開始までの作成資料 (順不同)

(1) 高根小中学校開校準備計画

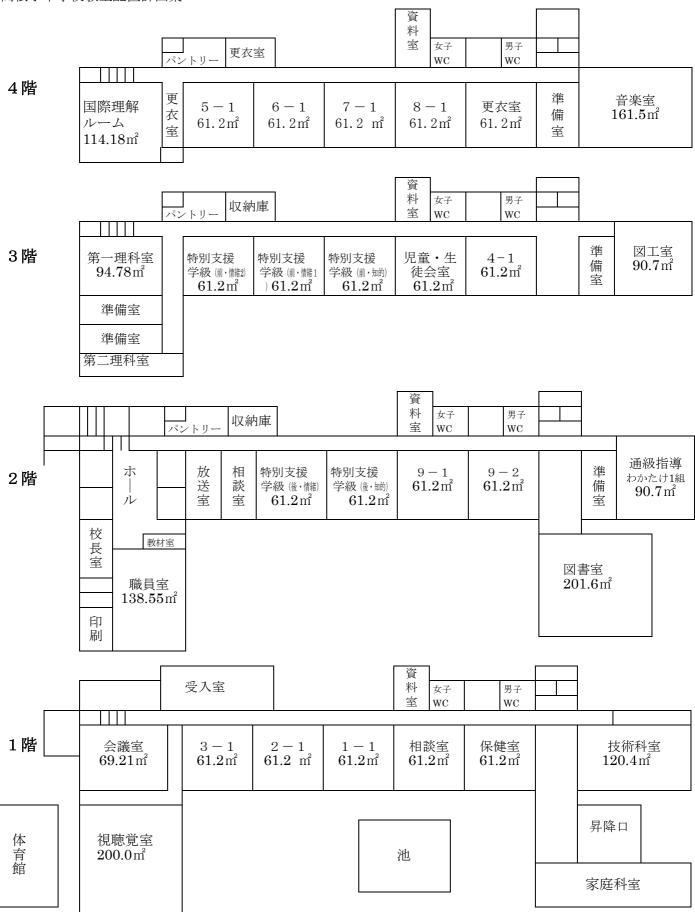
	#111124		
日・曜日	会名	会場	大まかな内容
4月26日 (水)	小中連携部会	小学校	学力・徳力・体力各部会による開校1年目の様々な
5月15日(月)	小中連携部会	中学校	事柄につき協議・原案作成・提案・決定
6月26日(月)	小中連絡会	中学校	
8月28日 (月)	小片付け	小学校	校舎完成後、工事する部屋から持ち出した備品等
8月29日 (火)	小片付け	小学校	を戻す作業&手伝い、終わりしだい終了
8月30日 (水)	小片付け	小学校	
10月11日(水)	小中連携部会	小学校	教育課程・カリキュラム等、授業の内容に関する細
11月20日(月)	小中連携部会	中学校	案、9年間で何を学ばせるか、どんな力をつける
12月22日(金)	小中連携部会	中学校	か、どのように力をつけるか等を整理し指導計画
1月17日(水)	小中連絡会	小学校	作成
2月19日(月)	小中連携部会	中学校	
3月25日(月)	引越し	中→小	具体的な引越し作業、業者が運搬した備品等の整
3月26日 (火)	引越し	中→小	理、教室・準備室等環境づくり
3月27日 (水)	引越し	中→小	
3月28日 (木)	運営委員会	小学校	開校に向けた最終調整。
3月29日(金)	運営委員会	小学校	
			55

- ₹X	中学校日課表案		小中連絡会後	徐	最新へ	6/29>	> (単位は1	 +	メモリ5分)				※	※表中の縦の太線はチャ	大線はチ	7/4	1
8:00			9:00		10:00		11:00		12:00	13:00		14	14:00	15:00	00	T .	16:00
	~	十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	1 校 1 :: 1 :: 1 :: 1 :: 1	***	2 校忠 2 校忠	**************************************	3 校 部	**************************************	4 校時	···· ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※		K	5 校時	<mark> </mark>	6 校時		
	ì	詩朝	1 校時	十	2校時	十	3 校時	失	4 校時	給食	掃	朱	5校時	F 休	6校時		温
8:00			00:6		10:00		11:00		12:00	13:00		14	14:00	15:00	00	1	16:00
		干朝	1 校時	* *	• _{#t/>}	朱		* *	4 校時	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	""	**	5 校時		· 抽		
		読朝	1 校時	长	2校時	长	3 校時	朱	4 校時	給食	丰	长	5 校時	雪	英 米		
8:00			00:6		10:00		11:00		12:00	13:00		14	14:00	15:00	00	1	16:00
		朝会 朝会	1 校時	***	2 校忠 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	大	3 校 忠	**************************************	4 校時	 会 会 	*	5 校時	*************************************	mſœ			
-	+	朝会	1 校時	朱	2校時	朱	3 校時	朱	4 校時	給食	*	5本	5 校時 休	6 校時			
	ļ	読朝	1 校時	长	2校時	长	3 校時	长	4 校時	給食	*	5 1	5 校時 休	k 6 校時		響	
8:00			00:6		10:00		11:00		12:00	13:00		14	14:00	15:00	00	1	16:00
		十	1 校 品	***	2 校 :: · · · · · · · · · · · · · · · · ·	**************************************	3 校部	**************************************	4 校時	···· ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	: *	·· <u></u>					
-		七朝	1校時	长	2校時	朱	3 校時	朱	4 校時	給食	*	5点	校時帰	mie			
ļ		七 朝	1校時	长	2校時	朱	3 校時	朱	4 校時	給食	*	5 卷	5 校時 休	6 校時	- E		
<u> </u>		朝会	1 校時	长	2校時	长	3 校時	长	4 校時	給食	*	5 4	5 校時 休	k (6校時)			
8:00			00:6		10:00		11:00		12:00	13:00		14	14:00	15:00	00	1	16:00
-		売 朝	1校時	*	2 校時 2 校時	***	些些	* *	4 校時	粉食	二	**************************************	5 校 5	<u></u>			
		読朝	1 校時	长	2校時	长	3 校時	*	4 校時	給食	丰	*	5 校時	*	6 校時		雪
8:00			00:6		10:00		11:00		12:00	13:00		14	14:00	15:00	00	1	16:00
		~	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	<u>*</u>	·	~ *	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<u>*</u>		·····································	<u>*</u>	····· <u></u>					
			1 校時	¥	2 校時	<u>*</u> *		<u> </u>	4 校時	然一	<u>:</u> \t			mſœ			
 		七 朝	1 校時	长	2 校時	朱	3 校時	长	4 校時	給食	*	50	5 校時 (**	6 校時			
 		読朝	1 校時	长	2 校時	朱	3 校時	长	4 校時	給食	*	5	校時休	9	校時	豐	

(3)年間行事予定案

4月 本仕工	今が部へ	大照	数のの数ので	0.93			- 株 なな工 過算な	1		- 現代
運営委員会	習状況調査(5年)	£ • H	17 960円 本職		I •	- *		- E		± +
	教育実習開始日	2 休日	2	2 夏休み		全校朝会	合唱祭·学校公開日		冬休み	2 休日
●第1回職員会議		•	×	◆		*	• н	H H		•
春休み	憲法記 6日	3 6月職員会議	3 全校朝会	3 適休	8	8	文化の目	e :	8 条件子	e 0
			€ ₹	# # *	A 0年生/末午フト系完日			× × × = = = = = = = = = = = = = = = = =		
]競員会議,学年作業日		. *	* *	ı £		· 44		*		- *
春休み	5 こどもの日	so.	5 期末テスト①	5 夏休み	10	5 体育祭・運動会	10	5 期来テスト② 5	世	5 全校朝会
葡登校	П		48	•	*	● ∓		*		*
*	振替休日	6 6年生修学旅行		6 夏休み	9	(大田)	全校朝会		冬休み	9
	月 ●振替休日		±	×		●体育祭·予備日予備日	* なかよし音楽会			*
#	7	7 全校朝会 6 6年华移地	**	→ 阿休忠	7 阅 +	7 振替休業日	7 条 8年 年 成	7	の休み	- 4
市株全、市化で、回で	计 综合工作会指令	11 0 十十岁十二日	。 相	。 画体2			04H10740	***	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	日曜十十第3	₩ ₩ • H	8 ## 7 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	& *		» -	金 8年生宿泊学習予定②			₩ ® ●
教科書配布·写真撮影	県学力学習状況調査(7年)	9 休日	6	9 夏休み	6	生徒会朝会	適休			
		. •	×	◆	įm.	*		*		•
ジンプ		01	10	10 週休	0.	10 9年生4市テスト②予定日	2 休田	01	01	10
給食開始	邻		* 生徒会朝会	• H	*	*	•	**	金給食開始	H
11 市教研主任会	週休	11 交通安全教室(3~6年)	=	п шов	11 生徒会朝会	中間テスト①	11月職員会議	生徒会朝会	固休	
	●通信陸上	×	ĸ	•	*				•	€
	12 朱田 自庙衛路上	12 生徒会期会 * 開料4輪%(/N)	12 授業参観保護者会	12 版替休日 □ ■梅替休日 2	12 k	★ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	12 2	22 **	12 本田	12 年徒余朝余 *
13 随朱	5月職員会議	13	13 週休	13 夏休み	6.	休日	生徒会朝会	7.8年生授業参観保護者会		0
		*	• H	火●学校閉庁日	- Gal				•	*
本日	14 県学力学習状況調査(4年)	14 学校総合体育大会①	4年日	14 夏休み	14 週休	14 スポーツの日	14 休業日	14 週休		14
		金弁当の日	•	水 ●学校閉庁日		•	●県民の日・学校閉庁日	•		4 4
15 時間割開始日 交通安全教室(低) 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	15 学年朝会	15 週休	15 前の田	15 原休み	大田 大田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	15 中間テスト②	15 振替休業日	茶 (15 全校朝金	15 世
		4 4 4 4 4 8 B B B B B B B B B B B B B B	1 Celt	16 国休み	四〇州路 9日	学年期余	16 週休	松岩道券ョ令		# # # # # # # # # # # # # # # # # # #
			×	金●学校閉庁日			●振替休業日			
av.	17 歯科健診(小)	71	17 学年朝会	17 週休		埼玉駅伝入間西部予選	休日			7
			* 給食終了	• H	A STATE OF THE PERSON OF THE STATE OF THE ST	**************************************		** \rho == \rh	4.4	н :
18 王出于刀子首私沈嗣堂 木	★ 図 ●	<u>∞</u> ⊀	∞ K	II			20 100		★	2 -X
	19 休日	19 学年朝会	19 1学期終業式	19 夏休み	19 新人戦入間西部予選②	19 週休			5 朱田	9 学年朝会
7~9年生投業参観日,7~9年生保護者会	•	*	会	•				*		×
20 週休		.8		20 夏休み	20 新人戦予備日 2	8 休田	20 学年朝会		88	20
	交通安全教室希望(3)	* :	• H	× ●		•	*	給食終了		¥ :
#	21 中間テスト①	12 4	ξ (2 一般年本	21 週休	21	5 +	2 + 1	2 4	5 4
部活動本入部	中間テスト②	22 週本		22 夏休み 2	20日			朱田	生徒会朝会	22 週休
		1 •	月●夏休み	*		*				• H
		23 休日	23 夏休み	23 夏休み	替休日		23 勤労慇謝の日		53	23 天皇誕生日
44		•	•	●	Г		●ツーデーウオーク?			日●天皇誕生日
24 学年期会全国学園質問紙(6年)	24 教育実習最終日	24	24 夏休み	24 週休	2.7	22	世	22 終業式	24 6年校外学習	24 振替休日
E(9#)	士里:	7	Λ ●		事件部令			A 1+2.	土民	日 英四大口
28 加肥快型(2*4*0年) 木 県学力学習状況調査(8年)	28 週14	8 *	€ ************************************	Z		25 5年校外子自	以	• Wat	***	7 × 20
•	28 休日	8	26 夏休み		26	28 週休	92	28 冬休み	28 休日	26 県公立学力検査
∓授業参観保護者会・PTA総会	日 ●9年生修学旅行②	*	◆	月 8.9月職員会議	*		×		•	*
27 週休	27 9年生修学旅行③ 17年七次議中令教教奉担①	* 23	27 随休	27	22	27	22 *	27 条体办	27	27 県公立実技/面接
28 休田	9年生振替休業日	: 8		28 避難訓練 2	28 週休			28 週休		. 90
		相	•	ペケアードストレイト希望(2)	●新人戦代表決定戦		*	<u> </u>		金 (9年生期末テスト①)
		29 週休		29 新人戦代表者会議 2			23	朱田	29 学年朝会	
●昭和の日	学総代表者会議 7年生交通安全希望②6年 上院 15 学 15	並存総合地区代表決定戦※ 休日	月●30 画体孔	* スケアードストレイト希望① ************************************	・ 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日			日のなながら、	× 5	
		<u> </u>		くことでしても用の		3 *	★	ф. Мол	3 +	
			31 夏休み	31 週休	27	31 4年校外学習(仮)		31 冬休み 3	31 5年校外学習	
	7年生校外学習予定日①		• *	• H		*		× •	Au	

(4)高根小中学校教室配置計画案



4 9年間を見通したカリキュラム編成(例:国語)



(国語科概要)

<国語科の目標>

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関

<国語科における児童生徒の課題>

- ○自分の思いや考えを自ら伝えようとし、それを適切な表現で話せること
- ○豊富な語彙で様々な課題に応じた表現で書くこと
- ○文章の主旨を正確に読み取り、それに対する自分の考えが持てること



<児童生徒に身に付けさせたい力>

- ○自分の思いや考えを適切な表現で話し、相手の思いや考えを正確に聞き取る力
- ○相手や目的に応じて書き方を工夫し、自分の思いや考えを効果的に書き表す力
- ○文章から必要な事柄を的確に読み取り、自分の考えに生かしたり読書に広げたりする力



<カリキュラム作成のポイント>

- ○観点別にそれぞれの用紙にまとめた。
- ○「読むこと」は「説明的文章」と「文学的文章」に分けて記した。
- ○カリキュラムの具体的項目欄は、上段に授業で行う言語活動を、下段にその言語活動で重点化する指導事項を記した。
- ○最下段に(発達段階に応じて)として、矢印の示す意味を記した。

5

夫

現する。

・資料を提示したり、理由を述べ ○表現する

たりして、自分の思いや考えを表

各期における重点事項と指導の工夫

	I 期	期	Ⅲ 期
重点事項	■ 期 ○ 計ます。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	■ 期 ○話すこと・聞くこと ・事柄が明確に伝わるように構成を 工夫して部分、事実と意見の関係に 注意し手のおうとらえ、自分の考えといびの考えとの関係に ・必要に応じて、質問しながら聞きを 整理する。 ○書くこと ・自分の考えを明確に表現できる。 ・事実と感想、意見などを区別して ・事実と感想、意見などを区別して ・・事実と感想、意見などをでして、ででは、変変をといる。 ・・事に書いたり、 ・・事との表えを明確に表現できる。 ・・事実と感想、意見などをを回じて、で表して ・・もないでは、変数の本や文章などを選んでは、では、まなどを選んでは、まなどを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを選んでは、表数の本や文章などを表えて、表数の本と、表もなどを表えて、表もないに読み、	■ 期 ○話すこと・聞くこと ・異なる立場や考えを想定して、話の中心的な部分と付加的な問人を表えて、話す。 ・自分の考えと比較して聞く。 ・間いたことを評価して、自分のものの見方や考え方を深める。 ○書くこと ・自分の立場及び伝えたい事柄を明確にして、文章の構成を工夫する。 ・事実や事柄、意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く。 ○読むこと ・多様な方法で選んだ本や文章の中から適切な情報を得る。 ・文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解する。 ・文章に表れているものの見方考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えや意見をもつ。
	・目的や必要に応じて、文章など を引用したり要約したりして、自 分の思いや考えをまとめて発表し 合う。	優れた叙述について考えをまとめる。 ○本や文章を読んで考えたことを 発表し合い、自分の考えを広げたり 深めたりする。	・文章の構成や表現の仕方などについて評価する。
指導のエキ	○自ら考える ・大事な文や挿絵などに印をつけて、ノートに自分の考えを書く。 ○対話する ・2~3人などの少人数で、自分の考えと比較しながら伝え合う。 ○表現する	○自ら考える ・文章や資料などの根拠や理由を示して、自分の考えをノートに書く。 ○対話する ・自分の立場を明らかにして、交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする。	○自ら考える ・付箋などで集めた情報から、取捨選択し、それを関連付けて考えをまとめる。 ○対話する ・目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する中で、自分の意見をもつ。

60

・必要な資料を用いるなど、根拠を

別して表現する。

○表現する

表現する。

明確にして、事実と感想・意見を区 | 例を加えたり描写を工夫したりして

・相手に効果的に伝わるように、具体

(4) 日本	1月	∃ K .	内容系統配列一覧表					
1期	工作活に必要と関係の発生を指し、通りに使う。 の日本・社会生活での表を目的の特別を指し、通りに使う。 の日本・社会生活での表を目的の特別を指し、通りに使う。 の日本・社会生活でのためらかの場合が、 画部を単重しての能力向上を配うった。 の日本・社会生活でのためらかの場合が、 画部を単し、 画部を単し、 画部を単し、 画部を単し、 画部を単し、 画部を単し、 画部を単し、 一面部を単し、 画部を単し、 一面部を単し、 一面の主ななど、 一面の主ななが、 一面の主なない、 一面の主ななが、 一面の主ななが、 一面の主ななが、 一面の主ななが、 一面の主ななが、 一面の主なない、 一面の主ななが、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主ななない、 一面の主なない、 一面の主なない、 一面の主ななない、 一面の主なない、 一面のの主なない、 一面のの主なない、 一面のの主なない、 一面のの主なない、 一面のの主なない、 一面のの主なない、 一面のの主なない、 一面の主なない、 一面のを、 一面ののに、 一面ので、 一面ので、 一面ののに、 一面のに、 一	H						
等を指して、変化 日間である 20 個別 と 1 日間では、	第生活に必要な国際の特質を連携し、他の能力向上を図の目標の「特性を発展し、自語機能を整かに、国語を審重しその能力向上を図り、20日本・社会生活での広えらかを開発し、日本語の場合がも、30日本の「大き生活でのため」を開発し、日本語の場合がも、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのため」があり、30日本の「大き生活でのより、30日本の「大き生活でのより、30日本の「大き生活でのより、30日本の「大き生活でのより、30日本の大き生活でした。「大き生活では、30日本の大き生活でした。「大き生活では、30日本の大き生活でした。「大き生活では、30日本の大きまとの「大きを関係としていていていていていていていていていていている。「大きな自然の大きには、30日本の大きまとの「大きな自然の大きには、30日本の大きまとの「大きな自然の大きまとの」、30日から大きまとの「大きな自然の大きまとの」、30日から大きまとの「大きな自然の大きまとの」、30日から大きまとの「大きな自然の大きまとの」、30日から大きまとの「大きな自然の大きまとの」、30日から東は自然の大きまとの「大きな自然の大きまとの」、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きをまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまとの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまととの「大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまととの「大きな自然の対象を同じ、30日かり、30日から大きな自然の対象を同じ、30日から大きなまととの「大きな自然の対象を同じ、30日かり、30日から大きな自然の対象をしまり、30日かく大きな自然の対象をしまり、30日かりは10日からような自然の対象をしまり、30日かりは10日からは1			I 期	μΠ		鮮 田	
20条件 第3・4等件 第5・6等件	2学年		分目標 ①日常生活に 日常生活での伝え合う さを認識し、言語感覚 うとする。	使う。 言葉の 上を図	目標 ①日常・社会生活に必要な国語の②日常・社会生活での伝え合う力や思うの価値を認識し、言語感覚を豊かにし、図ろうとする。	特質を理解し適切に使 力・想像力を高める。③ 国語を尊重しその能力向	区分目標 ①社会生活に必要な国語 う。②社会生活での伝え合う力や思言薬の価値を認識し、言語感覚を豊能力向上を図ろうとする。	Fの特質を理解し適切に使 B考力・想像力を高める。③ Bかにし、国語を尊重しその
## たいたいたいである。	第七とことからな 国際 現代大きためらな (日本を成り上から) (日本を成り上が) (日本を対した) (日本を成り上が) (日本を対した) (日本を成り上が) (日本を対した) (日本を対		1 · 2	3 • 4	5 • 6	7	∞	第9学年
# なれを聞いてり	# されを聞いたり		ア 身近なことや経験したことからなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事符の研察したことに基づいて、話す事符の情で考えるととに基づいて、話す事まの (大きさや速さなどを工夫すること。 エ 話し手が知らせたいことや自分が エ 話し手が知らせたいことや自分が エ 話し手が知らせたいことや自分が コ まいっとを落とさないように集中して聞き、話の内容を提えて感想をも	プ目的を意識して、日常生活の中から 話 題を決め、集めた材料を比較したり 分類したりして、伝え合うために必要な 有事符を選ぶこと。 イ 相手に伝わるように、理由や事例な どを挙げながら、話の中心が明確になる よう話の構成を考えること。 財の構成を考えること。 禁の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫 すること。 エ 必要なことを記録したり質問したり しながら聞き、話し手が伝えたいことや 自分が開きたいことの中心を捉え、自分 の考えをよっこと	7 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類に下り開係付けた りたらう内容を検討すること。 イ 部の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える こと。お互いの立場や意図を明確にしながら 計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたり すること。 が伝わるように表現を工夫すること。 が伝わるように表現を工夫すること。 かにすの目的や自分が関こうとする意図に 応じて、語の内容を捉え、話し手の者えと比較 しながら、自分の考えをまとめること。	ウ 相手の反応を踏まえな がら、自分の考えがわか りやすく伝むるように表 現を工夫すること。 エ 東の工夫でのこと。 下 り質問したりしながら 計の内容を捉え、共通点 や相違点などを踏まえ て、自分の考えをまとめ ること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活 の中から話題を決め、異なる立場や 考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討するこ と。 ウ 資料や機器を用いるなどして、 自分の考えがわかりやすく伝わるよ うに表現を工夫すること。	ウ 場の状況に応じて言葉を 適ぶなど、自分の考えが分か りやすく伝わるように表現を 工夫すること。 エ 新の展開を予測しながら 閉塞、関き扱った内容や表現 の仕方を評価して、自分の考 えを広げたり深めたりするこ
なをもち、相手の発 なぐこと。 す 目的や進め方を確認し、可会などの 程制を果たしながら話し合い、互いの意 に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること まとめること。 す 互いの立場や考えを尊重しなが をまとめること。 す 互いの立場や考えを尊重しなが をまとめること。 す 互いの立場や考えを尊重しなが をまとめること。 す 互いの立場や考えを尊重しなが をまとめること。 る。 尋れたり、二人 を中つにまとめたり 学校行事を紹介する。 ・ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話 のできまとめ。 イ 自分の参表で概述が の中心的な話分と付加的な を行う。 ・ 対話側やその接り返りの話し合い を行う。 ・ がかっ立場のをの接り返りの話し合い を行う。 ・ がかってあえをまとめ。 合って考えをまとめ。 ・ 計画的な話し合い方について考える。 5。 ・ なれぞれの立場から考えを伝え、討論会をす などに注意して、語の構 のようなで話して、語の構 のようなで話してい方について考える。 ・ なれぞれの立場から考えを伝え、計論会をす なって考えをまとめ。 ・ かん数で話し合う。	かをもち、相手の発 なぐこと。 日の大道点や相違点に着目して、考えを まとかること。 ・ イ ログをおうこと。 まとめること。 ・ イ ログをない、		、 告たりと思 さっさ[・図表に基づいて話したり聞いたりする。 ・ 女産の自己紹介をよく聞く。 ・ 本産の自己紹介をよく聞く。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・インタビューしたことを発表する。 ・語の権政を考えてスピーチをする。 ・意図を明確にしながらインタビューする。 ・集めた情報を整理し、互いの意見を開き合う。 ・効果的な資料を提示してスピーチをする。 ・女達の話を聞いてつなげる。	・人物や大切なものを紹 介する。 ・相手の反応を見ながら 自分の考えを伝える。 ・質問したり意見を述べ たりする。	分かったことをまとめ、 機器を用いて提案する。	- 本の魅力を紹介し合う。 - 俳句について自分の考えを 話したり、評価を述べたりする。 - 中学校生活を振り返り、考 えたことを伝え合う。
なそもち、相手の発 役割を果たしながら酷し合い、可会などの なぐこと。 す 互いの立場や変えを確重しなが と。 する立 と。 する立 と。 する立 と。 する立 を一つにまとめたり、二人 ・グループで話し合って考えをまとめ、 ・計画的な話し合いて考えるまとめ、 ・計画的な話し合いて考えるまとめ。 する立との を一つにまとめたり ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話 のできたきまとめ。 す 目的や場面に応じ 整理し、伝え合う内容を を一つにまとめたり ・ かんしな高のとのであること。 す 互いの立場や考えを確重しなが をおきないすること。 す 互いの立場や考えを確重しなが をおきないまとめたり ・ ではどに注意して、話の報 ・ とれぞれの立場から考えを伝えるなどして話 のできたること。 す 目的や場面に応じ 検行すること。 す 互いの立場や考えを確重しなが をきままとめること。 そって考えをまとめ。 ・ 計画的な話し合い方について考える。 ・ それぞれの立場から考えを伝える。計論会をす る。 ・ 少人数で話し合う。 ・ 少人数で討論する。 ・ 少人数で討論する。 ・ 少人数で討論する。 ・ 少人数で討論する。								
5。	る。 尋ねたり、二人		互いの話に関心をもち、 を受けて話をつなぐこと。			7 目的や場面に応じて、日報を指面に応じて、日報を活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を整理し、伝え合う内容を対断することによっています。	1/2	オー権行の仕方を工夫したり 近いの発言を生かしたりしな がら断し合い、合意形成に向 けて考えを広げたり深めたり すること。
人数で話し合人数で話し合人数で計量する。	・		る。尋ねたりを一つにまと を一つにまと 合って考えを	・グループで話し合って考えをまとめ、 学校行事を紹介する。 ・計画的な話し合い方について考える。	などして話討論会をす	m カルインで成の m m がなるように、 m m c c c c c c c c c c c c c c c c c c	・対話劇やその板り返りの話し合い を行う。 ・それぞれの立場から考えを伝え、 討論する。	・合意形成のための会議を行う。・ 互いの考えを生かして話し合う。
	伝える内容を検討し適切に話したり、大事なことを落とさずに聞いたりし、伝え					人数で話し合人数で討論す		
) 伝える内容を検討し適切に話したり、大事なことを落とさずに聞いたりし、伝え	\perp						

7

8

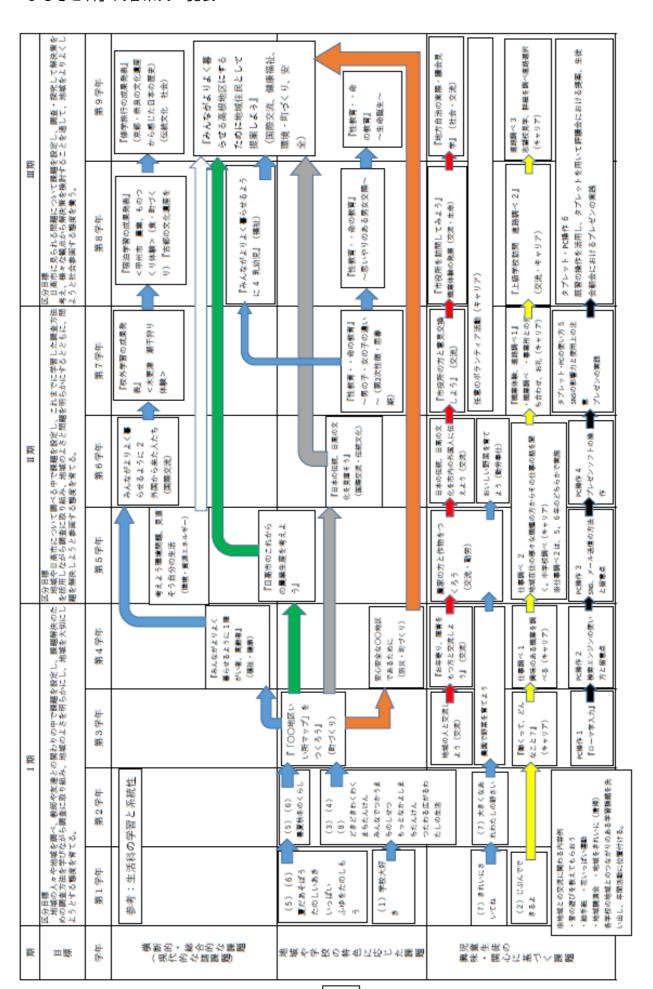
[思考力·判断力

表現力等〕

読むこと

(文学的文章)

根小中学校 ふるさと料(生活料・総合的な学習の時間) 内容系統配列一覧表



令和5年度 武蔵台地区 小中一貫教育取組報告

ふるさと科・小中一貫教育に係る教育課程の工夫

- 1 ★2023 年 7 月 2 8 日 校内研修(小中一貫教育について) まとめ
 - **◆1学期を振り返って** (アンケート(5~9年生はタブレットで回答) 結果より抜粋)
 - ○後期課程(前期課程)と一緒に過ごしてみて、どうでしたか。

【1年】

- ・学校たんけんで中学生の学習の様子が見られた。
- ・一緒に遊んだ児童もいたが、階が異なるので、あまり接する機会がなかった。

【2年】

- ・楽しかった ・遊んでもらえた ・やさしくしてもらえた
- そうじのやり方を教えてくれた友だちがふえた
- ・ 学校が元気で明るくなった

【3年】

- ・低学年にやさしくしてくれて心づよい。
- ・前よりもにぎわっていて、楽しい毎日だった。
- ・7~9年生が来たら、しんせつで明るくなった。
- 明るくてやさしくてまだあそびたい。
- 後期課程のおにいさんおねえさんたちとなかよくなれてうれしい。
- 学校のふんいきがかわった。

【4年】

- ・人が多くて、廊下を歩くのが大変です。
- ・後期課程の人を手本にして自分の生活を改善できた。
- いろいろな人とふれあえてよかったと思いました。
- ・7~9年生の子たちはどうするかを見るのが楽しかったです。
- ・休み時間がもっと楽しくなった。鬼ごっこがもっと楽しくなった。
- ・7年生がぼくたちのことを覚えていてくれてうれしかった。
- ・何をやっていいのか分からないときに、後期課程の人たちがやさしく教えてく れた。
- ・7~9年生と一緒にすごしてあまりいわかんはありませんでした。
- ○武蔵台小中学校をよりよい学校にするには、どうしたらよいと思いますか。

【1年】

なかよくする。・周りの人を大切にする。・楽しく生活する。

【2年】

- ・ふしめをたいせつにする。・けんかをなくす・あいさつ
- ・人の気持ちを思いやれる人間になる・みんななかよくやさしくする

【3年】

- ・みんながみんなのことをささえあう。
- ・悪口や暴力をしない。
- ・いじめやけんかをなくす。

【4年】

- ・まず自分が学校のマナーなどを守って、守っていない人がいたら言う。
- ・他の学年の人と遊び、友情を深める。
- トイレットペーパーをくるくるまいて外になげないようにする。
- ・もっとあいさつをしよう、業間休みに外に出ようとよびかける。
- ・後期課程のみんなも前期課程と一緒に私服にするといいと思う。
- ・何をやっていいのかを考えたり、何をやっちゃいけないのかを考えて生活する。
- そうじのときに声のボリュームを下げる。
- ペンキをぬって、外のイメージを明るくする。

◆私服登校について

<今後の見通し>

① 9月視察(夏)

千葉県印西市立西の原中学校への視察

- ②11月視察(冬)
 - 9月との比較
- ③カジュアルウィーク

さらに長い期間も想定している

- ④子供たちと私服登校について考える
 - ・学級活動1時間の服装についての授業を実施する。
 - ・職員の共通理解は必要だが、基準は設けない。個人の感性による。
 - ・私服登校を開始するが、髪型や靴などは子供たちに考えさせる。

私服に係る質問・意見に関する回答

制服を見直する理由

制服を見直し私服としたい理由

○制服の値段が高い

男子 63,137円

・夏スラックス、半袖Yシャツ、ネクタイ含む

女子 88,537円

- ・夏用スカート、夏用ベスト、半袖Yシャツ、ネクタイ含む ※その他・・25,000円
- ・ジャージ、体育着、上履き、登下校用のバッバッグ等 の購入費

○身体的ストレスの軽減

- ⇒冷え性の生徒がスカートを我慢していた
- ⇒化繊等が苦手な子もいた

○衛生面の問題の軽減

⇒私服にすれば、こまめに洗濯ができる

○多様性の時代である

- ⇒一律に制服で揃える必要があるのか
- ⇒LGBTQ、ジェンダーレスの時代

○機能的でない

⇒温度調節が難しい、動きにくい

〇義務教育学校開校

- ⇒9年間の連続性を重視した教育ができる
- ⇒特色ある教育が展開できる

〇グローバルな社会を自立的に・・・

⇒自分で考え判断し、責任をもって行動できる生徒を 育みたい

【制服推進】

制服はあった方がいいと思う。ベストを見直して	私服になっても制服で登校しても構いません。私
ほしい。	服でなければならない、ということではありません。暑い時はベストを着ないでもいいのです。
式典や高校見学・面接などは制服の方がいい場合 がある。もし私服にするならば、リサイクルで学 校に貸し出し用にストックして必要なときに貸せ るようすればいいと思う。	リサイクルで回収。レンタルできる仕組みを整えていきたいと思う。
制服は絶対必要なものだと思う。必ず規律が乱れると思う。	制服は帰属意識が生まれる。また、規律を守る意 識が高まることも確かにあると思う。しかし、形 にこだわることなく、子どもたちに様々な場面で 考えさせ、子どもたちの内面を育てる教育活動を していけば規律が乱れることはないと思ってい る。
制服の値段が高いという意見があるが、私服を揃 えるとかえって値段が高くなる。	ユニクロ等で購入するなどして、対応していただ きたい。また、毎日着ていく服を変える必要もあ りません。
年頃のオシャレに敏感な世代は他人の服装に敏感 になる。	学校は勉強するところです。オシャレをするところではありません。ユニバーサルデザインの視点にたって、指導していきます。
小学校と中学校の垣根は必要であり。受験等を考 えると制服をなくすことに反対である。	垣根については、部活が始まることや教科担任制 が始まることなどで、中学生(後期課程)になる 意識が芽生えると思う。 受験については、リサイクルの制服を着用したり TPOに合わせた服装を着用すれば問題はないと 思う。
自由には責任が伴う。世の中が自由、個性、平等 と提唱しているが、中学校生活で様々なことを学 び自分の考えをしっかりもてるようになってから ではないとトラブルが絶えないと思う。	中学校(後期課程)では、社会出て通用する力を 育みます。いわゆる「生きる力」です。主体的に物 事を考え行動する力を今後も育んでいきます。
受験時の服装はどうするのか。プリント類が入っ ている服装は受験会場には入れないと思う。	プリント類がある服装は当然だめです。 TPOに 応じた服装が大切です。
完全自由化は反対です。私服は格差が出やすく、 中学生は周囲の影響を受けやすい。廃止するなら 基準服は必要です。	「学校は学ぶところ」の目的のもと、子どもたち に指導をしていく。具体例を示しながら指導をし ていく。
○前期課程が落ち着きのない様子である現状を考えると、私服にする必要はない。中学生としての自覚を芽生えさせる手段として必要である。 ○制服があることで、気持ちの切り替えが可能となったと思う。決まりを守らなくてはならないという意識は制服があることで高まったと思う。今の7年生も中学生らしさを	中学生としての自覚を持たせるための手段ではあるが、教科担任の開始や部活動等を通じて自覚を持たせることは可能であると考える。制服があることで、中学生としての自覚が芽生えることは確かである。だが、制服がなくても、中学生としての自覚を芽生えさせる方法はあると思う。(例)・教育課程・部活動・委員会※役割と責任 ※自己決定 マインドを創る
	決まりは、本当に必要なきまりを子どもたちに考 えさせたい。

【私服推進】

入学式や卒業式などの式典のときはレンタルなど	制服は卒業生から寄付してもらい、必要なときに
で制服を貸し出してもいいのでは。	レンタルで貸し出したりすることも可能です。
生徒朝会などは、制服でいいのかと思う。	TPOに応じた服装を心掛けてください。もちろ
	ん制服でも構いません。
普段はジャージでもいいのでは。	学校してのジャージも私服として含まれますの
	で、ジャージで生活しても構いません。
ジャージが機能的ではないので、見直しをしてほ	ジャージの見直しについては、今は考えていませ
しい。	んが、今後の検討課題です。
普段は私服にして、入試のときは制服がいいと思	入試の時は、TPOに相応しい服装をしていきま
う。	しょう。もちろん、レンタルした制服でも構いま
	せん。
ジャージで十分だと思う。だが、下校中の私服の	ジャージも私服として考えています。「学校は学ぶ
子を見ていると、だらしなさが出てしまうのでは	ところ」である、ということを子どもたちに訴え
ないかと思う。中学生らしさとは何でしょうか。	考えさせることが大切だと思う。また、中学生ら
	しさとは、外見だけでは測れないと思う。
多様化の時代。自分で着ていく服装を選んで学校	自分で考え、判断することに価値があると思う。
に登校することは素晴らしいこと。	「学校は学ぶ場である」ことを意識すれば、派手
	な服装をする子はいなくなると思う。
日常は体育着・ジャージ・私服とし、式典や校外	日常は体育着・ジャージ私服でいいと思う。式典
活動は制服でいいと思う。	は
何を変えるときは色々と意見が分かれますが、統	中学生が制服を着用するという発想は、戦後長い
一しなければならないとか、格差が出るとか小学	間、誰も疑問を持たないまま続いていた。多様な
生では全く問題はなかった。時代にあった見直し	価値観、ジェンダーの問題もあるが、制服を着用
は必要だと思う。	しなければ中学生らしさが保てないのか・・・。
	多様な価値観が尊重される時代に、画一的にする
	必要があるのか。

【その他】

来年度は、現在の制服+新制服(私服)となると	リサイクルなどで回収し、、レンタルするなどして
制服費がかかり、負担が大きなる。移行期間の配	対応していきたいと思う。
慮をお願いしたい。	
制服と私服どちらも選択できる環境がいいと思	制服でも、もちろん構いません。制服を着てはい
う。	けないということではありません。
令和7年4月から制服廃止ということならば、そ	儀式的な行事の時は制服を着用するようお願いし
れまでの期間(令和6年度)は、体操着やジャー	ます。レンタルやリサイクルで購入してください。
ジ登校を認めてほしい	それ以外は、体育着やジャージも可とします。
令和6年度は、選択制プレ自由化はできないか。	儀式等は制服着用とし、その他の日はジャージ・
	体育着とする。私服可は、現在のところは令和7年
	度とする予定である。
反物の在庫処分。温情で1年だけ高い制服を購入	業者と制服面等委員会が7月20日(木)打合せを
するのは納得がいかない。	行う。
	⇒令和6年から私服可となった。在庫があるので、

	来年度以降も制服販売はしていく。
服装が自由になって、いじめに発展することはな	服装のことでいじめに発展することのないよう指
いでしょうか。	導はしていく。
TPOに合わせた服装とはどのようなものなの	「学校は学ぶところ」である。子どもたちの人格
か、示してほしい。	の完成を目指すところである。この目的に照らし、
	TPOに相応しい服装を提示することで、学ぶに
	ふさわしくない服装については考えさせ、適宜子
	どもたちに指導はしていく。
制服の在庫処分を保護者に負担をさせるのはおか	おっしゃる通り、業者に交渉します。
しい。先延ばしをするのではなく、すぐに切り替	
えてもらったほうが反発は少ない。現6年生だけ	
に負担を強いるのはおかしいと思う。	
 シーンに合わせた服装を整えるのも社会にでると	TPOに応じた服装を考えさせることが重要であ
きに重要だと思う。私服という選択肢が増えたと	る。これからの社会を自立的に生きていくために
しても「自分は・・・だ思うから私服で行く」「自	は主体的に考え判断(自己決定)し表現すること
分は・・・だから制服がいい」と明確に自己決定す	が大切である。まさに、自分が着る服は自分で考
る。それぞれの理由を周りが「あの子は・・だから	えることは重要である。
私服なんだ (制服なんだ)」とお互いに尊重できる	
ようになるといい。	
○スラックス、スカートの選択は可能、白ワイシ	「学校は学ぶところ」である。よって華美な服装
ャツ。冬服はブレザー着用を基本。「式」は制服が	にならないよう指導はしていく。白ワイシャツや
基本。あとは自由的な枠あり制服はできないいか。	ブレザーもTPOに合わせた服装の一つとして子
いきなり私服はハードルが高い。	どもたちには指導はしていく。
○私服になったら靴も考える必要がある。また髪	制服検討委員会として、靴や髪型のことは考えて
型についても決まりがあるのか、子どもや保護者	いいないが、靴については、「体育の授業に適した
から疑問に思うのが自然である。	靴」が基本だと考えている。髪型も同様である。
	靴や髪型については、生徒会本部の子どもたちを
	中心に考えさせてはどうか・・。
○ショートパンツやダメージジーンズはいいのか	最終的には本人や保護者の考えになるが、ショー
	トパンツやダメージジーンズが「学校は学ぶとこ
	ろ」の目的に照らして、どうか考えさせたい。
	またユニバーサルデザインの視点からも、周囲の
	気が散る服装と言える。
○部活動の練習着は部活動で揃えるというのに矛	練習着は揃えなくても問題はない。ただ、一括注
盾を感じる	文の方が安くなるのでしょうか?

全校遠足について

令和5年10月24日(火)

- 1 目 的
 - ・児童一人一人が武蔵台・高麗周辺の魅力を味わい、協力して活動する態度を養う。
 - 自然に親しみ、自然を愛する心情を養う。
- 2 日 時 令和5年11月25日(土) (学校行事 5)

(雨天時 中止・・・月曜日課で授業、お昼はお弁当を各教室で食べる)

振替休業日は11月27日(月)保護者に通知済み

3 内容 学活・朝の会 8:25~8:35

> 移動開始 9:05~ 9:20 校庭集合完了 ※縦割り班で、整列する。

9:20~9:30 始まりの会(校庭)

出発 9:30~

(校長先生、青1班~青12班、赤1班~赤12班)

マミーマート 10:00~10:20

トイレ休憩 (行きたい児童生徒のみ) ほほえみの丘 10:40到着

全校児童生徒でレクリエーション (動きのないもの)

 $10:50\sim11:20$

ほほえみの丘出発 11:20~

(校長先生、青1班~青12班、赤1班~赤12班)

巾着田到着 12:00

12:00~13:10 昼食 集合・終わりの会 13:20 (担当:特活)

巾着田出発 13:30

(校長先生、青1班~青12班、赤1班~赤12班)

中の田公園到着 14:00~(休憩、通学班に並び替える)

下校 14:15~



3 遠足コース

全学年

学校→武蔵台5丁目貯水タンク (多峰主山入り口) →マミーマート→新299バイバス

→高麗峠→ほほえみの丘→ドレミファ橋→巾着田

4 始まりの会、終わりの会 司会:計画委員

始まりの会

- 1 始めのことば
- 2 校長先生の話
- 3 諸注意
- 4 終わりのことば

終わりの会

- 1 始めのことば
- 2 感想発表 (1・6・9年各1名)
- 3 校長先生の話
- 4 終わりのことば

※集合隊形は、縦割り班の隊形

5 特ち物

帽子、弁当、木筒、敷きもの、おしぼり、ゴミ袋、雨具、ごみ袋 タオル、名札、おやつ(食べきれるだけ。アメ・ガムは禁止)、ハンカチ、 ティッシュ

- 6 その他
 - 緊急車両は教頭
 - ・雨天時中止の場合、メール配信をする。(午前6時30分)
 - ・11月15日(水)・16日(木)の昼休みを使って、縦割り班班長の整列練習と 前期課程、後期課程の顏合わせ、レクについての相談を行う。
 - 下校の教員の引率は武蔵台地区のみとし、横手地区は学校信号下までとする。
 - ・10月31日までに後期課程の縦割り班を組織し、前期課程の縦割り班と合わせ **る。**
 - 事前に遠足の安全を守るボランティアを募集する。(教頭)
 - 11月はカジュアルマンス実施予定のため、後期課程生徒も遠足にふさわしい服装 を選択する。

2 令和5年度 学校評価に見る職員の記述から~義務教育学校初年度を終えて

ふるさと科

- •総合的な学習の時間は、弾力的に使われていたと思う。それでよいとは思うが、計画性はあまりないかな、とも思う。
- •「ふるさと科」としての学校全体の学習計画がはっきりと定まらないと、今後の見通しとして難しいと感じました。
- ・地域学校協働本部との連携のため、ふるさと科の見直しが必要である。そのため、年間指導計画や各学年の内容の見直しをしたほうがよい。

小中一貫教育に係る教育課程

- •6 年生の修了式について 大きく変わるので、2 学期中に1 度大枠を知りたかったです。音楽が不要であるとの考えならばよいのですが、間に合わないから、無しにしよう となるのは、子供たちにも申し訳ないです。
- ・全校遠足(ツーデーウォーク)は初の試みでしたが充実した行事となったと思います。ただ、低学年の児童にとっては、歩く距離の長さや速さはどうだったかなと思うところもあります。もう少し短いコースを検討し、全校で遊ぶ時間を確保してもいいのではないかと思います。・一年目で見えない中で、教頭先導にふるさと科が動き出すことができた。皆で練り上げていくことがこれからも必要と思います。
- •学校図書館の開放時間について、昨年度までの後期課程(中学校)での、昼休みの生徒の利用の仕方を考えると(ゆったりとした時間を過ごしている様子)、清掃後に図書館を利用できるような時間設定をしたい。 13:40に清掃が終わり、5時間目の授業の始まりが14:00でも帰りの会の終わる時刻が、後期課程の昨年度までの15:10(16:10)なので、可能ではないか。
- •清掃指導について、本年度から火曜日は清掃なしとしましたが、予想以上に前向きに機能していたと感じます。清掃がなくて困難を感じることも少ないですし、子供も自分の時間を活用しようとしていました。そのため、「清掃の日を週3日」にしたら、教員も生徒も学校の生活に幅ができると思います。
- ・2 学期から始まった、**業間休み**に前期課程は外に出るアナウンスがよかった。・前期課程は業間休みに外に出るように呼びかけが始まってだいぶ外に出る児童が増えた。外に出て体を動かすことで、次の学習への集中力が上がるし、体力向上にも、視力にもよい。・体力向上のため、体育部からしかけてほしい。(業間休みの取組、掲示物等)
- ・短縮授業のときは、部活動は行わないほうがよいと感じた。
- ・職員会議の日は、安全確保のために部活動なしにしてもよいと思います。 生徒は教員のいないところで悪さをしたり気が抜けたりすることが多いので心配です。
- ・月曜日に職集や職員会議を行うと部活動を見ることができない状態になり、生徒のみだと怪我やトラブルが起こる可能性があるため、水曜日の委員会がない日に職員会議や職集を行うことが可能であれば水曜日に職集や職員会議を行いたい。
- ・異学年交流を意識して取り組んでいただきたい。(全学年、ブロック、異学年等いろいろな関わりがあるとよい。特活部や清掃部だけではなく、他の部もどんどんしかけていきたい。)

2 学校評価を受けての、来年度の課題

ふるさと科

- 前期 \cdot 3 \sim 6までの学年で、社会(GT 含め)に触れ合う機会を増やしてはどうか?
 - ・各学年ごとにテーマを決めて、それに応じた指導を行う。
 - → 年度末、各学年の取組を確認する。 そのデータをもとに、計画と引継ぎ(データ含め)をおこなう。
 - → SV にフォルダを作って、来年度以降に再活用できるようにする。
- 後期・各学年テーマを決め、荒川教頭のリードのもと各自進行できた。
 - → SV にフォルダを作って、来年度以降に再活用できるようにする。
- ※ふるさと科 = 生活 + 総合
- ※ふるさと科指導の根幹に、「課題解決」「情報発信(発表など)」がある。

後期課程ふるさと科指導計画 (7年)

単元名「武蔵台、日高市の歴史を知ろう」

時	指導内容	指導上の留意点
1 • 2	ふれる・知る	・見通しをもって活動に取り組むことが
	○「ふるさと科ガイダンス」	できるよう、学習の流れについて説明す
	かだい	る。
	○課題を設定する。	・個人で課題を設定するが、同じ課題をも
	【課題例】	つ生徒でグループを組んでもよい。
	武蔵台・日高市の○○について知り、~したい。	
	○課題解決のための方策を考える。	
3 · 4	しらべる	・本、インターネット、人からの聞き取り
	○武蔵台・日高市の歴史についての調べ学習と情	などの方法により、調べ学習をする。
	報収集	
5 · 6	○石元さん、塚原さんから武蔵台、横手台の開発に	・質問を考えながら聞かせる。
	ついての話を聞く。	・教科等横断的な視点から、「○○先生の
	○入江さん、高麗神社の宮司さんから日高市の歴	講義」を行うことも考えられる。
	史についての話を聞く。	
7 · 8	まとめる	・タブレットのスライドなどを活用しな
	○武蔵台・日高市の歴史についてまとめる。	がら、発表のしかたを工夫する。
		・情報を整理、分析、比較する。
9 • 10	はっぴょう	・聞いている人の方を向いて話せるよう
	○「武蔵台、日高市の歴史発表会」をする。	指導し、プレゼンテーション能力を高め
	ふりかえり	る。
	○これまでの学習を振り返る。	
		・8年生の学習の予告をする。

【ゲストティーチャー連絡先】

- ・高麗神社宮司 高麗 文康 様 権禰宜 倉片 彩 様 ・郷土史研究 入江 武男 様 ・こま武蔵台自治会長
- ・学校運営協議会委員 地域学校協働活動推委員 石元 登 様 ・野々宮神社宮司
- ・こま路散策の会 田上 はるか 様 ・カフェ高麗ブルーベリーファーム ・こま路散策の会 塚原 様

後期課程ふるさと科指導計画 (8年)

単元名「今の日高市について知ろう」

時	指導内容	指導上の留意点	
1 • 2	ふれる・知る	・見通しをもって活動に取り組むことができる	
	○「ふるさと科ガイダンス」	よう、学習の流れについて説明する。	
	かだい	・個人で課題を設定するが、同じ課題をもつ生徒	
	○課題を設定する。	でグループを組んでもよい。	
	【課題例】		
	武蔵台・日高市の○○について知り、~したい。		
	○課題解決のための方策を考える。		
3 • 4	しらべる	・本、インターネット、人からの聞き取りなどの	
	○現在の武蔵台・日高市についての調べ学習と情	方法により、調べ学習をする。	
	報収集		
5 · 6	○日高市役所、日高市生涯学習まちづくり出前講	・質問を考えながら聞かせる。	
	座の方から日高市の現状についての話を聞く。	・教科横断的な視点から、「○○先生の講義」な	
		どを行うことも考えられる。	
7 · 8	まとめる	・タブレットのスライドなどを活用しながら、発	
	○現在の武蔵台・日高市についてまとめる。	表のしかたを工夫する。	
		・情報を整理、分析、比較する。	
9 • 10	はっぴょう	・聞いている人の方を向いて話せるよう指導し、	
	○「今の武蔵台、日高市発表会」をする。	プレゼンテーション能力を高める。	
	ふりかえり		
	○これまでの学習を振り返る。	・9年生の学習の予告をする。	

【ゲストティーチャー連絡先】

・日高市 総合政策部 政策秘書課 大澤 優介 様

生涯学習課 IP の日高市生涯学習まちづくり出前講座の様式から利用申込書を作成し、生涯学習課に提出する。

後期課程ふるさと科指導計画 (9年)

単元名「武蔵台、日高市、わたしたちの未来」

時	指導内容	指導上の留意点
1 • 2	○「ふるさと科ガイダンス」	
	かだい	
	○これまでの活動を振り返り、武蔵台、日高市の	・学級で取り組むため、グループで話し合ってか
	ために何ができるか考える。	ら、学級全体の課題を設定する。
	○課題を設定する。	
	【課題例】	
	これからの武蔵台・日高市のために、~をする。	
	○課題解決のための方策を考える。	
3 • 4	しらべる	・本、インターネット、人からの聞き取りなどの方
	○どのようにすれば、地域に貢献できるか、また、	法により、調べ学習をする。
	その方法について具体的に考える。	
	○活動の計画を立てる。	
5 · 6	活動する	・学級で活動する。
	○計画したことを実行する。	
7 · 8	まとめる	・タブレットのスライドなどを活用し、発表のしか
	○武蔵台、日高市のために活動したことをまとめ	たを工夫する。
	る。	・発表の形式は問わない。学校ホームページ上に公
		開する形でもよい。
9 • 10	はっぴょう	・聞いている人の方を向いて話せるよう指導し、プ
	○武蔵台、日高市のために活動したことについて	レゼンテーション能力を高める。
	発表する。	
時間外	○高麗鍋づくり	

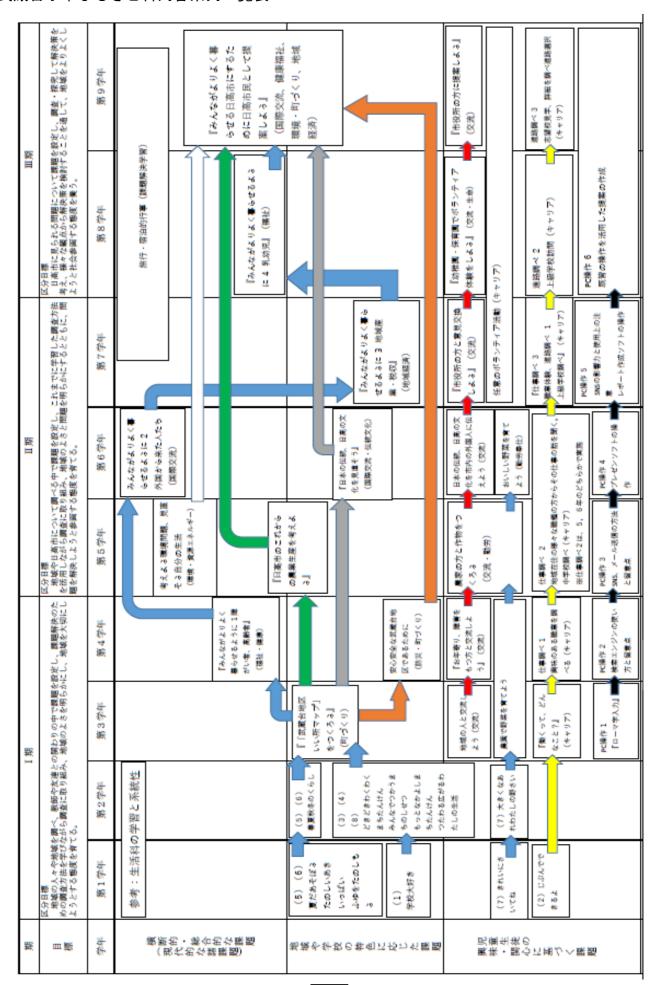
活動例 あくまでも子供たちから出てくるように

- ・地域の清掃活動
- ゴミ出しボランティア
- ・地域交流イベントの企画・実施
- 西武鉄道との連携
- ・高麗駅構内に武蔵台小中学校の掲示板を設置

【ゲストティーチャー連絡先】

・日高市学校給食センター 栄養技師 浅野 麻友子 様

試蔵台小中学校 ふるさと学習(生活・総合的な学習の時間) 内容系統配列一覧表



【施設隣接型·分離型小中一貫教育校】

令和5年度 高萩地区 小中一貫教育取組報告

高萩地区は「ふるさとを愛し、生きていく力を育む萩っ子」の育成を目指し、授業公開を行ったり、小・中の情報交換を密に行うことで課題を共有したりしながら、高萩地区の子どもたちへのよりよい教育の推進を図っている。以下、具体的に述べていく。

1 中学校教員による小学校への乗り入れ授業

中学校の教員2名(令和5年度は、国語科・家庭科)が兼務発令を受けることにより、小学校6年生の授業補佐を行っている。主な内容としては机間指導や丸つけなどである。これらについて、以下の2つを意識して行っている。

- (1) 指導が充実することにより、子どもたちの理解度が深まる
- (2) 子どもたちは中学校の先生を知ることができ、中学校教員は子どもたちの様子を知ることができる

これらのことは、中 I ギャップへの解消にもつながると考えられる。また、中学校教員は、小学校教員の 指導内容や取組内容を直接見ることができるため、小学校の授業のよさや課題がわかり中学校へと取り入 れることができる。それらを話し合うことを通して、小中互いに切磋琢磨することができるのも乗り入れ授 業の良い点であり、施設隣接型の高萩小中や施設一体型の学校だからこそできることである。

2 プールの共有

高萩地区では中学校のプールを小中で共有している。よりよい水泳学習とするため、以下の2つのことを 大切にしている。

(I) 事前の打合せ

体育主任を中心として時間割の計画を立てている。小中で行事等のすり合わせを行い、どちらの学校にとってもよい時間割となるよう配慮している。そのため6月初めの寒い時期は中学生が積極的に入っている。

(2) プールの水量

時間割と同様に配慮を要するのがプールの水量である。よりよい水泳学習のため、中学生と小学校高学年、小学校中学年、小学校低学年の3つの高さを設定している。これらの水量調節の時間の節約と、水量の節約のために、先述の時間割の工夫により対応している。

3 小学校クラブ活動等での中学校校庭の共用

小学校では木曜日の6校時(15時~)はクラブ活動の時間となっている。昨年度、小学校の校庭に公民館を建設したことにより、活動しづらくなったクラブがある。そこで、中学校の校庭を共同利用することにより、公民館建設前と同様、充実したクラブ活動が行えるようにしている。また、火、水、金曜日の業間休みは、小学生が中学校の校庭で遊べるようになっており、元気な声が響き渡る。どちらも時間割を調整することにより実現したものである。

4 部活動交流会

小学校6年生が中学校へと入学した際に安心して部活動に取り組めるよう、部活動交流会を行っている。 特に配慮していることは、以下の通りである。

- (I) 中学校 I 、2年生が部活動交流会に参加し、3年生は5校時の授業を行う。
- (2) 6年生を男子、女子、それぞれ5グループ(10名前後)ずつに分けて行う。
- (3) 部活動に所属していない生徒は、案内役として小学生のグループに付き添う。
- (4) 体験内容は部活動ごとに案を出し、顧問と相談しながら決定する。その内容は、基礎的基本的なものをメインとし、小学生が楽しんで活動できるよう配慮する。また、部長を中心に生徒が主体的に小学生を指導できるような活動内容とし、「回「5分の3ローテーションで行い、3つの部活動が体験できるようにする。
- (5) 部活動体験場所は各部活動場所とする。

今年度はあいにくの雨天だったために校庭が使えなかった。昨年度までは、雨天の場合、中止としていたが、野球部、男子テニス部、女子テニス部は小学校の体育館、陸上部は中学校の特別教室内に分かれて活動を行った。小学校の体育館を使用したことは今までなかったが、中学生も小学生も楽しく活動することができた。これも、施設隣接型のメリットである。

【部活動ローテーション】※*斜字体*は男女混合の部活動

グループ	ローテーションI	ローテーション2	ローテーション3
男子A	陸上部	野球部	男子テニス部
男子 B	野球部	男子テニス部	男子バスケ部
男子C	男子テニス部	男子バスケ部	卓球部
男子 D	男子バスケ部	卓球部	野球部
男子E	卓球部	陸上部	<i>美術部・<u>吹奏楽部</u></i>
女子A	女子テニス部	バレー部	吹奏楽部
女子B	バレー部	女子バスケ部	女子テニス部
女子C	女子バスケ部	美術部	バレー部
女子D	美術部	吹奏楽部	陸上部
女子E	吹奏楽部	女子テニス部	女子バスケ部





5 なかよし運動会に向けた小中合同練習

例年9月頃、なかよし運動会に向けて、中学校の陸上部の生徒と小学校6年生が合同練習を行っている。 憧れのお兄さん、お姉さんから走り方やとび方などを教えてもらえる貴重な機会である。ここ数年は、イン フルエンザや新型コロナウイルス感染症の流行のため中止となっているが、これからも継続していきたい。

6 合唱交流会

10月下旬、中学校にて合唱祭が行われている。この合唱祭には小学校5年生も参加をしており、全体合唱「BELIEVE」では、小中学生の心が一つとなる、すばらしい歌声が体育館中に響き渡る。この合唱祭を通して、中学生は先輩としての立場を自覚し、小学生は中学生への憧れをより一層強め、そして「なかよし音楽会」へとつながっていく。中学生にとっても小学生にとっても心温まる合唱祭、高萩地区のよき伝統の一つである。残念ながら今年度はインフルエンザ感染症流行の影響で合同実施できなかったが、来年度は今年度の思いも込めて実施できればと思っている。



7 職場体験学習

今年度、4年ぶりに職場体験学習が再開され、中学校 | 年生7名が小学校にて、職場体験を実施した。3日間の職場体験の中、中学生は積極的に小学生に声をかけたり、丸つけをしたり、一生懸命取り組むことができた。休み時間では、小学生が中学生の周りに集まり声をかける様子が見られ、微笑ましい姿が多く見られた。

また、今年度は高萩地区学校運営協議会委員の方々に中学生の体験の様子を見て頂いた。職場体験を行う ことで、子どもたちの進路選択の幅が広がるので、来年度以降も継続してほしいと言って頂いた。あわせて、 職場体験を行う事業所の紹介も協力していきたいとの申し出もして頂けた。

今後も小中一貫教育へとつながる職場体験学習が実施できるよう、よりよいあり方を探っていきたい。







8 小中合同地域学校保健委員会

毎年、夏休みの研修として小中合同で地域学校保健委員会を行っている。今年度の内容は以下の通りである。

(I) 新体カテストの結果報告と分析

高萩小…県平均を上回った項目:48項目中、男子22項目、女子15項目 高萩中…県平均を上回った項目:24項目中、男子13項目、女子16項目

(2) 定期健康診断の結果報告と分析

(3) 講演及びワークショップ

「アンガーマネジメント入門講座~イライラと上手に付き合う方法~」

講師:一般社団法人 アンガーマネジメント協会

アンガーマネジメントファシリテーター 木内 麗 先生

講演及びワークショップに対して、以下のような感想があった。

- ・参加して本当に良かったです。楽しい時間をありがとうございました。シェアすることによってさらに自分の気持ちが明らかになりました。シェアは日常でも大切だと思い、家でもやってみます。(地域の方)
- ・怒ることのメリット、デメリットについて、自分ではその時の怒りの感情をはき出してスッキリしていたが、それは 自分がスッキリした後、誰かが傷ついていることなので気をつけないといけないということだった。怒った時に相手 (子ども)が何とも悲しそうな表情になったのを見て、とても後悔したのを覚えている。これからは少し余裕を持っ て接していきたい。(小学校保護者)
- ・何に対して自分自身が怒っているのか、自己診断なんて日頃しないので考えるきっかけになったと思います。怒りの 正体「べき」にはとても納得できました。話を聞けた事で今後の怒りの時、少し考えて行動できたらいいなと思えま した。今日はありがとうございました。(中学校保護者)
- ・職場と家庭では自分の怒りの大きさが違うことに気がつきました。○○べきの幅を広げ、考えていこうと思いました。ありがとうございました。(小学校教員)
- ・考え方のアイデアを教えてもらえてよかったです。特に6秒待って、手のひらに言葉を書くアイデアは実践していきたいです。生徒ですぐに怒りになってしまう生徒がいるので、怒りの裏にあるリクエストを一緒に考えられるようにしたいです。(中学校教員)

9 小中合同研修会

年に3回、小中合同で研修会を行っている。スケジュールは以下の通りである。

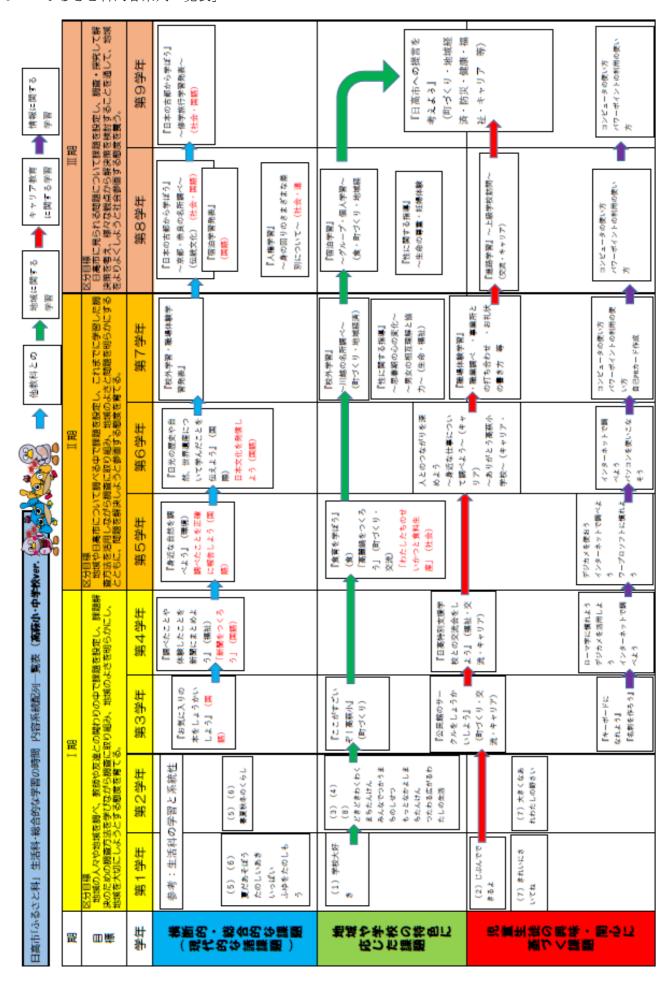
6月…中学校の授業見学及び協議会 8月…小中合同での協議会

Ⅰ月…小学校の授業見学及び協議会

協議会では、よりよい小中一貫教育のあり方や子どもたちへの指導の仕方、小中共通で取り組むことの精査を行っている。今年度は、中学校の学校課題研究である「思考力の育成」に対して、小学校での6年間を合わせた9年間、各教科で行えることは何かを協議し、実践した。令和7年度に日高市教育研究会において小中合同での研究発表を行う予定である。日高市のみなさんによりよい小中一貫教育のあり方を伝えるためにも、子どもたちによりよい教育を行うためにも、小中力を合わせて研究に励む所存である。

これらの取組以外にも、高萩地区では、子どもたちが安心して9年間を過ごせるよう、校則やみんなの約束のすり合わせをしている。伝統というバトンを確実に引継ぎよりよい高萩小中学校にしていけるよう、学校、家庭、地域が一体となって取り組んでいく。

10 「ふるさと科内容系列一覧表」



令和5年度 高萩北地区 小中一貫教育取組報告

1 小中学校の取組

○小中合同研修会の実施 第1回:8月22日集合研修 第2回:1月15日集合研修 小中一貫教育を推進していく上で、まず生徒指導や教育相談、総合的な学習(ふるさと科)、学習の取り決めなどの共通理解を進めることがスタートと考え、今年度は部会を4つに分け、話し合いを行った。また、8月の研修会では、午前中は、教職員も全員参加しての学校保健委員会を行った。

(1) 非認知能力(学力向上) 部会

① 第1回研修会

授業での展開の工夫・働きかけの工夫についてと昨年度研修で課題となった「スモールステップ」を進めるために、自己効力感を高めるためにはどうしたらよいか、小中で話し合いを行った。 小中共に「答えが明確に出ているものに対しては挙手できるが、抽象的な答えのものの発表が苦手」 や「正解のない道徳は、意見があまり出ない」という話があり、

- ・間違ってもよいという環境作り
- ・自分を出せる場所にクラスがなるように

 \downarrow

学級の安心感を学力向上につなげたいという結論となった。

学級の安心感を構築するために、小中でできることを考えていきたい。

また、「自己効力感」があるとは?という意見交換を行った。

- ・自信を持って行動できること?→間違ってもよい教室作りが必要
- ・正解も間違えも認め合える学級(授業)作り(自信とやる気)
- 発表して良かったと思えるように
- ・教師が授業で間違いやすい答え方の例を使って説明を行う(間違えた側の気持ちに寄り添う)
- ・誤答を単純に間違えとだけとらないようにする (考えすぎちゃった考え 等)
- ・間違いは成功へのプロセス
- ・学び合い(両者が学べるよう、教え合いから始めるのもあり)
- ・できるところからやらせて、「できた」が積み重なるように(同じ問題を何度も)
- ・目に見えた成果(取り組んだプリントが溜まる等)があるのもいいかも(長いスパンで見る)
- ・日記を用いて、本人の行動に価値づけをする(発表でも行動でも小さなことで)
- スモールステップ(成功体験)を積んでいく
- 簡単なものでも「できた」と思わせる
- ・ただ「褒める」だけでいいのか?内発的動機づけにしたい。
 - →大人だけでなく友達からも良いのではないか
- ・行事等、やらされているのではなく自分から動けるようにしていく。

② 第2回研修会

ア 学習方略

プランニング方略

- ・テストの際には3週間前にプランをたて、2週間前から取り組みはじめる。
- ・苦手な児童には、一日の細かな計画ではなく、ここまでに〜を終わらせておくというふうに幅をもたせている。 2 〜 3 日くらいの幅

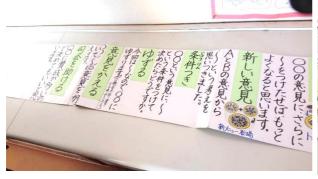
イ 認知的方略

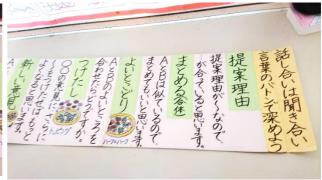
- ・社会科、残り数分で課題に対して、自分の言葉でまとめる時間をつくっている。 課題として
- ・主体性を持たせつつ、どのように取り組むのか。
- ・中位の子が伸び悩んでいる。
- ・体育、模範演技をやりたがらない。→笑われるから ⇒学級づくりが大事 集団の中でお互いを認め合う

ウ 学級会

- ・計画委員は輪番でできるとよい
- ・決まっていることの確認(条件をしぼる)
- ・話し合うこと①〜③の柱
- ・意見を出すときは、理由も提案理由に沿って発言
- ・反対意見は柔らかく言う指導が必要
- ・反対意見は話し合いが深まる
- ・どれをやってもよいが、今のクラスにはどれがぴったりかなど声がけをする
- ・意見の言い方の指導、掲示
- ・意見にはうなずくなど、反応をする
- ・どんな意見を言っても大丈夫な雰囲気づくり

学級会の進め方について、小学校での方法を中学校でも続けていけるように進めていく。 以下の資料を小学校では利用しているので、中学校もこれをベースに中学校にあったものを作成してい きたい。





(2) 教育相談部会

① 第1回研修会

北中から小学校段階でやっておいてほしいこと、引き継ぎ事項でほしい情報等について意見が出た。部会では児童・生徒の情報交換が主であったが、小学校での児童のデータをどのように引き継いで、どのように活用していけば、子供たちのより良い成長につながるかを話し合った。

- ・学校が楽しいと思うことを小学校のうちに経験させておくことも大切。
- ・6年担任の引き継ぎだけでなく、1年生の頃からなどの記録があると中学校で活用できてよい。 (他校ではは6年間分の記録が入っている冊子がもらえる)校務支援をうまく活用できるとよい。
- ・校務支援システムの「日々の記録」をうまく共有できたらいい。
- ・学活は、SST やエンカウンターを取り入れている。

② 第2回研修会

ア 中学校の教育相談の流れ

- →週1相談部会(困り感のある生徒の情報交換)→部会での話を学年に下ろす
- →夏休みに保護者と面談(担任と保護者と担当・手帳の話・進路の話)
- →スクールカウンセラーや保健室・センター
- イ 通級学級に通っている生徒への対応について
 - ・保護者の方の支援級に通うことへの意識がどこまで、緩やかになるかが課題 (支援級へのハードルが低くなっていると良い)
 - ・中学校にも通級があるといいな、と感じる。
 - ・中学校に上がると、通級がないので、授業は厳しい状況もある
 - ・通級に通っていた子が、中学校になると、自立を求められるので、適した環境を提供するのが難しい。 「

通級に通っていた児童が中学校へ上がった際の対応を小中で対応していきたい。

(3) 生徒指導部会

北小中それぞれの生徒指導での課題を出し合い、課題を解決するための策を話し合った。

「継続する力」や「話を聞く力」をつけさせる生徒指導をしていきたい。中学校は、整理整頓できない生徒が多く、小学校でできていない子は中学校に上がるともっとできなくなる傾向にあったり、嫌なことから逃げてしまう傾向が小中共にあることも話し合いで分かった。今後は、小中で協力して生徒指導ができるように話を進めていきたい。

① 第1回研修会

ア 忘れ物

小学校

- ・低学年は忘れ物が少ない。家庭環境によって若干ばらつきがあるが基本的には忘れ物なし。
- ・中学年は配慮児童は忘れ物があるが、全体的には少ない。
- ・高学年は忘れ物の多い児童がいる。子供によって自己管理ができる子とできない子の差がある。

中学校

- ・1年生は言われたことをやろうとする意欲はあるが、言われていないことはやらない傾向がある。 忘れ物は多い。
- ・ 2年生はそこまで多くなく、3年生は忘れ物がなくなってきた。
- ・授業始まってからロッカーに取りに行く子がいる。
- ・1分前着席ができない。授業準備も含めての休み時間だと指導している。

イ 継続する力

小学校

・自主学習・・・低学年はまだ、中学年は児童個人による。高学年は差があるように感じる。

中学校

- ・整理整頓できない子多々いる。
- ・自主学習・・・目的があれば良いが、取り組む意味がないのではと昨年度意見が出た。 2年生は今年になってまた始めて、効果が出ている。 教師がそこまで手がかけられないところある。 環境が整っていればやる意味はある。

ウ 話を聞く力

小学校

- ・2年生は進級当初話を被せてくる子が多かったが、徹底して指導したことで話を聞けるようになった。
- ・教えすぎず、クラス会議のようなことができると良い。横の関係を構築したい。

中学校

- 静かにしていれば良いという傾向あり。頭に入っているかはわからない。内容を汲み取ろうとはする。
- ・1年生は話の聞き方がわかっていないように感じる。聞く姿勢から指導していかないといけない。
- ・小学校で行っている「グー、ペタ、ピン」を活用したい。

エ 学級会(リーダーの決め方)

小学校

- ・多数決では決定しない。
- ・意見を見てくっつけたり、次に回すなど工夫する。

中学校

- · 良い意見が出ているのに最後多数決になってしまう。→小学校でも多数決で決定することが多いのか
- ・意思決定するのが難しい。
- ・班長を中心に席替えをする。

オ 嫌なことから逃げてしまう

小学校

- ・子どもが一番嫌なことは掃除。
- ・心が乱れていると掃除はできない。心が落ち着いたらまたおいでという声かけ。

中学校

・嫌なことから逃げてしまうのは全小中学生に共通することではないか?

【掃除の仕方】

- ・中1はちりとりを置いて使っている。
 - →長いほうきとちりとりの組み合わせの方法がわかっていない。
- ・雑巾はシンデレラ拭き
- ・ やってるのかやっていないのかわからない掃除
- ・声をかけないのが一番良くない。他学年間、担任外も声かけを行う。

② 第2回研修会

ア 継続する力

小学校

- ・5年生 「名札・廊下歩行・上履きを揃える」指導を徹底
- ・教師が徹底して継続的に指導できるかどうか。 指導をやめたらすぐに崩れる。
- * 年度初めに継続して指導してきた内容の共有。 そのまま指導できるように。



・ 当たり前3か条(すぎのこ)



イ 話を聞く力

小学校

- ・4年生 聞いているのかどうかわからない。話を被せてくる。
- ・聞く力がないのか、聞いているけど理解力がないのかわからない。

中学校

- ・ 1年生 改善された。姿勢が変わってきている。
- · 2年生 静かで聞いているかどうかがわからないところもある。
- ・他の先生の授業を客観的に見ていると、子供が理解しているかどうかがわかる。
- *教師にも話をする力が必要。聞かせる力。「ちゃんと座って」などの声かけも必要。

ウ 嫌なことから逃げる(掃除の仕方)

小学校・・・ミニほうきは廃止したほうが良さそう。

中学校

- ・ちりとりを置いて使っていたのは改善。
- ・ほうきの掃き方 ただ掃くだけではごみは集まらない。端までしっかり掃くように指導。

エ タブレットの使い方

小学校

- ・休み時間は使わない。(許可があれば良い)
- ・授業(学習)に関係のないこと以外では使わない。(家でも)
- ・学年・学級によって持ち帰りは自由。
- ・アイコンやデスクトップはいじらない。

中学校

- ・許可を得ないとタブレットの持ち帰りはできない。
- ・アイコンやデスクトップを変えている生徒がいるので、今後決まりに入れる予定。
- *前年度のクラスルームをチャットのように使用している子供がいたので、削除したほうが良い。

オ 授業開始・終了の挨拶

小学校

- ・「日直が号令をかけるのはおかしい」と学校研究の講師から指摘あり。
- ・中学校に方法を合わせた。

中学校

- ・ 2年生 学級委員が前に来て号令をかけている。
- *「気をつけ、礼」で統一できたら良い。

(4) ふるさと科部会

新たに日高市で取り入れられるふるさと科について小中でカリキュラムの検討を行った。 小中で協力して進められることをあげ、社会科で、小3の「わたしたちのまち」と中2の「身近な地域の調査」を関連づけて学習を行うことや、小6の「日本と世界のつながり」と中3の総合「日高と世界の関わり」についてを結びつけることなどが提案として上がった。カリキュラムにどのように組み入れて行くか考えていきたい。まず、中学校で来年度のふるさと科の授業内容を考え、それをもとに小学校と中学校で連携できるように授業内容を考えていくこととなった。

以下の資料は、高萩北中学校の来年度のふるさと科の取り組み予定をまとめたものである。

資料

令和6年度 高萩北中学校ふるさと科(総合)

Ⅰ 小中一貫教育推進委員会から

- 〇生活科と総合的な学習の時間を融合して「ふるさと科」としている今の段階は、新教科としての位置付けになっていない。今後は新教科として設置を進めていくことを検討する。各学年の必要時数を確定する上でも学習内容の適正 化を図りたい。
- 〇中学校の内容の見直しを図りたい。キャリア教育等踏まえ、生徒の期待に応える学習にしていきたい。
- 〇日高市小中一貫教育構想「学びの自立を目指して」に立ち返り、4・3・2制の採用や教科担任制の導入、小中相互乗り入れ授業の取組、小中の交流活動の積極的な導入を図り、日高市ならではの小中一貫教育を進めていく。小中の話し合いが大切。

2 北中でのふるさと科の内容(案)

|年生:川越への校外学習と関連づけて

Ⅰ学期:川越の歴史について学ぶ→校外学習→新聞やスライドにまとめる

2学期:川越市と日高市との関わりや歴史について調べる

→小学校4年生が日高と川越のかかわりを学習するので、連携したい。

(例) 各時代のごとの川越と日高の関わり・関連

・縄文弥生→川越との比較

・江戸時代の川越と日高

・高麗郡と川越との関わり

・明治以降の川越と日高

・鎌倉時代・室町時代の川越と日高

★現代の日高市の人々の生活・・・社会体験を通して学ぶ

2年生:鎌倉への校外学習と関連づけて

1学期:鎌倉の歴史について学ぶ→校外学習→新聞やスライドにまとめる

1~2学期:日高市の観光・おすすめマップを作る→出品する

(例)・日本で有名な観光地である川越と鎌倉に校外学習へ行き、観光地の地図や冊子などを活用して 計画を立てた経験を生かし、日高市のおすすめマップを作成する。

(今年度の生徒の作品を参考に作成)

→小学校3年生が日高について学習しているので、発表に行く

3年生:京都・奈良への修学旅行~世界と日高市について

1学期:京都の歴史について学ぶ→修学旅行→新聞やスライドにまとめる

2学期:世界と日高の関わり

朝鮮半島と日高

日高市の国際交流

友好都市烏山市について ★小6で烏山市と交流している生徒がいるので活用したい。

→スライドにまとめる

→小学校6年生(世界の中での日本)という学習をしているので発表に行く。

3 授業数について

- ・総合的な学習の時間に行う
- ・1 学期終わり~2学期にかけて総合の時間を集中してふるさと科の時間として確保する。

☆サンプルとして、1年生のふるさと科調べ学習の新聞と3年生のふるさと科調べ学習のスライドを作成した。



☆3年生のふるさと科学習のサンプル



友好都市とは・・

わが国の最初の姉妹自治体提携は、 1955年(昭和30年)12月に長崎市と アメリカ合衆国セントボール市との間に 締結されました 姉妹自治体提携数は、年々増加し

現在では1,700件を超えています。



昔、高句麗あった韓国 北部の市で、日高市が 高句麗との関係が 深かった強い 縁で結ばれていた事 から姉妹都市となった





友好都市とは・・・

文化交流や親善を 目的として結びついた 国際的な都市と都市。

烏山市とはいつから、 友好都市に?

平成8 (1996)年 友好都市締結調印!!

鳥山市と日高市の交流

①日高市訪問団島山市公式訪問

(過去9回) ②島山市公式訪問団来市(過去10回) ③スポーツ交流事業(過去14回)



★面積 42.71 - 周地: 9.21m (21.57%) -林野:10.38㎞(24.3%) ·他:23.12ki (54.13%)

鳥山市の観光①禿山城



鳥山市の観光③宝積寺



宝積寺は元山城の東門内に位置 し、正確な創建記録はないが、 百済阿事王10年(401年)に 戦器を祈願するために創建された と伝えられている。

品山市の観光4五色市場



を任う エー 政府が伝統のある市場を返住化 でいち生に、文化観光要 政府が伝統のおる市場を 活性化させ ようと、2015年に、文化無光 里市場 として、五色市場が滞ばれた。 五色(力セラ)市場という。名前の時由 は、市場が、テーマ分計しているからで 表い強は、多様なショッピングを楽し めるメイン港り、緑の組は、新鮮な野菜 や無物帯を見る達出、カレンシ色の 連川は、鮮化作る場所が 集まり、青色 は、末に築め、牛肉を売り、着色の通 川は、文々三ヶ料 時を食べられる速り。

最山市の観光のドラマのロケ地



島山市の観光のドラマのロケ地

他にモネットフリックスで 人気のドラマ 「その年、私たりは」の ロケ地にもなっています。 主漢のキム・ダミさんは 類原発クラスに 出端していた女優さんです。



鳥山市の観光③宝積寺



「宝晴寺」という名称には面白い 由東方伝わるが、音質圏に営しん でいたを表層が来よれでけ渡るよ うになると、観えて死め、はは 様に供養しようと心を決めて供養 した後、家に帰ったら扱い。その 後、一生懸命供養するとなが構る 多れかということから実命と名 あお金ということからまきと名 るお寺ということから宝積寺と名 ブけられたという。

烏山市の観光5国連軍初戦記念館



網幹戦争で韓国事・国連軍VS北朝幹 軍が最初に戦った場所にある。

単が無効に載った場所にある。 固速率は、適価を事事支援したアメリ 力を始めとする11 力態の事態から成り。 の必念念、必念配値のな。単似と様人で の必念念、必念配値のな。他はは、他の 必能がある。 必念性のでは一般ですれている。 必念性のでは健康量から発化した様 以、状況、最った民土や亡くなった民土 の写真やメッセージなどが展示されて いる。

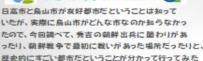
烏山市の観光のドラマのロケ地

他にもネットフリックスで 人気のドラマ 「その年、私たりは」の ロケ地にもなっています。 生務のキム・ダミさんは

処理院ケラスに 出演していた女優さんです。



まとめ・調べた感想



いと思いました。今後も日高市と島山市が友好都市で 交流が続いてほしいです。

☆2年生の生徒作品

2年生の作品を参考に、来年度の中学校2年生のふるさと科の調べ学習を進めていきたい。





(4) 地域学校保健委員会

高萩北小中では、学校保健委員会に全職員参加して、児童生徒の体力テストの結果や定期健康診断の結果について共通理解をし、指導に生かしている。また、今回は早稲田大学の小塩先生を講師に招き、「レジリエンス」をテーマに、子どもへの対応について改めて学ぶことができた。レジリエンス(回復)

90

には個人差があり、違いを理解しながら、どこで・どのように・ どこまで助けるか、子どもたちの経験の大きさや出来事に対する 受け止め方をしっかりと理解し、自尊感情が1番低くなると言わ れている中高生の時期に向けて、褒めて褒めて、褒め過ぎるぐら い褒めて、少しでも自尊感情が高まるような指導を小中で進めて いきたい。



【内容】

① 児童生徒の体力テストの結果について (小中学校 体育部より)

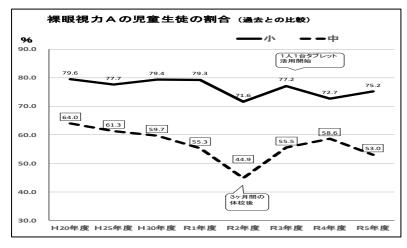
小学校の報告

コロナ禍の数年間は幅跳び以外の全種目の結果が下がっていたが、去年・今年の結果を見ると改善傾向となっている。具体的には、達成率が男子:21/48項目(約44%)女子:29/48項目(約60%)となり、女子の達成率が大きく伸びた。しかし、全体としてみるとまだまだ体力の低下が心配される結果である。身体の使い方はよくわかっているが基礎体力が低いことが課題なので、①体育の授業の充実②楽しい慣れの運動の工夫(遊具の推奨)③外遊びの積極的な推奨を教員・家庭・地域で協力して行っていきたい。

中学校の報告

全体的に女子の結果は良い傾向にあるが、特に1年男子のAB判定が少なく、DE判定が多いことが今年の課題となっている。要因としては、体育の授業以外の運動時間が少ない事が挙げられる。生徒たちの能力を伸ばすために、体育の授業において①主運動に走力アップを取り入れる(50m走)②授業の準備運動で柔軟性を高める運動を取り入れる(長座体前屈)③授業の最初にランニングを取り入れ、一定のペースで走れる工夫(持久走)等を積極的に取り入れていきたい。

②定期健康診断の結果について(小中学校 養護教諭より)



③講演 「レジリエンス ~立ち直りにつながる心~」 早稲田大学 文学学術院 小塩真司 先生(おしお あつし) 専門:パーソナリティ心理学、発達心理学

「裸眼視力 A の児童生徒の割合を 過去と比較したグラフ」について

小中学校共に、新型コロナによる3ヶ月間休校後のR2の結果が大きく下がった。その後、回復と低下を繰り返しているが、以前と比較すると低い状態が続いている。R3年度からのタブレット活用やコロナ禍による外出機会の減少が影響しているのかどうか、今後も継続してみていきたい。

2 今後の課題

小中一貫教育が日高市で進む中で、北小中は他校よりも場所の制約もあり、進みが遅い状況は否めない。その中で今年度は、小中合同研修会でじっくりと話し合うことができ、来年度に向けて、小中一貫教育を進めようとする意識が高まったように感じた。来年度は、地域清掃や合唱など小中一貫教育を意識し、共に活動できる場面を増やしていきたい。また、「ふるさと科」については、夏の研修から情報提供など行い、少しずつ進めてはいるがなかなか進んでいない状況である。中学校の計画をたたき台にして、小中でどのように協力し、より良い授業が進められるか、考えていきたい。

※参考

○小中合同研修会 <テーマ>「非認知能力について」

昨年度は「解決したい課題」を共通認識として、それらを更に伸ばしたり、解決したりするための、 9年間を見通した「小中一貫教育カリキュラム」を作成した。そのカリキュラムを使いながら、高萩 北学区では、特に非認知能力に着目して研修会を行った。

「話し合いの内容」

- ・非認知能力の重要性を理解し、小中で共通した非認知能力の伸ばし方について考える。
- ・2学期以降の取り組みを考え、非認知能力の伸ばし方について協議する。

「協議から」

- ・スモールステップにして、その都度達成感を感じさせる。
- ・間接的にほめる。
- 全体でほめる。
- ・個々のつまずきや能力を把握し、その子に合ったスモールステップの課題を与え、達成感 を味和競るようにする。
- ・目当てを持たせ、確認し、伸びたところできるようになったところをほめる。
- ・できるようになったことなどを記録し、保護者にも伝えていく。
- ・外国語では、I like~をいえる児童を育てる。(自分の好きなことをいえる子は、自己受容があるため、自己効力感が高いと感じる。自分の好きなことを話せる児童をふやしていく。)
- ・よい行動を具体的にほめる。(ゴミを拾えて、すばらしいねなど)
- ・自己効力感の高い子はリーダーをまかせる。
- ・結果のみでなく、その家庭での個人の伸びや良さを認め、言語化する。
- ・児童同士の認め合いの場を作る。
- 他の人の成功体験を観察するのを教える。
- 励ます、ほめる
- ・生活のリズムを安定させる。
- ・できそうな課題を設定して、満足させないようにする。(課題の連続)

小中では、取り組んでいること自体をほめられるように教員の意識改革をしていくことを確認できた。 非認知能力の中でも「自己効力感」に視点を置き今後も取り組んでいくことを確認した。

昨年度完成したカリキュラムを使って授業を展開してきたが、育てたい力につながらない部分が出て きたので、その修正を加えながらさらに使いやすいカリキュラムにしていく。

小学校では「ふるさと科」につながる現在の学習内容がある。ふるさと科がどういうものかを職員が理解すること。中学校への総合と結びつけて「高萩北地区ふるさと科」になるカリキュラムの作成をしていく必要がある。高萩北地区には加藤牧場やのりたまふりかけの工場など、子供にとって馴染みのある企業がいくつかある。そういった企業へ見学をしているので、まさにふるさと科への移行がしやすいと考える。新しい教科・ふるさと科をさらに進めたい。

令和5年度 高萩北小中ふるさと科(生活科・総合的な学習の時間全体計画)日高市立高萩北小中学校

○新学習指導要領第4章目標 探求的な見方・考え方を働か せ、横断的・総合的な学習を行 うことを通して、よりよく課題 を解決し、自己の生き方を考 ていくための管質・能力を育成

- することを目指す ○日高市指導の含点
- O教育ビジョン
- 育らの力と人の眸で未来を つくる日高の教育」
- 〇日本市小中学校を申請領 目指そう! 「気は優しくて力持ち」
- 重点 1: 国際社会で活躍でき る教育の推進
- 重点2:情報活用能力の育成 量点3:コミュニティ・スクー ルを基盤とした小中 一貫教育の推進

生機指導 ○児童生後理解を基礎として 一人一人の児童生徒の扱力 を生かし、望ましい人格形成 を図る。

○感謝の心を育て、人の役に立 つ体験を覚視する。

人権教育

- ○他者の傷みを共有できる量かな人間性を養う。
- ○自己実現を図る緯度、能力を

学校環境づくり

- 〇特色ある教育活動や体験活 動を通してふるさとや地域 を愛し大切に思うの情を育
- あいさつ、環播指導の充実
- 花曜の整備
 安全点検、捕鯨などの安全確 保、通学器点接
- ・除草作業、地域連絡、ポラン
- BJの日の意識付け

特別活動との間違

	個人や社会の一貫として
7	・個人や社会の一貫として の在り方を進及する態度
	の育成
活	・特殊の生き方と連路の適 切な選択をする態度の育
-	切な選択をする健康の質

- ・主体的、自発的な集団治 動を通して、社会に貢献で する力の基礎を除い、生徒 檢 会活動の活性化を図る。
 - 学校行事や委員会活動を 通して責任機を書い充実 した学校生活を築くこと がてきるように 望ましい人間関係を形成
- 2 し、個性の仲長を関り、集 図の一貫として協力して よりよい関係づくりに参 7 B **楽しようとする自念的・実** 識的な態度を身につける。
- 雑行事への積極的な参加 を通して、集団の一員とし 学校 ての自覚を深め、よりよい 生所を築こうとする実践 的な態度を養う。

小中共通目標【目指す15歳像】 明日をひらき のびゆく輝多っ子

- 重点目標 ふるさとのよさや課題に気づく学習
- ○日高市や高鉄北地区の自然、文化、歴史、くらし、産業 に関わり、自ら課題を見つけ主体的に考える力を身につ
- 2 ふるきとの魅力を見つけ、学び、まとめ、伝える学習
- ○体験や調査活動を通して、課題を探求し、解決を目ざす 音管や能力を身につける。
- ○調べたことを主とめ、伝えることを通して、表現力や思 考力を身につける。
- 地域の方々など、様々な人に学ぶ学習
- ○様々な人の考え方、生き方に触れ、学ぶことで自己の生き方や将来について考え、未来への道筋を立てる。○様々な体験や学習を通して、積極的に社会に参加しよう。
- とする意欲を育てる。

各ステージの重点目標

第1月	学びの基礎期	第三期	学びの光楽期
455	とを知る。 とから学ぶ	ふるさん	を調べる。

- 1年生…学校大好き 自分でできるよ季節と遊ぼう
- 昔の遊び 生き物となかよし 単生…春だ2年生
- まちたんけん 春夏秋冬のくらし
- 大きくなあれる単生のまわり
- ・人々の仕事 ・働くってどんなこと
- マップを作ろう 野葉を育てよう
- 4年生…福祉・健康 ・防災・町づくり ・交流・仕事機べ

ふるさとを変える

- 6年生…環境・資源 日享由の基準を考える。
- 作物をつくろう 仕事調べ
- 6年生…国際交流 地域の伝統や文化を見 直そう
- ・おいしい研集を育てよう ・仕事調べ 7年生…みんながよりよ
- く暮らせるように (地域産業・税収) ・市役所との意見交流
- 職場体験ボランティア活動

第三期 学びの発展期

- ふるさとから発信する 8年生…みんながより よく高らせるように (乳幼児・福祉)
- ・ポランティア体験 (幼稚園・保育所)
- 上級学校訪問
- 9年生…「みんながよ りよく暮らせる日高 市にするために、日 高市民として提案しよう」(国際交流・
- 健康福祉・環境・町 づくり・地域経済)
- 市役所に機楽しよう 連絡しらべ

高萩北小中・ふるさと科の指導方針

- ① 児童生徒の興味関心に基づき、主体性を大切にした学習活動を行う。
- 2 言語能力、情報所用能力などすべての学習の基礎となる資質・能力を 育成する。
- 他者と協働して課題を解決する学習活動や、言語活動により分析し、
- まとめて会現する学習活動を行う。 自然体験や報場体験、ボランティア活動、生産活動、調査活動など体 (4) 動的な学習活動を行う。
- 地域の人的・物的管理を生かし、様々な人の協力を得ながら、全教師 が一体となって指導に当たる。 (3)

ICT 環境の整備

- ○がガスクール機構の推進により、 リモート学習への取組やインター ネットによる調べ学習に利用でき る環境を整える。
- ○調査内容のまとめやプレゼンテー ションなど情報処理環末等用いて 発費・発情できるようにする。

他の学校・機関との連携

〇他の義務教育学校や小中一賞教 育校と取録について交流し、活用 できる内容を取り入れたり、情報 を伝えたりする。

家庭・地域社会との連携

- ○学校運賃協議会、地域学校協 備本部などと連携し、地域人 対水準細的に展開すること などを通して、学校と家庭・ 地域が互いに理解し合い、協 備し合う搭動を推進する。
- ○旅域の人々との交流を深め たり、地域の行事へ参加した りすることにより、郷土の文 化の理解、発展に努めようと する意味を寄てる。

- 明るく元気な生物が多い。
- 学習面については、食ら学ぶ
- 姿勢の育成が必要 英語検定取得単上異など、全
- 体に重数が伸びてきている。 会教師・保護者の難い 食己実現にチャレンジし
- 分の考えや行動に責任を持て る児童生験を育成したい。 誰かのために役に立つという
- 気持ちを持ち、人間性の成長 を増いたい。

会 地域社会の実際

- 機比に鎌倉御道、東には日光 御道杉並木が走っていて、地 城一等は戦時中は陰軍航空隊 の飛行場だった。近年では高 最群間連の遺跡も発見されて
- 加藤牧場が隣接している。
- 公会堂があり、学区内に県立 日高高校が設置されている。

各教科との関連 新教会との開催 発達技術に応じた言語信 動を設定し、関べたこと 等を審切に表現し自分に 考えを分かりやすく る力を育成する。

- 社会生活や祝か 土・歴史を増解 中で、家庭、社 解していく 社会、国家 童
- 中で、家庭、社会、国家 への養情を育てる。 資料を確認に連択し、 機会な情報から得難に応 じたまとめをする。 日本の事業についての見 ロ市の参数についての見 通りともも、新選を立す で考える動力を育成し、 動き 動かに製明する力を育成し、 理成 動かる。
- する。 基礎的に自然の基準に関 わり、問題解決の能力を 育て、科学的な見方や考 え方を養い真様を大切に しようとする態度を育て

○ 音楽性の基礎を増うとと もに豊かな情報を乗う。 表現及び職員の由勤を通 して、豊かな情報を持う ともに美しさを感じる 心を養う。

心を養う。 身近な生活に課題を見上 した変数とする実践もの中 したようらの複数を実わった。 でうとする機関を育る。

- 図るからない。 図るからない。 の本のない。 の本のない。 の本のない。 のないのでは、 のないのでは、 ののでは、 の。 のでは、 ので
- る日本人を育成する。

高萩北小中ふるさと科内容系列一覧表

内容系統配列一覽表

(生活料・総合的な学習の時間)

高核北小中ふるさと料

にするために日高 区分目標 日本指作に見られる問題について課題を設定し、屋前・審判 て解決策を考え、様々な義伝から解決策を検討することを通 れて、地策をよりよくしようと生活金屋目する観音を奏り く暮らせる日高市 市民として提案し 職権・甲心 群価を整く選 Ø | 花紫蓋・家伽蓋のボルン 社『市役所の方に提案しよ **害人是** みんながより アィア体験をしよう』 (国際交消) 第9学年 解似 志望校見学、 福祥、 のく羅睺派 (h > よう』 (金サ・炭 **戦習の操作を活用した提案の作成** 3.1 日期 「みんながよりよく暮らせるよう (キャリア) 第8学年 無難 一級学校整人 (++1) Z 二4 乳幼児」 PC操作 6 く羅佐根 任意のボランティア活動 区分目標 発染や日本について置くら中で緊脳を設定し、これまでに学習した重要方法を活用しながら繋査に取り組み、地域のよさと問題を明らかにするとともに、問題を解決しようと参照する整度を育たる。 アガート作成ソレトの権 SNSの影響力と使用上 ソ国指制、基本模型 第7学年 「午餐園人 3 製用の PC編件 文化を市内の外国人 日本の伝練、日高の ш 高の文化を見直そ 車 に伝えよう (交流) の方からその仕事の額 プレゼンソフト 地域在住の様々な議職 口期 第6学年 日本の伝統、 を置く。 中学故障人 ・ 撹以蛭匣) w) PC## の操作 (# 4 D P) 쑱 3. 大量量分 社「わたしたちの生 (職績・養護工やル SNS、メール協権 (日高市を含む) 第5学年 自然を採ろい 派と食料生産』 方法と指導点 PC操作3 Ţ 区分目標 地域の人々や地域を関へ、教師や女法との関わりの中で原題を設定し、地域の人々や地域を関へ、教師や女法との関連に称り組み、地域のよさを明らいにし、地域を大切にしようとする動成を育てる。 「自分たちにで 社「県と私たちの 物類のよさを見つ Š 「摩害をもつ方と 板梯 トンシンの 使い方と留意点 「船舶田のおゆう 異様のある異義 ŧ (報域・単加へ 第4学年 交流しよう」 動力な響 一く医療生 きること のく事が 2 ₩ N 11.3 Ē 9 「はたらく人と わたしたちの着か 第34年 世界の国々の ことを知ろう 韓国の東田 (III 2 < 1) を見つける 「ローマ字入 PC報告 1 羅 3 # 事業を多くらし :生活料の学習と系統性 名学校の物域とのしながりのある学習問題 どまどきわくわ くまちたんけん ゆくなかしかい もっとなかよし つたわる広がる (1) 大きくな あれわたしの野 ・ 為基礎当化 ・ 毛媒やまれいに(資庫) 第2学年 まちたんけん まちのしせつ 9 € を洗い出し、年回活動に位置付ける。 9 8 8 ※集験との交換に関わる化学を ・昔の遊びを教えてもらおう ・ 若 中 第 ・ 抗 こっぱ ご 副製 (2) USAT 第1学年 夏だあそぼう された 学校大 たのしいあき 9 こゆをたのし いかばい おいてお 7887 物地 9 3 ε 物物 複解的・総合的な課題 祖譲や挙抜の幹倒に応じた 児童生徒の ## 羅 回搬 (現代的な臍膜層) 職味・医心に剃んへ驟騰

令和5年度高麗川地区小・中一貫教育取組報告

1 小中一貫教育推進の方針

- ・令和4年度までに、小中9年間のカリキュラム作成、朝読書、学力分析の共同実施、あいさつ運動の合言葉、タブレットの使い方リーフレットの作成などを実施し、成果を上げてきた。(図1,2)
- ・令和5・6年度は日高市の研究委嘱を受け、小中合同で学校研究を行う。
- ・ふるさと科を整備し、今年度は児童・生徒の交流を増やす。

R2~4 成果

R4までの成果

読書	小中で朝読書	
学力分析	学習方略・非認知能力に着目した授業	
あいさつ	あいさつ運動 「あいさつは心と心のハイタッチ」	
情報	タブレットの使い方リーフレット (小中共通の約束)	

図1 R4までの成果



図2 朝読書・読み聞かせ

2 目指す15歳像と研究テーマ

目指す15歳像:ふるさとを愛し、自ら進んで学ぶ、心豊かな高麗川っ子

1

研究テーマ :未来を創る高麗川っ子の育成

~協働的な学びで自分のよさを発見できる小中一貫教育~

令和元年に行った小中合同研修会では、地域の方や代表委員(児童会)、生徒会の児童生徒も参加し、 高麗川っ子のよさと課題を話し合った。その結果、出たキーワードが図3である。素直で仲が良く、お 手伝いもよくする勤勉さの一方で、積極性や自主性が課題として挙げられた。また、学力調査の質問紙 の結果から、自己効力感(自分への期待)や学習時間に課題が見られた。(図4)

そこで、目指す15歳像を小中の共通目標とし、研究テーマ「未来を創る高麗川っ子の育成~協働的な学びで自分のよさを発見できる小中一貫教育~」を設定した。(図5)





図3 令和元年高麗川地区小中合同研修会

図4 令和4年全国学力·学習状況調査質問紙

「未来を創る高麗川っ子の育成~協働的な学びで自分のよさを発見できる小中一貫教育~」

- ・未来を創る…主体的に社会に関わり、課題や変化に対応できる子 予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していこうとする子
- ・主体的に社会に関わる経験を9年間で充分に経験させたい
- ・主体的に関わる原動力として、自己効力感(自分への期待)を高めたい

※キーワード:well-being (幸せや生きがいを感じる)・自分の良さや可能性を認識する あらゆる他者を尊重

仮説と手立て

1 協働的な学びを工夫すれば、 自ら進んで学ぶことができるだろう。

> 目的(つくる、更新する、思考し続ける)、形態、自己選 択、課題づくり

2 非認知能力(自己効力感)に視点を当てた授業づくりを 行えば、自分のよさを発見できるだろう。

振り返り(自分のよさ)よさを伝え合う活動

図5 研究テーマと仮説

① 計画

3 小中合同研修会

	1程	場所	内容
第1回	6月19日 (月)	高麗川中	小中一貫教育、学校研究について
			部会ごとに顔合わせ
第2回	7月27日 (木)	高麗川中	非認知能力について (自己効力感を高める方法)
			部会ごとに作業分担、確認
第3回	1月25日 (木)	高麗川小	小中交流授業報告、1年間のまとめ
			部会ごとに振り返り

② 組織

研究推進委員会··· 高麗川中:校長、教頭、主幹(研究主任)、学力向上委員高麗川小:校長、教頭、主幹、研究主任、学力向上推進委員、部長

	授業研究部	調査部	小中地域連携部	学級経営部
取組例	・授業アイデア作成	児童アンケート	・パネル作成	・非認知能力を高め
		・教員アンケート	・研究だより	るアイデア
			・小中共通の取組	・学級会コーナー

図6 研究組織

③ 非認知能力研修

第2回小中合同研修会では、研究主任と学級経営部部長が中心となり、非認知能力研修を行った。①自己効力感を高めるために意識していること ②効果的だった取組について、座談会形式で話し合った。(図 7)その結果、「授業づくり」「褒め方」「クラスでの取組」の3つのアプローチに絞ることができた。(図 8)日々積み重ねてきた貴重な取組は、学級経営部でパネルにまとめることにした。



図7 非認知能力研修座談会





授業

・ノートや振り返りの紹介・活動の間を作らない(テンポの良い)授業づくりを意識する。
・全員で一人を観察して良いところを見つけて発表・活動を増やす、説明の時間を削る、間を与えないことで興味や意欲、主体性を引き出す。・スモールステップ、交流を深める・小学校はずっと同じ担任なので、終わらさくても次の時間内にできるが、中学校ではてきないのでその時間内にできるだけ終わるような指導を行っている。・課題ができたら褒める、形だけの褒めはバレで、場が持ちも大事。・少し努力すれば到達できる課題を認めませる(難易度は生きによってからな)

褒め方

- ・グループや部活の仲間他者から評価されることで伸びる
- ・教師が主になっていいところを褒めることで 広げていく
- できていること・がんばっている過程を褒
 - ・伸びを褒める
 - ・「素敵だね」言葉かけ
- ・・肯定的な声掛け ・生徒同士が互いに認め 合う(褒めあう)機会をつくる

その他

- 帰りの会の班会議で頑張った人の評価・認めてい単元リーダー 他の人のことを発表・紹介 自然と拍手が生まれる雰囲気 一人一役 仕事の分相方法 少人数グループのリーダー
- 地元の場が大、(オルな場所) を通して、自己大 定・道状をうながす。やる気のある。現実のある ことを児童に考えさせ、意欲的に活動させるが表 めることが増える。自己存在感が高め作るように している。・クラスルームのミートを活用して資 料を視覚的情報を共有しよりわかりやすくなるよ うにしている。
- ・神りの云くち日のいいことを飛収・神りのまで各班で目標に対しての振り返り・生徒の発考に対して有定的に受け止める・授業を始めるときに前時の確認、復習をする(3分ぐらい)→自住につながる・帰りの会でほかったところ複

図8 非認知能力研修座談会より 教員アンケート結果

4 ふるさと科

① 9年間のカリキュラム

小中の総合主任が連携して、9年間のカリキュラム作成と令和5年度に実施する小中交流授業を令和6年度以降も継続していくことを確認した。(図9)

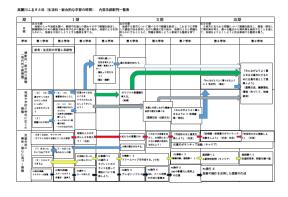




図9 高麗川ふるさと科(生活科・総合的な学習の時間)

内容系統配列一覧表

② おもちゃランド (小2、中2の交流)

日髙市立高麗川小学校(2年)「ふるさと科」年間指導計画

【基本的な考え方】

- ○異学年・身近な人々との関わりを通して、学びを深める。
- ○生活、国語、図工、道徳との関連を図る。

月	単元	学習過程	○活動名 ・活動内容	教育資源の活用	
10		オリエンテーション	○おもちゃ作りについて知る。・学習の流れ・身に付ける力		・自分の思いや考 えが明確になるよ うに、事柄の順序 に沿って文章を書 く。国語
11		課題設定情報の収集	○おもちゃを作る ・うまくいったとこころ、難しかったところ テーマ (仮)「1年生業しめるおもちゃを作ろう」 「もっと楽しめるおもちゃを作ろう」		
	おも	整理分析 まとめ・表現	○おもちゃの作り方を工夫しよう。・もっと動くには・もっと高くするには・もっと楽しむには	中学生	• 図工
	ちゃを作	課題設定	○もっと楽しめる工夫をしよう・得点版 ・コース ・かざり○中学生と遊ぼう。	- -	
	Fろう	情報の収集 整理分析	※家の人、1年生など実態に応じて設定する。 ※体育館	中学生 保護者 地域の 方	・道徳
12		まとめ・表現再構築振り返り	 ・活動したことやおもちゃ作りでわかったことを発表する。 ・活動したことの中から一番伝えたいことを選び出し、文章にまとめる。 ・学習全体を振り返る。 ・自分の成長を知る。 		・国語



パワーアップさせよう



おもちゃ作りのアドバイス



中学生とおもちゃで遊ぼう

中学2年生のアンケートより

交流授業に参加した中学2年生のアンケートでは、100%の生徒が「楽しかった」と回答した。 感想を分析すると、小学生の積極的な態度や主体性に驚きを感じた生徒や小学生の児童との関わり 自体の価値に触れている生徒、2回の交流の中でおもちゃの精度が上がっていることに気付き、自分 たちが教えたことの意義を見出している生徒が見れらた。

中学生の率直な感想を基に来年度もふるさと科でのねらいを明確にして、カリキュラムを充実させていく予定である。

<u> </u>	いく」とこの心。				
主	・小学生の皆さんが、明るい笑顔で元気に迎えてくれたので、始まる前から楽しむことができました。おもちゃの整備もよく				
体	できていたし、景品があるのもより楽しめた要素の一つだったと思います。すごく楽しかったです。				
性	・2年生が一生懸命楽しみながら接客をしていて自分もおもちゃランドを楽しむことができました。				
	・小学生がルール説明など教えてくれたり、遊び終わったあとも手を振っててくれたりした。				
2年	・小さい子ががんばって作ってくれて嬉しかったです				
生の	・2年生みんなが優しく一人一人が積極的に動いてルール説明や遊び方を優しく教えてくれた。				
よさ	・小学二年生に心を込めて作ってくれたおもちゃに中学二年生はとっても楽しく遊ぶことができました。今日という日のため				
	に長い時間をかけてくれてありがとうございました。また小学生と交流できる日を楽しみに待っています。				
	・ふるさと科を通して、小学生と中学生が関わることで生まれる他学年との交流の良さや、協力することの大切さに気づいた。				
	・このような小学校と中学校の関わりは色々な経験ができるからいいなと思いました。				
	・もともと小さい子は好きだったので、すごく楽しかったです。こういった機会があると日々の疲れを忘れることが出来たの				
関	で良かったです。				
わ	・最後に二年生の男の子がハイタッチしてきてくれてとても嬉しかったです。楽しい時間をありがとうございました。				
ŋ	・クオリティが高く説明もわかりやすくしてくれて、六歳差があったけれど楽しく交流することができました。またこの機会				
自	があったら行きたいです。				
体	・中学生になると、3学年しかないので小学生の人達と会う機会が少なくなるのでいい体験だなと思いました。				
	・小学生との関わりを通して優しく接することを大切にできていいと思います				
	・中学に入ってから小学生と絡むことはあまりなかったけど、こういう機会があって、とても楽しかったです。自分がおもち				
	ゃを作ったときのことを思い出して、とても懐かしく感じました。またこのような機会があったら、小学校に行きたいです。				
	・小学生と関わることはとても良い経験で小学生から教わったことなどもあるのでそこからの経験を生かして次もあったらい				
	いと思いました。				
充	・教えたときからすごい進化してたので感動した。				
実	・お手伝いをしたおもちゃがあんなに楽しめるものになったことがすごいと思った。				
感	・今回小学二年生のおもちゃランドに行って、自分がアドバイスをあげた二年生のところの完成を見て、遊んで楽しかったの				
	でまたこういう機会があったら参加したいとおもいます。				
やり	・前に来たときよりもおもちゃのクオリティーが高くなっててとても楽しかった。				
がい	・二年生が頑張って作ったもので遊んで懐かしさを感じました。景品もとても上手にできてて良かったなと思いました。				
	・久しぶりの学校でテンションが上がりおもちゃランドも色々なおもちゃがあり楽しかった。				
	・なんだか経験したことのないことだったから初めて経験してみて楽しかった。				
	・同じ2年生といろいろな種類のおもちゃで遊べて楽しかった。				
楽しさ	・色んなおもちゃランドの種類があってとても楽しかった。2年生全員が協力して私達にルール説明などをしてくれてとても				
	楽しかった。また行きたいです。				
	・とても楽しかったです。説明などもあり、すごかったです。また、行きたいです。				
	・クオリティーの高いおもちゃと2年生の雰囲気がよくてすごく楽しかったです。				
	・小学生たちの努力が滲み出ていて、とても良かったです。				
	・しっかり店員さんになりきっていて可愛かったです!すごく楽しかったです。素敵な思い出になりました。				
I	・小学生の人たちが一生懸命作ってくれたおもちゃランドが楽しかったです。また行きたいです。				

図10 おもちゃランド活動後の中学2年生のアンケートより

③ オリジナル高麗鍋をつくろう(小5、中2、地域の方の交流)

日高市立高麗川小学校(5年)「かえでの時間」年間指導計画

【基本的な考え方】

- ○地域のよさや特色をより実感してとらえることができる地域素材を取り入れる。
- ○地域の人々との関わりを通して、学びを深める。
- ○学習を通して、互いを認め合う人間関係を築く。
- ○最高学年になることを意識しながら学習を進め、自覚を高める。

月	単元	学習過程	○活動名・活動内容	教育資源の活用	各教科等との関連
4	1,75	オリエンテーシ	- 111111 / 1111111 1111	21122NA - 104/14	国A (1) エ
		ЭŻ	学習の流れ		・話し手の意図をと
5			・身に付ける力		らえながら聞き、自
			・昨年の5年生が学習してきたこと		分の意見と比べるな
			・今年学習するテーマ		どして考えをまとめ
		課題設定	○自分の食生活を見直す。		る。
		情報の収集	・3日間の食事調査をする。	栄養教諭の話	国A (2) イ
6			・栄養についての話を聞く。	養護教諭の話	・調べたことやまと
			・健康な体についての話を聞く。		めたことについて、
7			・日高市の特産物を知る。(栄養士に話を聞く。)		討論などをすること
			・テーマとゴールを決める ニュース (E) [ト/ トン トン トがまわれ に (#2*ト+) たわい (A * 7 T * 1)		道4 (3) ・自分の役割を自覚
			テ ─ マ (仮)「よくかんで健康な体!」「朝ごはんをおいしく食べる工夫」 ゴ ─ ノレ (仮)「かむことは大切新聞をつくる。」「体が目覚める朝ごはん新聞をつくる。」		・日分の役割を日見 し、協力して主体的
		整理分析	○自分の食生活についてまとめる。	-	に責任を果たす。
		まとめ・表現	- 自分の食生活についてよどめる。 - ・自分の食生活での改善点などを意識しながらまと		に負圧で水にす。
9		3CW 3CM	める。	地域の方々	
		課題設定	・大根の種まきをする。	ふれあい推進員	国A (1) エオ
		WINCEN/C	・高麗鍋について知る。(栄養士に話を聞く)		・話し手の意図をと
	食		グループごとに高麗鍋を調理をする。		らえながら聞き、自
10			・テーマとゴールを決める。		分の意見と比べるな
	に		テーマ(仮)「地域の食材を使って健康な食生活をおくろう!」		どして考えをまとめ
	_		ゴーノレ(仮)「『高麗川、みんな元気』ブックを作る。」		る。
	つ	情報の収集	・チームで活動する。		・互いの立場や意図
11	い	整理分析	例:オリジナル高麗鍋を考える。	中学生	をはっきりさせなが
111	\ \ \		(小さい子でもおいしく食べられる高麗鍋など)	十子生	ら、計画的に話し合
	て		高麗鍋の歴史を調べる。		う。 国A (2) ア
			高麗鍋の栄養価について調べる 高麗鍋のおいしい作り方など		国A (2) / ・資料を提示しなが
12	考	まとめ・	・収集した資料の中から、効果的な資料を選ぶ。		ら説明や報告をした
		表現	・状葉した真材の中がら、効木的な真材を選ぶ。 ・活動したことや調べてわかったことを発表する。	地域の方々	り、それらを聞いて
	え	45元		ふれあい推進員	助言や提案をしたり
		再構築	- 活動したことの中から一番伝えたいことを選び出		する。
	ょ	1411420	し、文章にまとめる。		国B (1)エ
					・引用したり、図表
	う	振り返り	・学習全体を振り返る。		やグラフを用いたり
			・自分の成長を知る。		して、自分の考えが
	!		・学年内で授業し、1・2・3位を表彰。		伝わるように書く。







レシピへのアドバイス



高麗鍋コンテストポスター

5 小中地域あいさつ運動

通学路であるポッポ道で毎月1回小中合同のあいさつ運動を行った。 元気な声であいさつする姿が、通学路いっぱいに広がった。

【参加者】

高麗川小・・・代表委員、生活委員

高麗川中・・・生徒会、ボランティア

地域 ・・・ふれあい推進員、原宿地区見守りボランティア



図11 小中あいさつ運動

6 歌の交流授業(小5と中3) 10月25日(水)高麗川中体育館

小中の音楽科主任が連携し、なかよし音楽会前の5年生と校内音楽会前の中学3年生とで歌の 交流会を行った。(図 11,12) 参加した中学生から、「楽しかった」「またやりたい」との声が寄せ られた。また、中学校の教員からも来年度以降も継続したいとの意見が挙がった。





図11 中学生の歌を聴く

- Ⅰ はじめの言葉(小学生代表)
- 2 高麗川中学校長挨拶
- 3 めあての確認 「歌声を聴き合おう」
- 4 小学校の歌の発表
 - Ⅰ・4組 WISH
 - 2・3組 翼を抱いて
- 5 休憩(10分)
- 6 中学校歌の発表(順不動)

全体合唱 解説付き 「大地讃頌」

- 1組 証
- 2組 友
- 3組 虹
- 4組 手紙
- 7 合同合唱 「もみじ」
 - めあてを確認してから合唱
- 8 高麗川小学校長感想
- 9 終わりの言葉(中学生代表)

図12 歌の交流会プログラム

7 各研究部

(1)授業研究部

小学校での授業研究会の際に、中学校の先生が授業を参観した。授業づくりでの交流は、今後も継続していきたい取組である。

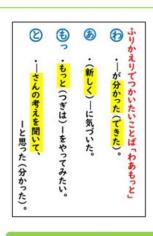
授業研究部

取組について

- ・協働的な学びで多様な考えに触れ、自分の考えと比べ たり、考えを深めたりできるようにした。
- ・自分への自信や自己肯定力を高める授業を学年で行っ た。

振り返りのポイント 「わあもっと」

振り返りを書く時の視点を 5つのキーワード「わあ もっと」に絞り、自分で選 んで書けるように教室に掲 示した。



非認知能力の視点

協働的な学びの視点

【チーム主体とした授業展開



体育の「サッカー」の学習では、準備運動からいたの流れをチームでの流れをチームでのがいれた。自分たちのチームに合った作戦でである。 習メニューをチームで考え、協力し合う姿が見られた。

【発問の工夫】



国語の「ごんぎつね」の学習では、「気持ちを書きましょう」だけではなかなか書けなかった児童が「日記を書こう」と発問を変えるとどんどん書けるようなった。

【自己決定の場



算数の「わり算」の学習のでは、自力解決後れた。 自力解決後れた。 となど、これでは、当などのでは、 を選択するとはでするとはでするというでは、 となど、 はなが、半リットも自たのできるようにした。 とないできるようにした。

【タブレットの活用



道徳の学習では、発表が苦 手な児童も、自分の考えを 表現できるように、ターを レットの心情メータが 用した。全ての児童が分の 考えを表現することができ た。

振り返り

- ・協働的な学びに視点を当てて授業を展開してきたことで、思考を深めたり、新たな気づきを見つけたりと、学習を活発化させることができた。
- ・自己決定をする場や自分の考えを表現できる活動、それらを認めてもら える場を意図的に授業の中に入れることができた。

(2)調査部

※9月と2月に実施し、変容を考察する予定である。

(3) 小中地域連携部

学校研究だよりを年6回発行し、小中の取組を保護者や地域に向けて発信した。また、年3回の小中合同研修会を通して、小中で取り組めることのアイデアを出し合った。

小中地域連携部

取組について

高麗川中学校と連携して、ふるさと科や生活科、音楽 科の授業で交流を図りました。

研究だより



小中一貫教育の研究だより を発信してきました。

ふるさと科カリキュラム



小中9年間のふるさと科のカ リキュラムを作成しました。

小中連携













2年生のおもちゃづくり あいさつ運動 5年生の高麗鍋づくり なかよし音楽会

振り返り

小中連携のおかげで学習の効果が高められた。今後は時期の見直しと交流機会を増やしていきたい。

学級経営部 子供たちが自分に自信をもてるようにしよう

取組について

- ・小中合同研修会にて、「自己効力感を高める取り組み」のグ ループワークを実施する。
- ・自己効力感を高める取り組みを整理し、まとめる。
- ・先生方にアンケートを実施し、「ほめ方カード」を作成する。

小中合同研修会



小中合同研修会にて、小中学校の先生が同じグループになり、自己効力感を高める取り組みについてグループワークを行った。

「ほめ言葉カード」の作成



自己効力感を高める取り組み









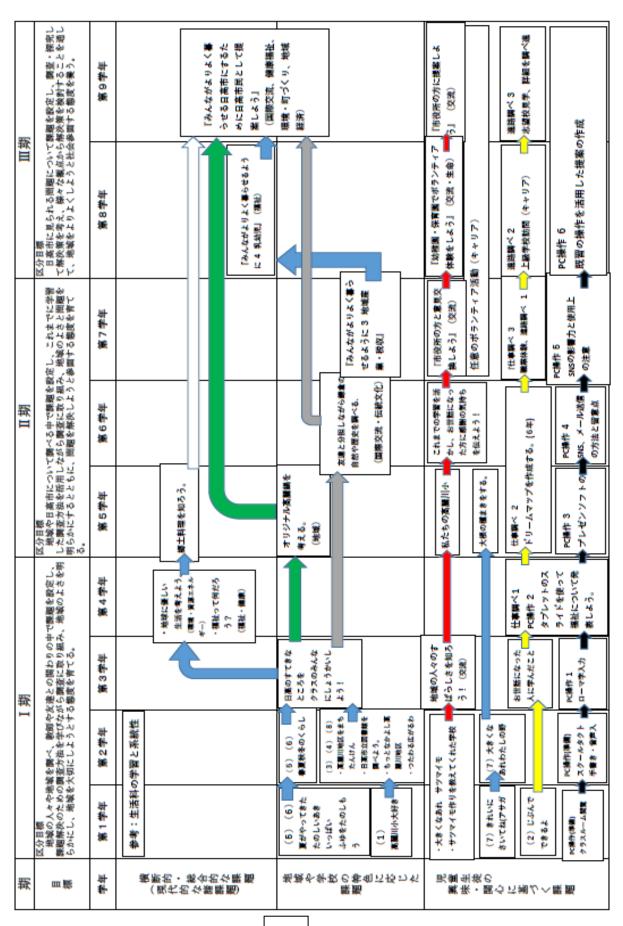


今までに、授業で取り組んできた内容取や、学校生活内での取整理し、どの場面でとに子供たちの自己対できる。 は、ないるのかを整理し、ないるのかを整理したができるのかできます。

振り返り

- ○「自己効力感を高める取り組み」のグループワークを小中の先生で実施 し、学級経営部で場面や効果を分けたことで、日々の実践や生活の中で 自己効力感を高める取り組みを行っていることを再認識し、整理するこ とができた。
- ○「ほめ方カード」を作成したので、次年度以降の活用を促していく。

高麗川ふるさと科(生活科・総合的な学習の時間) 内容系統配列一覧表



(6) 令和5年度小中一貫教育推進委員会の取組

武蔵台小中学校が県内2番目の義務教育学校としてスタートし、県内外から注目が集まり他 市の教委や議会関係者からの訪問も多く受け入れた。令和7年度までに各地区において特長を 生かした小中一貫教育を進めていく為に小中一貫教育推進委員会(主幹教諭・教務主任)で以 下のことについて協議している。

【5月9日(火)第1回小中一貫教育推進委員会】 15:00~ 生涯学習センター研修室

- 1 令和4年度の取組の総括
 - ・小中それぞれの意識(共通理解)が高まっている。
 - ・少子高齢化が教育に及ぼす影響は必ず大きくなっていく。現状のまま進むことは想像でき ない。教員の意識改革が一番必要である。学校、家庭、地域が三位一体となり、教育の質を 上げていくことが本委員会の目標である。学校運営協議会も期待して協力している。
- ・教員の意識を変えるにはふるさと科が要となる。
- 義務教育学校の教員は校舎移転等学校が変わる現実を直視しているので取組が具体化しやす いが、小中一貫校はその意識がまだ薄いように感じる。何を一貫していくかの議論が必要。 例えば体育着を統一することで小中一貫校としての意識を高めることも出来るのではない か。教育課程の工夫とともに、小中の「つながり」を高めていく工夫も必要である。
- 2 令和2年度~4年度の成果と課題
 - ア 小中学校の共通課題から共通目標を研究する

推進委員のリーダーシップのもと、各地区の小中学校教員が、それぞれの実態(課題等)か ら、小中学校の共通課題を考えることができた。また、各地区の学校運営協議会においても 協議し、地域の特色が表れた目指す児童生徒像が設定できた。

小中学校教員が「目指す15歳像」を共有して1つの目標に向かい、児童生徒に系統的な教 育を提供するために、教職員の共通理解と協働体制の構築が重要である。

イ 小中一貫教育に係る教育課程を研究する

学力向上は、本市の喫緊の課題である。9年間を見通した学習指導により学力の向上を図 れるものと考える。各地区においては、学力調査等から、教科・領域等の児童生徒の課題を 共有することができた。また、9年間で育みたい力を小中学校で共通理解することができ た。発達段階に応じ、重点化を図る指導内容やつまずきやすい項目を整理できた地区もあ ったが、年間指導計画に入れ込むまでに至らなかった地区もあった。

小中の段差を低くする取組と合わせて、各地区の特色を生かしたカリキュラムを確実に実 施していくことが大きな課題である。また、小中学校教員による乗り入れ授業や効果的な 交流活動等、工夫を重ねていく必要がある。

ウ 小中一貫教育に係る働き方改革を研究する

「学校における働き方改革」の目的は、教職員が、心身ともに健康で充実した日々を送る ことにより、学校における教育活動の質を高め、学校が子供たちにとってより楽しく魅力あ る場とすることである。推進委員会では、各学校で行われている働き方改革の取組を報告し 合った。各学校では、ICTを活用したり、意識改革を図ったり、工夫した取組が共有できた。 教科担任制や4・3・2制によるグループ体制の強化により小中一貫教育を推進することで、 教職員の負担が軽減されるという実感のある取組を提案することが課題である。

- 3 「今年度の重点課題」について
- ① 義務教育学校、小中一貫教育校の教育課程編成
 - ・日課表の工夫
 - ・週行事(朝学習、全校朝会、児童生徒集会、委員会・クラブ活動、縦割り活動等)
 - ・ 小中合同行事の設定
 - ・教科担任制の実施、乗り入れ授業の工夫等
- ② 新しい教科「ふるさと学習」の創造

地区名	各地区の取組状況・活動報告
	ふるさと学習について、現在取り組んでいる生活科、総合的な学習の時間を見直し、
高麗地区	「高麗辞典」を作製していく過程をふるさと学習に位置付ける。
	小中合同の清掃活動に取り組む。(河川清掃等)
	義務教育学校開設に向けて、引越計画を綿密に組み、備品整理や廃棄を進めていく。
	小中合同挨拶運動や運動部中学生部員による小学生への指導、合同音楽会など、行事等
高麗川地区	における共同実施の可能性を探る。
	小学生に中3生のお話を聞く会などを開催する。
	中学校教員の乗り入れ授業に積極的に取り組む。
高萩地区	中学教員の小学校乗り入れ授業をさらに充実させる。
	萩中フェスタに小学生の参加を検討していく。
	体育時の運動場や水泳指導におけるプール使用を工夫していく。
	日課表については、武蔵台小中を参考に今後検討していく
	様々な行事を、前期・後期課程でどのように組ませていくか、起こりうる課題を乗り越
	えるための話し合いを密にしていく。
高根・武蔵	希望した教職員の配置が整わず、各教員の担当授業を組み替えたりしなければならない
台地区	事態が起きている。昨今の教員不足が影響して思ったような教員配置ができない場合も
	あるので、実態に応じた工夫が必要となる。
	特別教室の必要数をしっかり割り出すこと。2時間続きで行う教科については前後期の
	またがる分支障が出る場合がある。
	教職員の中に、校舎移転に係る引っ越し作業に負担を感じている者もいる。
	小学生に中学生への憧れを持ってもらう取組を行ってく。(陸上部員による小学生への
	指導など)
高萩北地区	小中合同音楽祭などに取り組んでいく。
	人権に係る小中学生の声を、児童会・生徒会を通して発信していく。
	ふるさと科についても今後取り組んでいく。

【8月30日(水)第2回小中一貫教育推進委員会】 15:00~ 高麗小

- ○「令和の日本型教育の姿について・小中一貫教育の制度化の特例について」情報提供
- ○各地区取組状況

地区名	各地区の取組状況・活動報告
高麗地区	令和4年度に実施した内容を含め、令和7年度開校に向けたスケージュールの見える化
高麗川地区	ふるさと科の内容系統配列一覧表の整理・小中合同研修会の内容と各部会の報告
高萩地区	ふるさと科の内容系統配列一覧表の整理・小中連絡協議会の資料提供
高根地区	小中合同研修会・教科、領域部会の実施・日課表の検討・校舎引っ越し作業計画
高萩北地区	小中合同研修会・年間指導計画の工夫
武蔵台地区	私服登校について・前期課程修了式の計画・後期ふるさと科の内容と系統配列一覧表を 整理・行事について(運動会・体育祭と校内音楽会の職員会議資料の提供)・小中合同研 修会

【10月13日(木)第3回小中一貫教育推進委員会】 15:00~ 生涯学習センター研修室

- ○「おがわ学の構築・実践について」情報提供
- ・地域の自然、産業、歴史等を小・中・高で一貫した内容系統のもと、各教科・領域を横断的 に学習し、目指す児童生徒の姿を追求する学習。日高市として取り組む「ふるさと学習」の 参考にすること。
- ○各地区「ふるさと科」の取組について

地区名	各地区の取組状況・活動報告
高麗地区	ふるさと科の内容系統配列一覧表の整理。
	3年=高麗の良さを知る4年=高麗の自然環境の良さを調べる・5年=高麗の歴史、文
	化、伝統のすばらしさを調べる 6年=高麗の未来を考える。中学=高麗辞典の活用。
	地域力の活用=芋煮会など地域と連携する行事を地域学校協働活動に位置付ける。
	公共施設や農地、自然等様々な環境に恵まれた題材についての取組を進める。
高麗川地区	タブレットを用いた表現技術の向上に取り組む。
	小中連携によるふるさと科「おもちゃ作り」「高麗鍋」の取組を進める。
	学校運営協議会や地域学校協働本部とのかかわりを明確にしていく。
	施設隣接型のよさを生かし公民館、日高特別支援学校、サイボクハムなど地域の環境や
高萩地区	教育資源を学習に取り組む。
	中学は日高市から外部へ。中学3年生の「日高市への提言」に結び付ける
	キャリア教育に地域学校協働本部の協力を依頼する。
高根地区	他の教科・行事に絡めた取組を進めていく。
	オンラインで市民や他の学校とつながり、積極的に地域の特色を発信していく。
	児童生徒に地域のよさに気付かせ、誇りに思う「ふるさと愛」を育む活動に取り組む
高萩北地区	ふるさと科の内容系統配列一覧表の整理。
	幼・保・小・中・高や地域の教育的資源と関わり、地域を知る活動につなげていく。
	今後の地域開発による地域環境の変化等に目を向けた取組も視野に入れていく。
	地域力、BJや青少年健全育成会・公民館活動等地域学校協働活動を生かす。
武蔵台地区	小中一貫教育に対応する計画を作成中。後期課程のふるさと学習を再構築する。
	7年生=過去 8年生=現在 9年生=未来のテーマで取り組んでいく。
	乗り入れ授業の工夫、コマ数についての運用・理解を小中で図る。

○協議のまとめ

- ・各地区の内容系列一覧表が提示されたことで、日高市のふるさと学習が軌道に乗り始めた。 さらに内容について深く検討し、「全体計画」や「各学年年間指導計画」の作成に着手して いく。武蔵台、高麗川、高根の今までの年間指導計画を提供したが、参考にして地域の特色 を生かしたふるさと科の構築を目指してほしい。
- ・生活科と総合的な学習の時間を融合して「ふるさと科」としている今の段階は、新教科としての位置付けになっていない。今後は新教科として設置を進めていくことを検討する。各学年の必要時数を確定する上でも学習内容の適正化を図りたい。
- ・中学校の内容の見直しを図りキャリア教育等を踏まえ、生徒の期待に応える学習にしていき たい。
- ・日高市小中一貫教育構想「学びの自立を目指して」に立ち返り、4・3・2制の採用や教科 担任制の導入、小中相互乗り入れ授業の取組、小中の交流活動の積極的な導入を図り、日高 市ならではの小中一貫教育を進めていく。小中の話し合いが大切。

○委員長から

ふるさと科が進みだし、委員の皆さんに感謝する。各地区の取組を参考にして、できることに対し前向きな気持ちで取り組んでほしい。次回もよろしくお願いする。

【12月7日(木)第4回小中一貫教育推進委員会】 15:00~ 生涯学習センター研修室

- ○おがわ学研究発表会参加報告(委員長)
- ・12月1日に ZOOM で行われた西部地区地域学校協働活動実践発表会では、鳩山町の取組と各市町村におけるコミュニティ・スクールの進捗状況等話し合いが行われたが、日高市がかなり進んでいることが分かった。本市は・コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育に取り組んでいるので、児童生徒のために小中一貫教育のさらなる充実を各地区とも進めていただきたい。
- ・先日、小川町の「おがわ学の構築・実践」研究発表会があり参加した。(別紙参照)系統的な 学びに係る骨子の作成や、地域の特長を生かした教科間の横断的な取組など、興味深い内容 が含まれていた。本市でも参考にできるところがあると感じた。
- ○各地区の取組について

地区名	各地区の取組状況・活動報告
高麗地区	小中合同行事として巾着田の清掃活動、挨拶運動の励行、地域の方とのお芋パーティ
	PTA 小中合同会議の実施、立志式等を行った。
	義務教育学校開設に向けて小中合同の部会、研修会を行った。今後定期的に開催する
	よう計画を練っている。
	「かえでの時間」で小中の交流を2度実施した。中学2年生が小学校に出向き、おも
高麗川地区	ちゃ作り(小2)と高麗鍋(小5)づくりを協働して一緒に楽しむ活動を行った
	小中地域児童生徒会挨拶運動に取り組んだ。
	キャリア教育等教育課程を進める上で学校運営協議会とのかかわりを深めていく。

	6年生と中学生の部活動交流を行った。委員会活動を今後は小中一緒に行うように計
高萩地区	画を立てていく。
	地域学校協働活動の一環として中学生は地域清掃を行った。職場体験事業も今後は地
	域学校協働本部を活用していく。乗り入れ授業は国語、家庭科で行っている。
	小中合同部会で指導計画や行事予定の見直し等を行い話し合いを深めている。
高根地区	日課表は大方決定した。乗り入れ授業の教科は、新しい人員配置が決定次第考える。
	部活動に小中教員一緒に取り組んでいくか、ただ今検討中である
	ふるさと科の系統表を作成した。3学期に各学年のテーマを決めていく。
高萩北地区	小中で年間行事予定の見直しを行なっている。学校間が遠いのがネックであり、授業
	時数の兼ね合いでどのように乗り入れ授業や合同行事に取り組んでいくかが課題であ
	る。
	人権集会を小学校でも行いたい。6年生の中学校体験を行っていく。
	行事では合同音楽会、生徒会役員選挙で5・6年生に模擬投票を実施した。
武蔵台地区	全校遠足では6年生に役割を与え、中学生がサポートに回るようにしてリーダーシッ
	プを発揮させるよう取り組んだ。カジュアルマンスを実施し児童生徒自ら考える機会
	を設けた。後期課程の授業時数確保のために前期課程も時間割を変更した。
	給食準備を前後期一緒に取り組むように今後考えていく。

- ○令和6年度「日高市コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」作成について
- ・ふるさと科の系統表(全地区必ず)と年間指導計画(できていれば)、教育課程上の小中一 貫教育に係る内容(日課表・時程・行事の工夫・教科担任制・乗り入れ授業等)について、 前文(取組のインデックスを含んだ簡単な紹介文)と資料を掲載する。

【1月24日(水)第5回 小中一貫教育推進委員会】 15:00~ 生涯学習センター研修室

- ○令和6年度「日高市コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」作成について
 - ①掲載内容の確認(指導幹)*目次に沿って説明・巻頭に委員長の言葉が入る。
 - ②各地区「実態調査・共通目標」の確認・・・掲載内容については校長の確認を得ること。
 - ③ふるさと科・小中一貫教育に係る教育課程の工夫の原稿確認【〇〇地区の取組】 ※ふるさと科内容系統配列一覧表は全地区が載せる。

地区名	各地区の掲載内容
高麗地区	義務教育学校開校に向けての計画・話し合い・合同研修会の内容、開校までのスケジュ
	ール、開校準備部会の内容について、ふるさと科の内容について
高麗川地区	学校研究の内容、研究便り、小中合同研修会の内容、ふるさと科の実践授 業の様子
	(歌の交流会、おもちゃランド等) について
	小中一貫教育の取組内容について(プールの共用、グランドの共用、中学 教員の乗り
高萩地区	入れ授業、部活動交流会、合唱交流会、陸上小中合同練習等)小中教員の交流により互
	いに刺激があり新しい発見があったこと
高根地区	小中合同準備会の様子(月1回)、日課表案、年間行事予定案、内容系列一覧表につい
	て、ふるさと科の内容について、引っ越し準備について、閉・開校式について
高萩北地区	小中合同研修会の内容、ふるさと科の計画(各学年の例)・小中の交流に生かす工夫につ
	いて
武蔵台地区	後期課程「ふるさと科」内容について、学校評価・小中一貫教育にかかる内容について

- ④ 確認事項
- 〇【〇〇地区の取組】は10ページを目途にまとめていく。($5 \sim 15$ ページの範囲で。ふる さと科内容系統配列一覧表(A4 判に縮小)を含めて。)
- ○センターサーバー>00 共有>01 教育センター>令和5年度>小中一貫教育>各地区フォルダーに「○○地区実態調査・共通目標」「○○地区の取組」を格納する。
- ○パンフレットは、地区フォルダーにあるものを赤字で直し、「済」を入れてそのまま保存すること。
- ○締め切りは2月末日。指導幹が編集したものを「グーグルドライブ>共有ドライブ>小中ー 貫教育推進委員会>00全体資料(市教委用)に入れるので、それを持ち寄ること。

【3月5日(火)第6回 小中一貫教育推進委員会】 15:00~ 生涯学習センター研修室

- ○令和6年度「日高市コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」最終確認
- ・直しや写真挿入する場合は「センターサーバー>00 共有>01 教育センター>令和5年度> 05 小中一貫教育> 第6回 > ~直し3月10日まで」にアクセスする。
- ○令和5年度の成果と次年度の課題について (グループ熟議)
- 義務教育学校 -
- ・小中教員の乗り入れ授業により、双方の横断的 な理解が深まっている。
- ・小中教員の交流が深まりつつある。話し合いを する機会が必然的に増えた。
- ・引越し等地域学校協働活動によるボランティア の方々にお世話になりありがたかった。
- ・小中の考え方をすり合わせ、調整するための時 間が足りない。開校に係る専門の校務分掌を備えるべき。
- 小中一貫教育校 -
- ・小中分離型は距離の違いがあり、児童生徒交流の 仕方も様々であるが、以前よりも授業や行事での 交流を深めることができた。教師間の交流をもっ と増やしたい。
- ・小中の発達段階の違いが理解できた。
- ・時間が無く日々の業務に追われ、まだ実感が伴わない教員が多い。教員からの提案や意見が少ない。 教員の意識の向上が喫緊の課題である。子供たち の意見もよく吸い上げて取り入れたい。



○総括(委員長)

・1年間、真摯に取り組み各地区で成果があった。教育課程の見直しや様々な工夫が今後求められていく。毎年教育課程を見直し、少しでも変えていくことが大切。変化は進歩であることを認識して取り組んでいただきたい。働き方改革を踏まえて大胆に行うこと。そのアイデアを出し、実行できるのは教務主任である。





【参考1】

第1回総合教育会議(令和5年12月21日(木)開催)議事

「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の進捗状況

~武蔵台小中学校における成果と課題」(秋馬校長から)

1 9年間を一貫した教育活動について

(1) 学力向上について

ア成果

・後期課程の教員が専門教科を教えているので、授業への集中度や理解度は高まっていると捉えている。また、思考を深める場面は増している。

※小4社会 外国語 小5 社会 英語 小6 社会 英語 音楽 数学(少人数)

・多くの教員が子供たちへ関わることができている。前期課程への授業へ後期課程の教員が関 わることができる。

※6年生は後期の教員が授業に入るようにしている。

- 9年間を見通してカリキュラムを組んでいるので、見通しをもって教えることができる。前期 と後期の教員が教科部会を通じて共通理解が図れる。
- ・同じ環境なので、緊張感がなくスムーズに進級できる。

イ 課題

- ・学習する環境が変わらないので、新たな気持ちで再スタートする気持ちになれないのではないかと思われる。
- ・緊張感がなく、生活がルーズになるのではないかと心配している。
- (2) 異学年交流について

ア成果

・下級生の前でいい加減な態度は取れないので、上級生は模範となっている。下級生は上級生の 真似、見習っている。

※委員会活動、縦割り清掃、大運動会の競技など・・・、今まで以上によく活動をしている。

・上級生は優しい眼差しが見られる。

イ 課題

- ・子供たちは、異学年交流を望んでいる(アンケートから)ことがわかったので、教育課程の中 に異学年交流活動を組み入れていくこと。
- (3) その他、特色ある教育活動について

ア 成果

前期課程4年から6年 一部教科担任制

- ・専門的な知識・技能、思考を深める授業が展開できている。
- ・子供たちの授業への集中度が高まっている。
- ・授業の規律面が向上している。
- ・前期の児童を教えることで、後期の教員の授業が丁寧になった。

イ 課題

・丁寧さにややかけるかもしれないが、後期の先生方は丁寧に教えようとしている。

2 PTA活動、学校運営協議会・地域等との連携について

(1) PTA活動

ア成果

・「できることをできる人がやっていこう」という合言葉で、仕事内容や活動内容を見直し、コンパクトになった。

イ 課題

- ・どこでもそうでしょうが、やはり PTA の役員のなり手がいない状況である。
- (2) 学校運営協議会・地域等との連携

ア成果

- ・学校経営方針を理解し、忌憚のないご意見をいただける。
- ・委員の方々、保護者・地域の方々・・、県内2番目の義務教育学校であるということに誇りを 感じているのではないかと認識している。前向きであり協力的である。ありがたいです。
- ・地域学校協働活動について回覧を回したところ、30名の方が登録者となった。
- ・全校遠足は20名の方が保護者ボランティアとなった。

イ 課題

- ・学校運営協議委員の任期は2年である。同じメンバーにならないように、うまく入れ替える。 人事異動が最大の研修?
- ・軋轢が生まれないように配慮している。

3 校内人事・組織体制について

ア 成果

- ・校務分掌が前期・後期の教員 2 人体制なので、気持ちに余裕ができる。また、学校行事もそれ ぞれの立場で上手にすり合わせができる。
- ・前期の授業を持つことができるので、多くの教員が一人の子どもにかかわることができる。
- ・小学校のときに教えた教員が、後期の子供たちの成長を間近でみることができる。9年生の卒業式が楽しみである。

イ 課題

- ・前期の教員で中学校の免許をもっている者を後期課程の授業に組み入れること。
- ・来年度の人事異動で本校に入ってくる教員が、どれだけ本校の教育方針を理解してくるか丁 寧に対応していきたい。

【参考2】 山梨県甲州市議会行政視察質問事項

令和5年8月9日(水)日高市役所503会議室

埼玉県日高市「小・中一貫教育 義務教育学校について」

- 1 学校再編を検討され始めたのは、いつごろからでしょうか。またきっかけは何ですか。
 - A: 平成29年に教育長からコミュニティ・スクールと小中一貫教育の導入について検討するよう指示があり、日高市小中学校未来構想として、令和2年度から「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を導入することを校長会を通して学校への周知(平成30年度)。令和元年度に学校運営協議会モデル地区を設定。令和2年度から日高市全6地区に学校運営協議会を設置。併せて日高市に義務教育学校と小中一貫教育校を導入するための市民説明会を開催し、周知を図りました。きっかけは進む少子高齢化への対応と、日高市の抱える教育課題の解決のためです。(学力向上、児童・生徒数の大幅な減少、小中ギャップの解消等)
- 2 小中一貫の義務教育学校として、学校を再編に至った経緯と理由をお伺いできますか。また、 その際小学校、中学校をそれぞれでの再編ということも検討されたのでしょうか。
 - A: 日高市は、6行政区に1小学校・1中学校・1公民館があり、それぞれの特性を生かした文化を形成してきました。今後の児童生徒数の推移や教育的効果等を鑑み、施設の統合を3つの型(施設一体型、施設隣接型、施設分離型)に定め、2つの形態(義務教育学校・小中一貫教育校)で小中一貫教育を進めることとしました。小・中のそれぞれを再編することは住民感情も考慮し、検討の結果1小学校と1中学校を統合することとしました。
- 3 国が進める公共施設再編との関連はありますか。
 - A: 特に関連はありません。
- 4 本年 4 月から義務教育学校を設置したことにより、得られたメリットや表出してきた課題は何かありますか。
 - A: 開校から3か月余りであり、今後成果と課題が明確になると思われますが以下を期待します。 ・学力調査の結果が向上 ・児童生徒の学習意欲の向上 ・小・中学校の教員間で、互いの良 さを取り入れる意識の向上 ・指導内容の系統性についての教職員の理解の向上 ・いじめ や不登校、暴力行為の減少 ・児童生徒の自己肯定感の高まり ・小・中学校の教員間で、 協力して指導にあたる意識の向上

また、デメリットとしては以下が考えられます。

・小中両免許状取得促進(併有化の推進) ・教職員の負担感、多忙感 ・小学校高学年のリーダー性の育成

武蔵台小中学校の子どもたちは、特段の違和感もなく、縦割り清掃や委員会活動等充実した学校生活を送っています。教員間の小中の文化の違いも感じる場面はあるようですが、距離が近くなり積極的に話し合い理解するよう努めています。

- 5 武蔵台小中学校は施設一体型で、今後、小中一貫教育校の開校を予定している高麗川・高萩北 地区では施設分離型、高萩地区で施設隣接型としているのはどんな理由からでしょうか。
 - A: 今後の児童生徒数の推移や教育的効果を勘案して、施設の統合を3つの型(施設一体型、施設隣接型、施設分離型)に定め、2つの形態(義務教育学校・小中一貫教育校)で小中一貫教育を進めることとしました。
- 6 各小中学校、義務教育学校において、児童生徒の通学距離はおおむね何 kmですか。
 - A: 学区により通学距離は異なりますが、全学校(6学区)に「一番遠くから通学している児童生徒は、どのくらいの距離ですか」と質問したところ、6学区のうち2学区で2.0km以内、4学区で4.0km以内と回答がありました。なお、令和7年度に開校予定している高麗

小中学校では、約4.4kmとなることから通学方法を研究しているところでございます。

- 7 義務教育学校において、学校行事(体育祭や文化祭、遠足や各種校外学習など)、クラブ 活動や部活動はどのように実施していますか。
 - A: 学校教育目標達成のため、教育的効果を最大限生かせるように学校行事に異学年交流を積極的に導入し取り組んでいます。修了式、入学式、体育祭等は全校児童生徒で行います。遠足や各種校外学習はそれぞれの学年の目標に応じて行います。クラブ・委員会活動は統一して行います。中学部活動に5・6年生の希望者の参加を認めています。(PM5:00まで)
- 8 制服や体操着など学校指定品はどのようにしていますか。
 - A: 制服については、値段やデザインの検討、その使用の是非も含め、学校(PTA 含む)で検討したことを学校運営協議会で議論し、最終的に校長が決定します。体操服についても同様です。
- 9 各校の学校運営協議会の構成員数および、どのような方が構成員となっているのかお伺いできますか。
 - 1 一の協議会は、委員 12 人以内をもって組織する。
 - 2 委員は、次に掲げる者について、教育委員会が任命する。
 - (1) 対象学校の所在する地域の住民
 - (2) 対象学校に在籍する児童又は生徒の保護者
 - (3) 社会教育法第9条の7第1項に規定する地域学校協働活動推進員その他の対象 学校の運営に資する活動を行う者
 - (4) 対象学校の校長
 - (5) 前第4号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者
 - 3 教育委員会は、前項第1号に掲げる者のうちから委員を任命する場合は、公募する ものとする。

上記(1)地域住民については、「公募」とする。また、学校は、年度末に、教育委員会へ翌年度の委員の「推薦」を行う。教育委員会は、公募結果と学校からの推薦書をもとに、委員の任命を行う。

日高市では、小中一貫教育を導入する関係から各地区一つの学校運営協議会となり、委員の人選は各地区の小学校と中学校で協議した上で推薦する。

10 学校統合にあたり、大規模改修工事も予定されたり、実施されたりしていると思いますが、 国の補助金を活用しているのでしょうか。

義務教育学校 武蔵台小中学校整備工事

令和4年度

(歳入) 国庫補助金 学校施設環境改善交付金 (統合改修): 66,886,000 円

(歳出) 武蔵台小中学校整備工事: 189, 150, 500 円

小学校校舎に中学校の生徒・教員を迎え入れるための改修工事。特別教室の設置や体育館、職員室の改修等を実施

- 11 現在、複式学級となっている学校もありますか。過去にもあったのでしょうか。
 - A: 複式学級は、過去も含めありません。
- 12 市内には6地区に各小中学校1校があり、地域とも密接に繋がっている様子がうかがえますが、保護者や住民からの統合に慎重な(あるいは反対の)意見等はありましたか。
 - A: 地域説明会や学校運営協議会、広報等で周知を図り、おおむね理解を得ていると考えます。 それぞれの地区の小中学校の統合であり、「地域の象徴としての学校」は残るという安心感は あります。

名称については様々な意見をいただきました。また、小中どちらの校舎を使用するかにつ

いても多くの意見をいただきました。これらの課題も学校運営協議会が地域の意見を吸い上げたり、要望書として具体的な内容を市に提示したりして、ある意味で地域との調整役になり統合に向けて大きな力となっています。

- 13 小中一貫教育導入の始まりは、市ホームページによると平成29年度に「日高市小中学校未来構想」を策定し、小中一貫教育導入の方向性を示したことによりますが、この段階で当事者である児童生徒や保護者、地域住民、議会はどのように関わっていたのでしょうか。
 - A: 校長会にコミュニティ・スクールと小中一貫教育について研修会を実施し、令和元年度に教務主任を中心とした小中一貫教育教育課程検討委員会(小中一貫教育推進委員会)を立ち上げ、教育課程の研究を開始しました。また、令和元年度に6地域の保護者、住民に合計12回の説明会を実施し、導入の周知と意見交換会を行いました。また、議会にも導入について説明し、同年6月に記者発表を行いました。
- 14 令和に入り、高萩地区に学校運営協議会が設置され、また地域住民や保護者への説明会が開催されるなど小中一貫教育導入に向けた動きが加速し、令和2年には、市内全地区で「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」がスタートしたとありますが、具体的な取り組みの内容を教えていただけますか。
 - A: 日高市では、平成18年度より、各校に学校評議員制度を導入し、家庭・地域との連携を通して、地域に開かれた学校づくりを進めてきました。そして、平成29年地方行政法の一部改正により学校運営協議会設置が努力義務化されたことに伴い、本市も地域に開かれた学校から一歩踏み出し、「どんな子供を育てるか。何を実現していくか。」という目標・ビジョンを地域と学校が共有し、一体となって子供たちを育む、地域とともにある学校を目指していくために学校運営協議会を設置しました。各地区とも年5回協議会を行います。具体的な取組内容は
 - ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
 - ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べる
 - ③ 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について教育委員会に意見を述べることができる。※具体的な取組については、別紙資料参照

また、地域学校協働本部の立ち上げについても取り組んでいます。日高市では、6地区の学校運営協議会で熟議を重ね、令和3年~4年度に地域学校協働本部立ち上げにかかる説明会を開催しました。地域の健全育成会や区長会、地区の安全を担う団体、企業、文化サークル等様々な方々に呼び掛けて、日高市のコミュニティ・スクールと小中一貫教育、そして地域学校協働活動について理解を図り、協力をお願いしました。また、令和4年11月に第1回日高市地域学校協働活動推進員連絡協議会を行い、日高市の取組や各地区の進捗状況について話し合いました。これまで学校にかかわっていただいた各団体や有志の方、これから協力をいただける方々を組織として整理・統合し、各地域の特色を生かした地域学校協働本部として人材のネットワークを広げ、学校の様々な課題に対応するとともに、地域の方々の生きがいにつなげることを目的として地域学校協働活動を行うことを確認しました。コロナ禍終息の気配が高まり、今年度からの積極的な活動を期待しています。

15 令和7年高麗川・高萩北地区で施設分離型の小中一貫校の開校が予定されています。これらは、長寿命化工事を施すなどして学校施設は統合せず維持し(公共施設の削減と一線を画して)、小中学校が連携・協働しながら、義務教育の9年間の教育活動を行う形に、地域に根ざした小規模校存続の活路を見い出した思いです。施設分離型の小中一貫校開設を検討する際の鍵となる点は何でしょうか。

A: 基本的にはいままでの小中学校がそのまま存続するので、教職員・保護者、児童生徒、そ

して地域を含めた意識改革が必要です。小中一貫教育は「目指す15歳像」を学校・保護者・地域が共有し、地域全体で子どもを育てる風土を醸成することが最も必要と考えます。そのうえで、教員の乗り入れ授業や授業・行事における小中間交流、教育体系4・3・2制による新しい発達段階に応じた学習・生徒指導の在り方を教職員の創意工夫と協力で創造し、保護者や地域を巻き込んでいく体制を築き上げていくことが理想です。

- 16 義務教育学校はきめ細かい指導ができるのか。中学生と小学生では発達の段階が異なると思うが、一つの学校でやりにくいのではないか。中学生がすべて「良い子」ならいいが、そうでない子の集団などあった場合に低学年の小学生へ悪影響があるのではないでしょうか。
 - A: 学校運営協議会や学校再編説明会の質問の中で、低学年がうるさく受験を控えた中学生には迷惑になるとか、遊んでいる時に小さい子に中学生がぶつかると危険だ、という意見も確かにありました。しかし、なぜ、小学生と中学生が同じ環境で学ぶのは無理と決めつけてしまうのでしょうか。小中一貫教育は「目指す15歳像」を学校・保護者・地域が共有し、連続した教育課程のもとに進めていきます。小・中というくくりを「義務教育」として再度見直し、目標に向けて9年間を見通した教育体制を構築することこそ、現在の様々な課題に対応できるものと考えます。学校は社会のルールを学び、他人を尊重する場です。1,2年生が心身ともに成長した8,9年生と一緒に生活すれは、それぞれに様々な交流が生まれ、感情が芽生えます。慈愛と敬愛の心を育み、憧れの人になれるよう、また、なるように自己を戒め、自己実現を追求する教育がそこにあると考えます。いわゆる「不良」というレッテルを張らず、小さい子とのかかわりの中で、自分がどう見られているかを考える機会も大切であると思います。精神的な発達や社会性の育成等の効果を期待します。
 - 17 9年間同じ学校では、人間関係が固定されて、「いじめ」などあった場合の後の導き方が難しいのではないでしょうか。
 - A: 義務教育学校は小・中の教員が一つの学校に勤務しますので、児童生徒にかかる教員数が多くなり、少人数授業やTT授業、教科担任制等が行いやすくなります。このことは、いじめの早期発見や複数の目で児童生徒を見守ることが可能です。4・3・2の学年グループ全体で児童生徒を見守る工夫も出来るので、いじめの防止や事後の対応に複数の教員で当たることも可能です。
- 18 教職員の負担が大きくなりませんか。
 - A: 教員の負担とは何を指すのかにもよるとは思いますが、教育課程の編成(日課表、行事の精選、時数確保、教科担任制・乗り入れ授業その他)、施設の統合では引越し計画・作業など市の財政との予算折衝も含めて計画的に行う必要があります。管理職を含めた教員それぞれが新しい発想のもとに教育効果を高めるための手立てとして、業務を見直したり、見方を変えて考えたりすることは、いつでもどんな場面でも必要なことであると考えます。
- 19 資料によると、以前よりすべての地域に小学校一つ中学校一つ公民館一つがあり、一つの中学校と小学校が一緒になることに抵抗がなかったようですが、保護者、地域の住民の意見にはどのようなものがありましたか。。
 - A: 一つの学校になることに抵抗はありませんでしたが、名称や校舎利用については多くの 意見が出されました。
 - 「○○」学園は相応しくない、伝統ある○○小学校の名前を変えてほしくない。
 - ・○○小学校を使用してほしい
 - ・跡地利用をどう考えているのか、社会体育で使えないか等、廃校後の建物利用について の問い合わせが多い。
- 20 学校運営協議会の構成。開催回数。話し合いでどんなことが話題になっていますか。
 - A: 回数は1地区5回、6地区合計30回、1回3000円の報償があります。 話し合いについては、別紙資料を参照願います。

【参考3】新教科の設定

○生活科と総合的な学習の時間を融合した「ふるさと」学習

ふるさとに愛着と誇りを持ち、ふるさとを愛する態度や、日本の未来を担い世界で活躍できる力を育成するために、1年生から9年生まで系統立てた目標を設定した新教科を実施する。 この新教科は、「生活科」や「総合的な学習の時間」の目標や育てたい資質・能力を含めた学習活動を行うため、「生活科」や「総合的な学習の時間」を含めた教科とする。

1年生・・102時間 2年生・・105時間 3~6年生、8~9年生・・70時間 7年生・・50時間

「義務教育学校並びに中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校の教育課程の特例を定める件」 (平成28年文部科学省告示第53号)に基づき設置するものである。

【生活科】1·2年

「地域の人や身近な自然、公共施設などとの関わりを通して、自分や身の回りの物の良さや大切さに気付くとともに、よりよい生活にしようと自ら働きかける意欲的な態度を育てる。」

- ①学校・家庭及び地域の生活に関する内容
- ②身近な人、社会及び自然と関わる活動に関する内容
- ③自分自身の生活や成長に関する内容

【総合的な学習の時間】

- I 期 「地域の人々や地域を調べ、教師や友達との関わりの中で課題を設定し、課題解決のための調査方法を学びながら調査に取り組み、地域のよさを明らかにし、地域を大切にしようとする態度を育てる。」3・4年
- Ⅲ期 「地域や日高市について調べる中で課題を設定し、これまでに学習した調査方法を活用しながら調査に取り組み、地域のよさと問題を明らかにするとともに、問題を解決しようと参画する態度を育てる。」5・6・7年
- Ⅲ期 「地域や日高市に見られる問題について課題を設定し、調査・探求して解決策を考え、 様々な観点から解決策を検討することを通して、地域をよりよくしようと社会参画する 態度を養う。」8・9年

【生活科】+【総合的な学習の時間】+α=【新教科・ふるさと学習】

【学習テーマ例】 (丸数字は学年)

- ・○○ (地区名) と友達①② ・○○体験③④ ・地域安全③④⑤⑥⑦⑧⑨
- ・職業・福祉③④⑤⑥・農業体験④・自然環境④⑦・○○の歴史文化⑤⑥⑦
- ・職業・進路® ・環境問題⑤ ・国際理解⑥⑦® ・○○の未来®⑨
- ・生き方・キャリヤ・ライフプラン(7)(9)
- ○新教科設定までの手順
 - ①現在取り組んでいる各学校の生活科、総合的な学習の時間、行事等で上記内容に関わりの ある教材を洗い出す。
 - ②新たな発想のもとに、子供たちの「ふるさと」の再認識・再確認を行い、活用可能な教材 を発掘する。
 - ③学習指導要領に準拠し、地域の願いや児童生徒の実態に応じた学習内容について吟味し、 年間計画を作成する。
 - ④地域の人的・環境的資源を生かすため、地域学校協働本部等と連携して地域人材を積極的に活用する方策を考え、年間計画に位置付ける。=コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進

令和5年度 ○○ふるさと科(生活科・総合的な学習の時間全体計画)

◇新学習指導要領第4章目標

探求的な見方・考え方を働か せ、横断的・総合的な学習を行 うことを通して、よりよく課題 を解決し、自己の生き方を考え ていくための資質・能力を育成 することを目指す

◇日高市指導の重点

- ○教育ビジョン
- 「自らの力と人の絆で未来を つくる日高の教育」
- ○日高市小中学校未来構想 目指そう!

「気は優しくて力持ち」

重点 1: 国際社会で活躍でき る教育の推進

重点2:情報活用能力の育成 重点3:コミュニティ・スクー ルを基盤とした小中

一貫教育の推進

生徒指導

- ○児童生徒理解を基盤として、 人一人の児童生徒の能力を生か し、望ましい人格形成を図る。
- ○感謝の心を育て、人の役に立つ体 験を重視する。

人権教育

○人間尊重の精神に基づき、誰 に対しても優しく親切にす る児童を育てる。

学校環境づくり

- ○特色ある教育活動や体験活 動を通してふるさとや地域 を愛し大切に思う心情を育 てる。
- ・あいさつ、清掃指導の充実
- 校内掲示物の整備
- 学年花壇の整備
- 安全点検、補修等の安全確 保、通学路点検
- ・除草作業、環境ボランティア への参加
- ツーデイウォークへの参加
- 合同避難訓練

特別活動との関連

学級の望ましい人間関係 を基盤とし、自分たちの問 学 題をより高い価値観で判 活 断し、解決していこうとす る態度を養う。

児 童生徒 動

ク

ラ

ブ

活

動

校

行

事

よりよい学校生活を送ろ うとする意欲を高め、自発 的な実践を通して、自主性 と豊かな社会性を育成し、 連帯感を高め、他に貢献す る意欲を育てる。

望ましい人間関係を形成 し、個性の伸長を図り、集 団の一員として協力して よりよい関係づくりに参 画しようとする自主的・実 践的な態度を身につける。

諸行事への積極的な参加 を通して、集団の一員とし ての自覚を深め、よりよい 生活を築こうとする実践 的な態度を養う。

小中共通目標【目指す15歳像】 たくましく未来を切り拓き一歩上を目指す台っ子



重点目標

- ふるさとのよさや課題に気づく学習
- ○日高市や○○台地区の自然、文化、歴史、くらし、産業 に関わり、自ら課題を見つけ主体的に考える力を身につ ける。
- 2 ふるさとの魅力を見つけ、学び、まとめ、伝える学習
 - ○体験や調査活動を通して、課題を探求し、解決を目ざす 資質や能力を身につける。
 - ○調べたことをまとめ、伝えることを通して、表現力や思 考力を身につける。
- 3 地域の方々など、様々な人に学ぶ学習
 - ○様々な人の考え方、生き方に触れ、学ぶことで自己の生 き方や将来について考え、未来への道筋を立てる。
 - ○様々な体験や学習を通して、積極的に社会に参画しよう とする。

日高市立〇〇小中学校

参児童・生徒の実態

- ・学力への関心が高い。
- 人懐こく明るい。
- ・伝える力が弱い
- ・不得意なものに進んで取り 組むことができる

◆教師・保護者の願い

- ・現状に満足せず、より高度な ものを求めていく意識改革 を培いたい
- ・対話・協働による学びを大 切にして高い目標を持って 学習する児童生徒を育成し たい

◈地域社会の実態

語

社

숲

算

数

咅

教

科

道

徳

- ・高麗石器時代の住居跡あり。 ・昭和48年に入居が始まっ た新しい街区
- ・多峯主山を背にした森の香 り豊かな環境である。
- ○○台公民館を中心に社会 教育関係の事業を推進して いる。

各教科との関連

発達段階に応じた言語活動を

設定し、調べたこと等を適切

に表現し自分の考えを分かり

社会生活や我が国の国土・歴

庭、社会、国家への愛情を育

資料を適切に選択し、様々な

情報から課題に応じたまとめ

日常の事象についての見通し

をもち、筋道を立てて考える

能力を育成する。数理的に考

察し、理論的に説明する力を

積極的に自然の事象に関わ

り、問題解決の能力を育て

科学的な見方や考え方を養い

真理を大切にしようとする態

音楽性の基礎を培うとともに

に美しさを感じる心を養う。

やすく伝える力を育成する。

史を理解していく中で、家

各ステージの重点目標

第Ⅲ期 学びの発展期 第Ⅰ期 学びの基礎期 第Ⅱ期 学びの充実期

ふるさとを知る ふるさとから学ぶ

- 1年生…学校大好き
- 自分でできるよ
- 季節と遊ぼう
- 昔の遊び
- 生き物となかよし 2年生…春だ2年生
- ・まちたんけん
- ・春夏秋冬のくらし 大きくなあれ
- 3年生…学校のまわり
- 人々の仕事
- 働くってどんなこと
- マップを作ろう
- 野菜を育てよう 4年生…福祉・健康
- 防災・町づくり
- ・交流・仕事調べ

- ふるさとを調べる、 ふるさとから考える
- 5年生…環境・資源
- ・日高市の農業を考える
- 作物をつくろう
- ・ 仕事調べ
- 6年生…国際交流 ・地域の伝統や文化を見 直そう
- おいしい野菜を育てよう
- ・仕事調べ
- 7年生…みんながよりよ く暮らせるように (地域産業・税収)
- ・市役所との意見交流
- 職場体験
- ボランティア活動

ふるさとを変える ふるさとから発信する

- 8年生…みんながよりよ く暮らせるように (乳幼児・福祉)
- ボランティア体験 (幼稚園・保育所)
- ・ 進路調べ
- 上級学校訪問
- 9年生…「みんながより よく暮らせる日高市に するために、日高市民 として提案しよう」(国 際交流・健康福祉・環 境・町づくり・地域経 溶)
- ・市役所に提案しよう
- 進路しらべ

豊かな情操を養う。 楽 义 表現及び鑑賞の活動を通し 工美術 て、豊かな情操を培うととも

度を育てる

をする

身近な生活に課題を見出し、 家 家庭生活をよりよくしようと 庭 する実践の中で、自らの役割 技 を果たそうとする態度を育て 術

適切な運動、健康・安全につ いての理解を通して、運動に 侭 親しみ、健全な生活を営もう 健 とする姿勢や、協力、公正な 体 どの態度、諦めない生き方を 育

外国語や外国の文化のみなら 外 ず、我が国の文化や日本語に 玉 ついて理解を深め、日本人と しての自覚を育成する。 語

・伝統と文化を尊重し、それら 特 を育んできた我が国と郷土 別 を愛し、個性豊かな文化の創 浩を図る人間を育成する。 の ・公共の精神を尊び、民主的な

社会及び国家の発展に努め る人間を育成する。 ・他国を尊重し、国際社会の平 和と発展や環境の保全に貢

献する人間を育成する。 ・未来を拓く主体性のある日本 人を育成する。

○○ふるさと科の指導方針

- ① 児童生徒の興味関心に基づき、主体性を大切にした学習活動を行う。 言語能力、情報活用能力などすべての学習の基礎となる資質・能力を
- 育成する。 3 他者と協働して課題を解決する学習活動や、言語活動により分析し、 まとめて表現する学習活動を行う。
- 自然体験や職場体験、ボランティア活動、生産活動、調査活動など体 験的な学習活動を行う。
- 地域の人的・物的資源を生かし、様々な人の協力を得ながら、全教師 が一体となって指導に当たる。

ICT 環境の整備

- ○ギガスクール構想の推進により、 リモート学習への取組やインター ネットによる調べ学習に利用でき る環境を整える。
- ○調査内容のまとめやプレゼンテー ションなど情報処理端末等用いて 発表・発信できるようにする。

他の学校・機関との連携

○他の義務教育学校や小中一貫教育 校と取組について交流し、活用で きる内容を取り入れたり、情報を 伝えたりする。

119

家庭・地域社会との連携

- ○学校運営協議会、地域学校協 働本部などと連携し、地域人 材を積極的に活用すること などを通して、学校と家庭・ 地域が互いに理解し合い、協 働し合う活動を推進する。
- ○地域の人々との交流を深め たり、地域の行事へ参加した りすることにより、郷土の文 化の理解、発展に努めようと する意欲を育てる。

令和5年度 日高市小中一貫教育推進委員会

委員長 高麗小学校 志村 憲一 校長 澤田 秀一 副委員長 武蔵台小学校 教 頭 委 高麗小学校 教 諭 関 洋介 員 委 高麗中学校 教 青柳 智之 員 諭 委 員 高麗川小学校 主幹教諭 長野 祐子 宮川 尚土 委 高麗川中学校 員 主幹教諭 委 員 高萩小学校 教諭 小林 伸介 釣谷 博史 委 員 高萩中学校 主幹教諭 委 員 高根小学校 大野 翔 教 諭 委 員 高根中学校 教 諭 神田智 高萩北小学校 川北 洋 委 員 教 諭 高萩北中学校 主幹教諭 委 員 岡村 未来 委員 武蔵台小中学校 教 諭 鴨下 義幸





日高市 コミュニティ・スクールを 基盤とした 小中一貫教育

令和6年4月発行 日高市教育委員会 担当 教育指導幹 小坂井 啓二